

の獨占者なりしが、オランダ人の爲に次第に疆域を縮退せしめられ、オランダ人は漸く旺盛の域に進みしも第十八世期の終に強敵イギリス人の爲に漸次侵食せられたり、又アメリカ人はエスマニアに對する勝戦の結果としてフィリッピンを領有するに至れり。

分國 マライ群島の政治上の區分に就きてはアメリカ合衆國に屬する

フィリッピン	二九、六三〇方料	とオランダ	一五二、〇六二八方料	イギリス	四二、〇六〇方料
五、	七六三、五四二六方料	三、	七四九、四〇〇〇方料	四、	八四一、一八〇方料
ホルトガル	二〇、〇〇〇〇方料	に分屬する	インシヨンド	と大	別するを得。

○ フィリッピン

フィリッピン (Philippine) はマライ群島の北部を占め、フィリッピン群島、パラワン (Palawan) 及 ^{スール} (Sulu) の二列島、三千一百有餘の島嶼より成り、フィリッピン群島は北にルソン (Luzon)、南にミンダナオ (Mindanao) の大島を有し、其の間に ^{サマール、レイテ、パ} ^{ホネ、ネグロス、等} を抱括して北より南東に亘り、パラワン列島は南西にありてスール列島は南方にあり、地積は約三十萬方料とす

るの不可なるを見ず。

地震 地産 氣候

フィリッピンは世界有數の地震地方にして震災を蒙ること屢なり、マニラ市の如きは一八六三年の大震に西洋風の建築の殆ど全部を失ひ、一八八〇年の烈震の際には改築宜しきを得たるが爲、僅に災害を減少するを得たり。

氣候は海洋性熱帯候なり、温度 ^{マニラの平均二七度六} 最高三六度、最低一五度の變化は微少にして季節の別を爲すに足らざれども、風向の變動は乾候と濕候との別を生ず、毎年十月より四月に至る主風は北東より來り、四月より十月までの半歳は南西と成り風向の變する際には颶風「バギオ」(Baguio) の起ることあり。

植物には「マングロ」(Xanthostemma verlugoniamum) 菩提樹、肉桂、丁香樹、胡椒、椰樹、檳榔樹等あり、動物には巨大なるものなく、猿猴類、野猫、野猪、水牛、鶉、雞類、蛇類等あり、礦物には富まざるも、金、銅、鉛、鐵、硫黃、大理石、陶土、石油等を有するもの如し。

フィリッピンが西洋人に知られしは一五二一年有名なるマカリネスの探險に始まり而して此の地に對するエスマニアの殖民事業の進捗せしは、フィリッピン二世統治(一五五五—一八九)の際にして、漸次領有を確實にせしが、其の後、争亂相繼ぎて寧日な

沿革

天産

く治政を舉ぐるに違あらざりき、然るにスールーの獲得(一八七六)ありて一新期を開かんとしてせしむる母國とアメリカ合衆國との間に交戦あるや其の結果パリ條約(一八九八)と成りアメリカの保護の下に獨立せんとせしアヒナルド等の計畫は失敗に終れり。

住民

人口の總數は七百萬人にして一方籽二十四人の割合なり。種族に就きて住民の大部分を占むるはマライ派のローマ公教徒或はマホメット教徒なるがタガル、ピサヤ、ビユルも少なからず、此の他にインドネシア派のチングイ、アヌ(ルソン)、マンボ(ミンダナオ)等あり、雜種人あり、支那人(十萬)の勢力は頗大にして白人は多からず、言語は歴史的關係に依りてエスパニア語最、廣く行はれ、土語の中にはピサヤ語を主なるものとす、又來住者の數は一九〇四—〇五年に約二萬六千人ありたり。

政治

アメリカ領なるフィリッピンUの中央政府は行政長官たる總督と立法團とより成り内務、財務及司法、商務及警務、教育の四省を有す、地方は四十州に分たれ、二萬餘の兵を備ふ、一九〇四—〇五年の歳入は六千五百五十萬餘ペソにして歳出は六千六百七十七萬餘ペソなりとす。

産業

鑛業も多少の生産を興へざるに非ざるも最、重要なるは農業にして米、甘蔗、殊に「アバカ」煙草の産あり、此の外、珈琲、綿等の栽培あり、牧業は水牛、牛、馬、豚、軍鶏、鷺等を興ふ、貿易一九〇四—〇五年は漸次發達して貨物の輸入は凡三千八十七萬、ドル(金)輸出に三千二百三十五萬、ドル(金)あるが輸入先は印度支那(五九六)、アメリカ(五七六)、イギリス(四八四)、清國(二九四)、イギリス領印度(二〇〇)等を主とし、輸出先はアメリカ(一五六六)、イギリス(八二九)、香港(二二二六)、フランス(一四九)、エスパニア(一四二)、清國(一〇〇)を主とす、而して主要輸出品はマニラアサ(二二二四)、砂糖(四九七)、コブラー(二〇九)、煙草(一九七)なりとす、又入船は四百十萬噸を超え、鐵道には二百五十籽あり而して太平洋橫斷海底電線にして本群島に揚陸せられたるものあり。

ルソン島

ルソン(呂宋)島はフィリッピン群島第一の大島にして地積は十萬二千七百方籽に近く海岸には屈折少なからずして島内起伏多く山脈は概南北に走れるが各處に火山噴出し、マイヨン(Mayon)(二二七四)、タアル(Taal)(二二三四)等殊に名あり、河流はカガヤン(Cagayan)(三三〇)、マクノ(Agno)、パンパンガン(Pampanga)

gan) パシグ (Pasig) 等著はる。

マニラ

首府マニラ (Manila) (一一九二八) 北緯一〇四度五八分

ラオアング

は卵形の一大灣に

リバ

瀕しパシグ河に跨れり、城塞は左岸にありて官衙、兵營、寺院等多く右岸には

バタンガス

般賑なる商業街あり、本市は商業地として優良なる位置を占むるが工業の

ビサヤ諸島

顯著なるものは煙草の製造なり、リಂಗアイエン (Lingayen) (一一三〇〇) は同名の

イロイロ

灣底にありて地方の農業を集散す、ラオアング (Laoang) (三四四五) は島の北

セブ

西端附近にあり、イラカノスの流域の農産を賣買す、リバ (Lipa) (三七九三四) は

マニラの南南東七十五軒、豊饒の地にありて盛に「アバカ」布を製す、バタンガス (Batangas) (三三一一三) はサンベルナルデノ海峡の西端に於て優勝の位置

を占め木材、農産物等の輸出あり、

ビサヤ諸島はルソンとミンダナオとの間にありてサマル、レイテ、ボホル、セブ、ネグロス、パネイ、其の他の小嶼より成れり。

イロイロ (Iloilo) (一一九五〇四) はパネイ島に於ける開港にして砂糖「アバカ」等を輸出す、セブ (Cebu) (三三〇七九) はセブ島の開港なり、パネイの米、レイテ

アルガオ

の「アバカ」、ミンダナオの蠟、藤、ボホルの砂糖、煙草を集散す、アルガオ (Argao) (三三

五四四八) はボホル島の一都會なり。

ミンダナオ島

ミンダナオ島は群島第二の大島にして九萬六千三百十方呎の地積を有し北岸

及び南岸には深き灣入あり、群島の最高峯たる「アポ」(APO) 火山(三一四五)は本島にありて河湖に豊富なり、首邑ザンボアンガ (Zamboanga) は島の南西端にあり、ブツアン (Butuan) はアグサン河の下流にありて有名な航海者「マガリネス」が本群島に至りし時始めて上陸を試みたる地なり。

パラワン

パラワン (Palawan) 列島はガラミアヌ、パラワン、サウマラン、パラメグの

諸島より成り、パラワン (九七九〇方呎) 長四四五軒は土地佳良なるも人多からず

首邑をプエルトプリセザと云ふ。

スールー

スールー (Sulu) 列島は一に「エラ」(Jolo) 群島とも云ふ、マシラン、スールー

パンケタラン、タプル、タウイタウイの五群より成り、三千七百三十九方呎の地積と約十五萬の人口とを有す、イサベラ、スールーの二邑著はる。

◎ インシリンド

インシリンド (Insulind) の島印度は數多の島嶼より成りて北緯六度と南緯

世界地理提要

あじあ洲

マライ群島

百六十七

十一度十五分との間に位し東西は九十五度乃至百四十一度に亘れり島印度に属する主要なる島嶼は左記の如くなるが殆ど全部を擧げてオランダ領なれどもイギリス、ポルトガルに属する處あり。

- ボルネオ島 ナツナ諸島 アナムバス諸島 リウー群島 リンガ群島
- 島 バンカ島 ビリトン島 大シンド列島 スマトラ、ジャバ、マツラ、バリ
- 小シンド列島 ロンボク、スンバ、サバ、ロンチ、ナモル
- メンタエイ列島 シラバブ諸島 サンギ諸島 セレベス島
- モルッカ群島 南西群島 南東群島 ケイ諸島

其一 オランダ領

オランダ領印度は新ギニアを合はせて東印度と稱せられ、百九十二萬方秆弱の地積と約三千八百萬人の人口とを有す、總督はオランダ皇帝を代表して君臨し土俗之を大君と敬稱す、陸海軍を統督し本國々會の議決せる法律を布き職權内に於て布告規定等を制定す、地方の行政に就きては土地を直轄地、附庸地、聯合地の三種に分ち、ジャバ、マツラを本土若しくは内領と認め

其の他の地を外領と稱す、陸兵は三萬七千餘人、兵艦は二萬八千餘噸あり、財政に就きては一九〇六年の豫算は歳入一億五千二百萬グルデン、歳出一億六千一百萬グルデン、餘を示せり。

東印度殖民地は熱帯に位し植物の繁茂盛にして種々の農産物あるのみならず、亦鐵産多く西洋風の工業も多少行はるるなり、貿易は一九〇四年に於て輸入に凡そ二億七百八十五萬グルデンあるが輸出は二億九千六百五十一萬グルデン近くありて砂糖(八四一二)煙草(四三九七)、珈琲(二〇五五)、錫(三〇〇〇)、石油(一八六〇)、ニオブラー(二三〇四)等より成る、入船は八百四萬七千佛噸に達し、商船は三十四萬佛噸を超え、鐵道に二千三百六十秆、郵便に千五百七十七局、電線に一萬八千二百餘秆、電話線に三萬五千餘秆あり。

内領

ジャバ (Java) || マツラ (Madura) 二八七、四六六、三八八 方秆は内領と稱せらる、ジャバ島は長一、千秆、最大幅百九十五秆あり、海岸線は三千五百三十秆に達するが、北岸は平低にして彎曲少なく、南岸は絶崖多く、島嶼乏しく、港灣少なからず、土地は起伏甚しく、殊に西部、中部は山岳に富み、風色秀麗にして

ジャバ島

禿瘠の地極めて稀なり、火山の總数は四十五座と算せられ、ガランゲン(Galangung)、メルバン(Merbun)(一一〇)、ンロモ(Bromo)(二五七七)等は活火山なり、地震は多きも強激なるもの稀なり、土地狹長なるに拘らず本島の北斜面には流域の著しき水脈あり、タルム(Tarum)(二四〇)、ソロ(Solo)(五〇〇)、フランタス(Bantas)等之なり、氣候に就きてバタビアに於ける觀測に依れば氣温は極めて變化に乏しく、暑月は五月(二六三)、寒月は一月(二五二)にして雨量は年二〇七極なり而して十二月より三月までは南西風、五月より九月までは北東風なり、植物に就きて樹木の壯觀を呈するは六百乃至二千米突の地なり、動物には、ネズミ、シカ、犀、野牛、虎、鱉、食火鶏等あり。

ジャバ島の歴史はバラモン教並に佛教傳來時代(西紀前一二世紀)マホメット教徒優勢時代(十二世紀)西洋人渡來時代(十六世紀)の三期とせらる、十六世紀の始、ポルトガル人來りて數處に貿易場を設けしが一五九六年ホウトマン始てバンダンに到達し東印度會社の設立(一六〇二)、ジャカトラの開設等ありて漸次にオランダの勢力擴張し一時イギリス人の占據(一八一〇—一五)せしことあるも爾來オランダ人は安穩の中に本島を所有す。

バタビア

バタビア(Batavia)(一一、五八八七)南緯一〇六度四分は土名をジャカトラと云ふ、東印度の首府にして若干の市街の集合より成るが、其のクンジャンプリオ(Tandjong Priok)は新設の港にして船舶の出入に便なり、住民は土人七、七七〇〇、支那人二、六八一七、西人、其の他より成れり、タンゲラン(Tangerang)(三、〇〇〇)は首府の西にありて帽子、敷物等の竹細工を製す、ポイテンソルグ(Poitenzorg)は海拔二六五米突の地にありて宏大なる植物園を有し、事實上の首府なり、セマラン(八、九二八六)(Semarang)は海岸より二軒の地にあり、三大市場の一にして砂糖、珈琲、煙草、印度藍等を集散す、スラカルタ(Soekarta)(一〇、九四五九)は本島第二の都會なり、ソロ河の支流に瀕す、スラバヤ(Soerabaya)(一四、六九四四)は東ジャバ第一の都會、本島屈指の市場にして造船に従事す、市街はブランタ河の左岸に位し、トレクタル海峡に優良なる港を控ゆ。

外 領

スマトラ島(Sumatra)島 四二、〇三八二方軒 三、一六、八三一二人はマライ群島第二の大島にして西に印度洋、北にバルマ海、東にマラッカ海峡、南海、ジャバ海を控え、南

はスング海峡に面し、長、二千七百六十軒、幅、百六十乃至四百軒あり、印度洋に

セイラン

スラカルタ

スラバヤ

スマトラ島

面する地は彎曲に乏しく概平低なるが内海に接する處は屈折稍多く絶崖
少なからず急峻なる山脈は西岸に屹立して全島を貫き六十六座以上の火
山を有しアポングアポング(三四〇〇)シノボング(三七〇〇)等名あり而して
東方に向ける地には沖積平野多くしてインドラギリ(Ludra Giri)ヂンビ(Djambi)
三)パレンバン(Palembang) (ムシ)三五〇)等灌溉航通の便を供する河流に乏し
からず氣候は炎熱を感じ雨量一般に多く地味甚肥沃なり天産には猩々、猿
猴、鰐魚あり、コソフ、檳榔、バンノキ、肉桂あり、金、石炭、石油あり。

アチエー(Acheh) (三〇〇〇〇)は同名の一國の首都にして海を距ること約五
斤アチエー河畔に位し盛に胡椒を輸出す、附屬港をオレーレー(Ole-leh)と云
ふ、パダン(Padang)は西岸第一の繁華なる土地にして珈琲の集散に従事し
本島屈指の市場たり、コック(Koek)はパダンの高地に據れるが堅固の要塞地
なり、パレンバン(Palembang) (五三七八八)は本島第一の都會なり、海岸を距る
こと一百斤の地にありてムシ河に跨り船舶の來往繁くして煙草、米、ゴム、シ
タ等を集散す。

アチエー

バンカ島

バンカ(Bank)島 一、一五八七方料 海峡を挟みてスマトラに對す、錫の産
地として著はれ、ムントク(Muntok)港を有す。

ピリトン島

ピリトン(Biliton)島 四、八四二方料 錫鑛の發見ありしより住人増加せり、
タンヂオン、ハンメン(Tandjong pandang)は交通上の要衝に當り有望の地とす。

ボルネオ島

ボルネオ(Borneo)島はマライ群島第一、世界第三の大島にして南北一千二
百五十斤、東西一千一百斤ありて、面積は七十三萬乃至七十八萬方料あり、北
東部は多少屈曲せざるに非ざるも、海岸線は六千四百二十斤の延長を有す
るに過ぎず、山脈は北東に於けるキナバル山(至三六〇〇)并に南東に於け
るタナラウト山脈を除けば概して東西に走り、別に孤立せる山脈丘陵あ
りて四條の分水山脈を爲し、バリト(Bario) (一〇五〇)、マハカム(Mahakam)
(九六〇)、カプア(Kapui) (八〇〇)、レヂヤン(Redjang) (五〇〇)、カハヤン(Kahayan) (五五
〇)の五大流域を形成す、バンヂェルマシに於ける各月平均は二十五度七乃
至廿七度七にして年平均は廿七度二なり、全島到る處雨多くし夜間の濕氣
甚強く不健康地なり、而して植物は盛に繁茂して、マンゴ、ローブ、ニコヤシ、檳

椰子、セゴノキ、竹、藤の類あり、動物には狸々、象、犀、ギボン(Hylobates Miller)、熊、虎、鯨、鯉、金絲燕あり、礦物には石炭、鐵、水銀、アンチモニー、金、金剛石等あり。

住民は數多の種族より成れるも、主要なるものはインドネシア派のダヤクにして生熟の差あるも沿海地以外全島に居住せり、本島はオランダ、イギリスの兩國に分屬するがオランダ領の地は其の大部に當り西ボルネオ五、九五方料、四一、南及東ボルネオ七、四〇、八一、四五方料の二州を爲せり。

三〇、六七人、**ポンチアナック**(Pontianak)一、五〇〇〇はボルネオの西岸に位する自由港なり、**バンヂェルマシ**(Bandjermasin)五、一八三〇は全島第一の都會なり、**バリト**河の支流**マルタブラ**河に跨り**インシリン**屈指の商港たり、**サマリダ**(Samarinda)一、〇〇〇〇は**マハカム**河に沿ひ藤、グタバ、ベルチア、木材、蜜、燕窩等を集散す。

セレベス(Celebes)島一、四三、八四七、八方料は狭長なる四半島より成る一奇島にして北東端より南端まで一千三四百軒あり、海岸は概平低にして接觸に不便ならず、土地高隆にして山岳に富み活火山存在し地震多し、河流は大

バンヂェルマシ

セレベス島

マカッサル

アンボイナ

北ボルネオ

ラバン

らざるが湖沼多く、本島は同温線二十五度乃至二十七度五の間にあり、島の部には若干の獨立地あり、**マカッサル**(Makassar)二、一三九九即ち**マンガカッサル**(Mangkassar)は優良なる自由港を有し**ラカララ**油**マカッサル**油**珈琲**等を輸出す、**メナド**(Menado)一、〇〇〇〇は**セレベス**島の北東にあり自由港を有す。

其二 イギリス領

アンボイナ(Ambonia)島は**モルッカ**群島中の一小島にして自由港たる**アンボン**(Ambon)は丁香、肉荳蔻等を集散す。

イギリス領は**ボルネオ**島の北部より西部に亘りて**北ボルネオ**、**ラバン**、**ブルネイ**、**サラワン**の四部より成れり。
北ボルネオ(North Borneo)一、八〇、五六一、一方料は**ボルネオ**島の北部を占め約一千五百料の海岸線を有す、土地は**北ボルネオ**特許會社に屬し知事は**サンダカン**(Sandakan)に居りて九州を管理す、住民は沿岸に**マライ**人、**アラビヤ**人より成れる**マホメト**教徒多く内部に土人あり、貿易高は七百二十萬ドルにして蜜蠟、燕窩、椰子、セゴ、等を輸出す、鐵道、電信等の利便も多少有せり。

ラバン(Labuan)八四、一一人は**ボルネオ**の北西岸にある小島なり、一八八九

ブルネイ

サラワック

○年を以て北ボルネオ会社の兼轄と成りてポートビクトリア (Port Victoria) ポートラッパ (Port Raffles) の二港を有す。

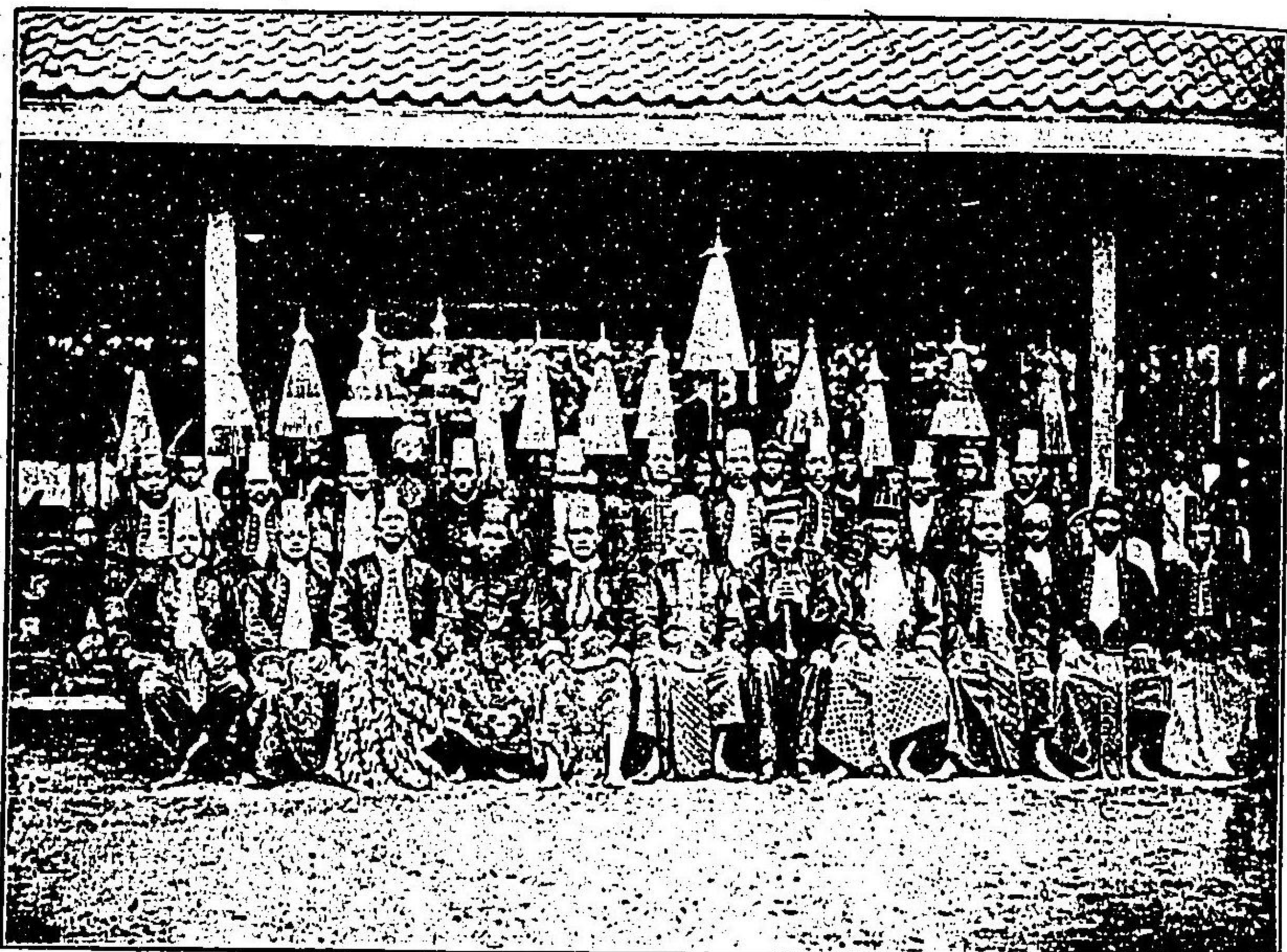
ブルネイ (Brunel) 國 五〇〇〇〇〇人 方料はボルネオ島の北岸にありて一八八八年以來イギリスの保護を受け住民は漁業農業に従事す首邑アルニ (Alor Gajah) は刃物、銅器を製す。

サラワック (Sarawak) 國 三〇〇〇〇〇人 方料はボルネオ島の北西部を占め貿易は輸入に約五百四十八萬「ドル」輸出に七百五十七萬三千「ドル」あり首邑カチン (Kuching) は海岸を距る三十七軒に位し君主ラヂア (Rajah) (イギリス人ブルックの子孫たる) の住する處なり通商の中心として隆盛に越けり。

其三 ホルトガル領

ホルトガル領はチモール島の東部四十七邦と西部の三邦との外にカンビング (Kamling) 島あり地積は一萬六千二百四十八方軒住民は二十萬人あり首邑をダリー (Dali) と云ふ。

チモール (Timor) 島は小ソンドラ列島中の最大最東の島にして地積は約三萬方軒あり海岸は南方に絶崖多く北方に平低なり内部は火山質の岩石に乏しく氣候は著しくオーストラリアの影響を蒙り生物の分布上アジアオーストラリアとの間にあ



土家管理官 (Régents) [シアバー島]



マングローブ (Mangrove, Rizophora mangle) [セイラン島]
ココヤシ (Cocos nucifera)

マングローブ (Mangrove) は特殊の海岸林にして
マライ群島、セイラン島、沿海アフリカの或部、中央ア
メリカ、グイヤナ、等に存す、樹種には「マングル」(Rh
izophora mangle)、「キヨロキ」(紅樹) (Bruguiera gym
noriza) 等なるが、症状を呈する樹根は水中に群生して
柵を爲し泥砂を沈止せしめ以て陸地を構成せしむるにな
りて力ありとす。

りて過渡の地たるを免れず。

● 印 度

印度はガンガ(恒河)或は印度支那半島に對して内、恒、河、印、度、或は前、印、度、と稱せらるることあり分ちて印度半島及セイラン島の二部とす。

◎ 印度半島

位置 印度半島は一に内、恒、河、半、島、と云ふ、アジアの南部に於ける三大半島の一にして極南はコモリン岬の北緯八度五分に起り、極北はカラコラム山脈の北端北緯約三十七度に達し、西はシンドの西端に於ける東經六十七度三十分より東はアッサムの東端東經約九十五度に至る。

境域 北はカラコラム山脈、ヒマラヤ山系を以てチベット高原に接し、東は印度支那に境し、南東はベンガル海、印度洋に臨み又バルク海峡、マナアル海を以てセイラン島と境し、南西にはアラビア海を控え、西はソレイマン山脈

世界地理提要 あじあ洲 印度

面積

キルタル山脈等に依りてイラン高原に連なれり、長は三千五百二十軒幅は二千八百十二軒に達し、面積は三百八十萬方軒あり。

海岸 沿海の地は其の形状極めて單純にして彎曲に乏しく概平低なり、従て海岸線の延長は一萬軒に達すれども西岸に於て僅に一二の良港を見るのみ、海灣の主なるものにベンガル海、マナアル海、アラビア海、カンベール海あり、海峽にバルク半島にグジュラット、カッチ、地角にバルミラス、カリメレ、コモリ、ン、チウあり、島嶼にシアカプア島、スリハリコタ島、アダム橋列島、マルヂバ諸島、ラツカヂバ諸島、ボンベール島、サルセット島等あり。

山誌 印度半島の主要なる山脈はヒマラヤ、カラコラムの外にアッサム、アラバリ、ビンヂヤ、サトブラ、西ガッツ、東ガッツ等あり。

- ヒマラヤ山系
- チマラリ(七二九八) ドンキア(七〇五一) カンチンジンガ(八五八二)
 - エベレスト(八八四〇) ガカリサンカル(七一三〇) アク(七四二〇) ダワラギリ(八一七六)
 - ナムバ(七一三〇) ナンダデビ(七八二〇) カメット(七七五五) ナナ(七一三五) ナンガパルバット(八一六)
- 北部 カラコラム山脈(ガシエアルム(八〇三五) ダブサン(八六一九))

アッサム山脈

- 北部(アラバリ山脈 七二二三) ビンヂヤ山脈 サトブラ山脈 マンブレスワ
- 南部(西ガッツ山脈 アナマリ(二九五七) フダベッタ(二六七〇))
- 東部(東ガッツ山脈)

ヒマラヤ山系

原との境を爲し幅二百九十乃至三百五十軒あり、南北の二脈より成り平均海拔は五千二百乃至五千八百米突にして其の高峻なること世界無比なり、山岳の王たるエベレストを始とし七千米突以上の高峯少なからず、氷河は多けれどもミラム最著はる、又本山系を横ぎる通路は其の數少なからざるも僅に狹隘なる山道を供するのみ。

カラコラム山脈

カラコラム(Karakoram)山脈は五千五百乃至五千八百米突の平均海拔を有し、世界第二の高峯たるダブサン即ゴドウィンアウステン、の如きは實に本山脈に屬せり、雪線が南面に於て低きことはヒマラヤと同じ、氷河は少なからざるがバルトロと稱せらるるものは長六十五軒に達すと云ふ。

世界地理提要 あじあ洲 印度

アラビア山脈は九百米突を超ゆるもの多からず、サトアラ山脈は平均九百米突に過ぎず、又西ガツ山脈はアラビア海の岸を距ること四十八乃至六十料にして平均一千二百二十米突の海拔を有するが、東ガツ山脈はベンガル海の岸を距ること八十料乃至百三十料にして平均四百六十米突なり。

河流

水誌 河流に就きてはベンガル海斜面にブラマプトラ(二五三三)ガンガ(二七〇八)サバンリカ(五〇七)バイタラ(五五五)ブラマニ(六六〇)マハナチ(八三七)ゴダベリ(一四四六)クリシナ(二三〇〇)北ベンナル(五七一)カウベリ(七六一)等ありてアラビア海斜面にインドス(三一九〇)ルニ(五一五)ナルバダ(一二八二)マヒ(五六三)ダプチ(七二四)等あり。

アラマプトラ河

アラマプトラ(Brahmaputra)河は印度三大河の一なり、チベットを流るるヤルザンボの下流とするは殆疑を挾むの餘地なきに似たり、源委通じて二千五百料に餘り流域は百五十萬方料に達して多量の水を輸送し來るも寒冷の地、人口稀薄の土を潤すに過ぎざれば効用は甚著しからず。

ガンガ河

ガンガ(Ganga)河はヒマラヤ山系に發す、奔流すること長からずして低地

に出でて流勢漸緩漫と成りベナレス附近を流るる頃には九百十四米の河幅を有し、下流はブラマプトラと共通の三角洲を形成するが、末流の一派たるフーグリは通舟の便甚多し、源委通じて二千七百料を超え流域は九十三萬方料乃至百餘萬方料と算せられ、平野の地に於ては幾多の流水を分派し人生を益する點に於ては世界第一の流水たり、支流の主なるものはジムナ(二三八四)ゴグラ(九六〇)グムチ(八〇〇)ガンダク(六四〇)クシ(五二三)ラムガンガ(四八三)等なりとす。

インドス河

インドス(Indus)河即印度河はチベットより來りアトクに於てカブール河を受くる頃には海拔三百米突内外の地を流れサドレデベアス、ラビ、チナブ、デヒラムの五河より成るパンジブの五河を受けて水量を増しインドヒラシ山脈の麓を流れて八千方料の三角洲を抱き遂にアラビア海に注ぐ、而して河長と流域とはガンガに優れるも効用は彼に及ばざること遠し。

沼湖

沼湖の大なるもの更になく、チルカ湖、カッチ湖最著し。

地勢 印度半島は地勢上之をヒマラヤ山地、ヒンヅースタン平野、デカン

世界地理提要 あじあ洲 印度

平野

臺地

臺地の三部に分つことを得、而して平野はインドス河及ブラマプトラ河の下流地并にガンガの流域より成りて、西の方ソレイマン山脈より起りて東の方ガロス山脈に達するが、長は二千八百軒、幅は百五十乃至五百軒ありて、面積は約七十八萬方軒なり、又臺地は六百乃至一千米突の海拔を有するが、北部のビンヂャ地方、東部のゴンドワナ(Gondwana)地方、中部のデカン地方、南部のトラワンコール(Travancor)地方に分たる、而してインドス河の左方に於けるスール(Thar)即、印度沙漠が一般に不毛の地なるは言を要せざれども、豊沃なるガンガの平原にも、ライの如き濕地あり、ルニ河の注入する處には乾濕常ならざるカッチ海(Rann of Katch)あり。

氣温

氣候 氣温に就きて述べんに、ヒマラヤ山中に於ける谷地にありては、温度は季節、海拔、緯度に依りて變化し、日光を受くるの度に從て著しく昇降するも、其の他の地にありては、温度の高低は南北に依ることなくして、東より西に越くに從て差異を生ずるが如し、而して一月と七月との平均温度の差は半島の南端に於ては四度に過ぎずして、マドラスの六度五分、ボンベ-

雨 風

の六度二分、カルカッタの十度九分なるが、カルカッタより西方に向ひて行けば、ペナレンスの十八度五分、ラホルの二十二度三分なり、又極寒、極暑はマドラスに十七度及四十二度にして、パンジブに零度と五十度なり。

風は六月より九月まで、南西の季候風并に南東又は南の定風ありて、北東の定風は乾風なり、雨量はアッサム、ベンガル、マラバル地方に多く、特にベンガルのチエラプンジにありては、十二米突以上に達せり、又ガンガの中流并にオリッサ地方は、二米突内外にして、其の他の地は、一米突以下なり、ラヂプタナ地方にありては、雨量甚だ少なくして、一粉以下なりとす。

季候風の方向を變ずるに際しては、旋風と云ひ、颶風と稱する暴風の起ることあり、沿海の地は、海嘯の害を蒙り、河水は氾濫して、田野を荒し、家屋を破壊し、人命を傷ふ、其の損害は甚だ大なりとす、且又日光の激烈なる、土地の濕氣をして、放散せしむること極めて速なれば、降雨の少なきときは、忽ち乾魃に成りて、毫末の收穫をも見ること能はず、斯る場合には、世は饑饉に苦められ、惡疫流行し、幾多の人命を傷ふ、其の悲惨の狀態は、此の地に世界無比の良土た

植物

動物

礦物

りとの佳評あるを疑はしむ。

り天産 氣候炎熱にして土地極めて豊饒なれば生物の繁殖は豫想の上に出で植物は綠樹翁鬱として各地に森林を爲し籐の類は各處に茂生して廣大なる區域を蔽ひ「チーク」沙羅雙樹 (Shorea robusta) 「ロマンヤスキ」(Cedrus deodora) 白檀黒檀「コロヤシ」「コロソ」鐵樹 (Mesua ferrea) 「バニヤン」樹 (Ficus religiosa) 等あり、米綿黃麻 (Corchorus orlonius, C. capsularis) 芋麻、桑「ナンメヤシ」煙草「コマンナギ」罌粟、茶「キナ」白荳蔻等あり、動物の生育も亦頗盛にして猫類、豺、野犬、熊、象、犀、猪、羊、類牛類、猿猴類、禽類あり、「コブラチカヘロ」(Naja tripudians) 「ダボイ」(Russiia) は虎豹と共に人命に危害を蒙らしむると少なからず、鱷 (Crocodilus biporcatus) 「ガビヤン」(Gavialis gangeticus) も亦河沼に産す、家畜には水牛「セブ」、牛、馬、驢、駱駝、綿羊、山羊、等あり、礦物に就きては豊富ならずして、石炭、鐵、岩鹽、銅、鉛、金、銀、亞鉛、錫、石油等あり、而して世には寶石に富めりと稱せらるるも、コルコンドの金剛石は殆ど有名無實にして僅に石榴石、水晶、瑪瑙、玉類、等あるのみ、然れども建築に供すべき佳良なる石材には乏しからず。

人口 種族

住民 人口は十九世期の始に於て約一億を得しが一九〇一年に於ては二億八千八百三十萬人ありたり、種族に就ては印度最舊の住民は黒種にしてネグリト派及オーストラリア派あり、然るにブラマブトラの谿谷より侵入せし黄人は黒人と混淆して、前ドラービダ派（ビル、コイル、ゴンド、ソンタル、ダイン、等）と成り之に加ふるに更に黄血を以てせしものはドラービダ派（テルグ、タムル、カナラ、マワヤラン、ツル、等）と成れり、而してヒマラヤ山脈に接する高谷の地には純黄種たるチベット派并に印度支那派あり、又ハイバル峠を経て、カブルの谿谷より來住したる黄種のツラニア派（ガア、ハット、シク、マ、ハラット、等）及び白種のアリア派（カ、ル、ハ、ダ、ル、サ、カ、シ、ミ、ル、等）あり、甲者は住人の體格を改造し乙者は精神に資する所多かりき、西紀四世期頃に移住したるはラヂプト派（ラヂプト、及び、パンデラ、等）にしてムズルマンの來侵は十一世期以後なりしが、近代に至りてはホルトガル人、フランス人、イギリス人、等の渡來を見たり、且、バルシ及ユダヤ教徒も亦白種に屬せり、要するに印度には古來外人の回を重ねて波濤の如く來侵せしのみならず、相互に混化錯綜して幾多の複種を生じ、雜種の主なるものはヒンヅーにして一億二千萬人と算せ

宗派

學校

言語

種姓

られムハイン、ミナル等之に次げり。

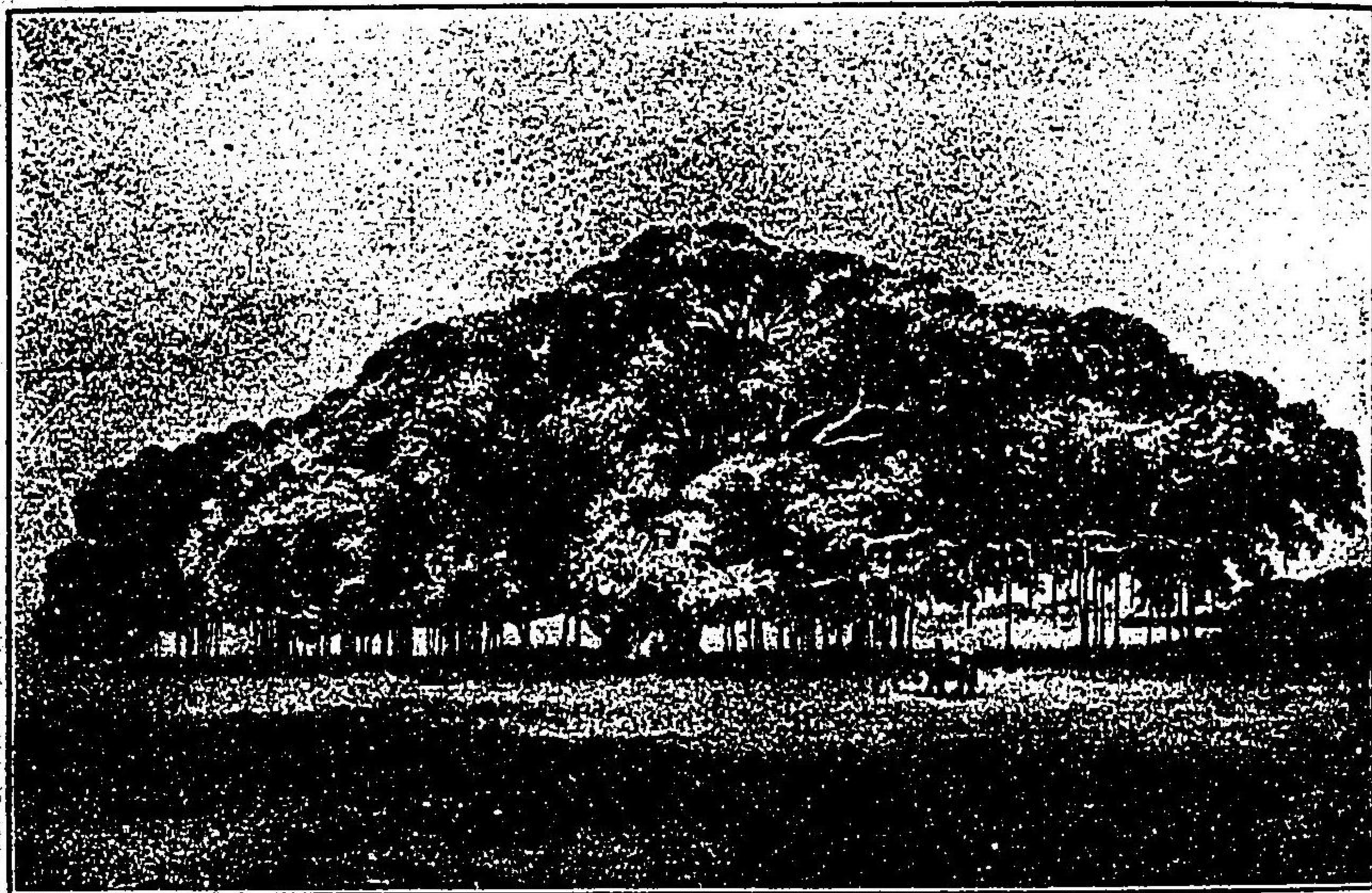
宗派。は其の種類頗多きも最も多くの信者を有するはヒンド教(二〇七一四萬人)にしてマホメト教(六二四五)之に次ぎ、此の他に佛教(九四七)、キリスト教(二九二)、ジアイナ教(一三三三)等あり、學校。は諸種に亘りて建設せられたるも大學はカルカッタ、マドラス、ボンベイ、バンジャブ、アラハバードの五ヶ處にあるが普通教育は進歩せず、又印度に於て用ひらるる言語は凡百二十種ありてヒンヂ語(八七一四萬人)最も多く使用せられ、ベンガリ(四四六二)、テルグ(二〇七〇)マラーチ(一八二四)、バンジビ(一七〇七)、タミル(一六五三)等之に次げり。

印度住民中に於ける社会的階級は顯著なり、最高級を占むるものはブラーミン(Brahmins)即ち、ラモン教の僧侶にしてクシトリア(Kshatriya)即ち、軍人之に次ぎ、中に於けるバイシヤ(Vishya)即ち、平民は地主又は商賈たり、其の下にスードラ(Sudra)即ち、役夫あり、最下級にパリア(Paria)即ち、奴隸ありとするは通常の説なれども目下印度の種姓は三四に止まらずして殆ど無數なりと稱し得べく、ベンガル地方のみにて一千以上に達すと云ふ而して相接する二地方のブ

ラーマヌ僧にして互に交際するを忌み又所謂最上級の人民にして漁業、牧業、農業等を營むが如きことあり。

沿革 太古パンジャブに移りしアーリア人は漸次に蒙昧なる蕃族メルリツ(Mellichs)を驅り文化の稍進みたる土族ダシウス(Dasyus)を従へてヒンズースタン、其の他を占領せしがアレクサンドル王の侵入せし頃(四紀前三三二)に當りても幾多の邦國に分かれて未だ統一せざりしに似たり、既にしてマカドニア(國都は今のマケドニア)のマケドニア朝(前二六九)は北、中、西の三印度を領し、アンドラ朝興りて南印度、中印度を併せたり、先之大月氏は塞種に代りてギリシア、バクトリア王國を建てし、カニシカ王の死後其の國威漸く印度に振はず、アンドラ朝も亦衰へてグプタ朝(後三七〇)全印度に號令せり、下りてガズニの「スルタン」の侵入(一〇八六)あり、ゴール朝(一一〇六)奴隸王朝(一二九〇)相次でヒンヤ山脈以北に起りしも後者は元兵の侵掠を蒙りて滅びキシル朝(一二九〇)のアラウワケン朝と全印度を統一せんとして果さず、トケラック朝(一四三二)はデリーに、バハマンニ王朝(一四五七)はデカンに起れり、而してバハマンニ王朝は五國に分裂し、トケラック朝はナムレンク朝の侵入(九八三)を蒙りて大に勢を失ひしかば遂にサイッド王朝(一四四一)ロヤ王朝(一四五〇)の興起を見、又ナムレンク朝の裔バハマンニ朝(一四五七)を建設するに至れり、此の帝國はアウラングゼン(一七〇七)の時殆ど印度を一統せしも帝の死後國運傾きマラーッタ

世界地理提要 あじあ洲 印度



「バナヤン」樹 (Ficus indica)



カトマンヅ (Kakmandu) — 寺院

同盟の勢威は十八世期中頃に至りて殆ど全半島に及べり。
 十五世期の頃ヨーロッパには遠洋航海の風盛に起りてバスコダガマ先印度に達し(四九)ポルトガルはゴアを占領(一五)すること成れり、其の後イギリス(一〇六)フランス(一〇四)等の東印度商會成立しヨーロッパ諸國はムールカッ帝國の衰運に乗じて各計畫する所ありイギリスはマドラス(三九)ボンベイ(六一)カルクッタ(四二)を得、フランスはボンナシユリ(七三)を得しが遂にイギリス、フランスの衝突を來たし、ブラッシーの戦(五七)の後、フランス人の勢頗る衰へたり之に反してイギリス人は益々印度の經營を試みてムールカッ帝國を保護國とし(一八)印度の殆ど全部を従へ(四〇)虚名を有せるマホブト教帝國を滅せしが(五七)シバイの騷亂の後、東印度商會を廢止して政權を本國の手に移し(五八)イギリスの女皇は印度女帝の稱號を取るに至れり(七七)而して一九〇五年に締結せられたる日英攻守同盟は印度にも適用せらる。

分國 廣大なる印度半嶋はネパール、ブータン、イギリス、ポルトガル、フランスの五國に屬せりと雖、ネパール、ブータンの二小國は稍獨立の體を有するに過ぎず、ポルトガル、フランスの領する處は眞の彈丸黒子にして印度の大部を有するものはイギリスなり。

其一 獨立國

バナヤン樹 (Ficus indica) は印度人の「ロベン」

(Ficus)にして菩提樹 (F. religiosa) と共に聖樹と認めらる、一樹にして小森林を爲すものあるが殊に有名なるは「ホッケーナ」(Corhiar)にして周囲は六百五十米突に達し樹幹は六百三十餘株を算す、三千年以上の壽を有る居ると稱せらる。

ネパール

ネパール (Nepal) 國は中央ヒマラヤ山系に據りて北はチベットと境し東南及び西はイギリス印度と境す、長さ八百軒幅の平均二百四十軒ありて面積は十五萬四千方軒あり、此の國は山脈の斜面にあるを以て領土の大ならざるに拘らず、氣候は各處一樣ならずしてテライの地方は比較的温和なり、人口は三百萬と稱せられヒンド教のグルハあり、佛教のネワルあり、蒙昧なる蕃族ありて數多の種族に分かる、政治上世襲の王マハラヂ(Devala) (Maharadscha, Dhirdsch) あれども實權は重臣の手にあり而して清國に尙多量の貢物を致し、イギリスの駐在官は少許の兵を率ひて首都にあり、ネパールの常備兵の數は凡二萬六千なり、イギリス領印度との貿易高一九〇四—一五〇〇は四千百三十八萬ルーピーなりとす、首都カトマンヅ(五〇〇〇〇)は海拔一三二七米突の地にありて六百餘處の寺院を有す、パツン(二、五〇〇〇)は舊都の地なり。

カトマンヅ

ブータン

ブータン (Bhutan) 國は東ヒマラヤ山系に據り北西より東はチベットと境し其の他はイギリス領のアッサム、シッキム等に境す、東西二百六十

世界地理提要 あじあ洲 印度

籽輻百五十籽に近く、面積は三萬四千籽と算せられ、人口は二十五萬人(或は四十萬人)ありてチベット語を用ひ佛教を奉ず、政治上の組織も亦チベットに類し「デブラーディー」(Dheh Rajah)は少數の有力者の推舉に依りて俗界を支配し、精神界の長たる「ダルマラーディー」(Dharma Rajah)は化身に依りて選ばる、タシスードンは海拔二千米突の地に位して夏季の首府たり、プナハは冬季の首邑なりとす。

其二 イギリス領

政治 印度半嶋は僅少なる部分を除く外悉くイギリスの版圖に屬して印度帝國 (British India) の主要部を爲せり、本國ロンドンにある印度事務省は會員十人を下らざる評議會に依りて補助せられ、カルカッタ夏季はシムラに駐在する總督、即、副王はイギリス皇帝に依りて任命せられ、又之を代表して各般の政務を統理す、總督補佐の任に當るものに總督府高等會議 (Supreme Council) あり、總督府は内務、外務、財務、軍務、土木、租稅、農務、商務、法制の八局より成りて政務を分掌し、高等會議は常設議員、臨時議員等より成りて法律の律定に參

印度帝國

與す、司法に就きては高等法衙をカルカッタ、ボンペー、ハイダラバード、マドラス、アラハバードに設くるが最高法院はロンドンにありて終審を與ふ、地方には知事、副知事、管理官、駐在官等を置きて各其の地の行政を司らしむ、本領地には直轄地と保護地との二種あり、直轄地を大別して十四區とし、保護地は各土侯の君臨するあるも一國或は群邦に對して監督するの任務を帯ぶる、駐在官或は管理官の援助忠告を受く、而して此等の諸國と印度政府との關係は其の規を一にせざる所あれども一般に宣戰媾和規定以上の兵を設くること等を禁せられたり、又朝貢は必ず致さざるべからざるものあるも亦然らざるもあり。

行政區劃表

印度帝國	地	積	人	口	に方	付料	首	府
直轄地(州)		四八二、六〇〇 <small>方籽</small>	二、九五二、三〇〇	六一	カルカッタ	シムラ		
パンガル		二八四、三四七	二、三〇七、二八三	八二	カルカッタ			
北西州 <small>リオード</small>		二九、九九五九	五〇七、二〇六七	一六九	カルカッタ			
		二七、七五四三	四七六九、一七八二	一七九	アラハバード	ナイニ谷		

世界地理提要

あじあ洲 印度

百九十二

メソポタミア	一五、一七六一	二〇三三、〇三三九	八一	ラホール シムラ
北西國境州	四、二六四五	二二、五四八〇	五〇	パシアワル
*パルチスタン	一一、八六二八	三〇、八二四六	三	ケッタ
アジミルメルワラ	七〇二一	四七、六九一二	六八	アジミル
ホンヌー	三一、八五一六	一八五、五五八七	五八	ボンペー
アデン	二〇七	四、三九七四	二二	ブーナ
中央諸州ペラル	二五、九八八三	一一九、一六七〇	四六	ナクブル
クールグ	四〇九七	一八、〇六〇七	四四	パンガロール
マドラス	三六、七〇五五	三八二〇、九四三六	一〇四	マドラス
東ベンガルアッサム	二七、四八六六	三〇九六、一四五九	一一三	ウタカムンド
バレー	六一、三二二六	一〇四九、〇六二四	一七	シロング
アンダマンニコバル	八一四〇	二、四六四九	三	ラングリン
保護地(所屬諸邦)	一七五、九五五九	六三四六、一五四九	三六	ポートブレーア
ベンガル諸邦	八、四八七九	三九四、〇四六二	四六	
北西州諸邦	一、三一五四	八〇、二〇九七	六一	
カシミル	二〇、九五二二	二九〇、五五七八	一四	スリナガル
パンジブ諸邦	九、四六一四	四四二、四三九八	四六	
*パルチスタン	二二、四〇五四	五〇、二五〇〇	二	

兵備は土地の廣大なるに比して甚だ微弱なるが是れ主として印度人の制御し易きに因るならん印度軍は北西、東の三軍團并にセクンダラバード、パルマの獨立師團より成り、常備軍は一九〇六—〇七年に十五萬七千餘人あり、之に二萬四千餘の豫備兵、三萬一千の義勇兵等を加へば三十八萬六千人に近し、又兵艦には十隻二萬三千噸弱と約三十隻の汽船とを有す。

世界地理提要 あじあ洲 印度

ラヤブタナ諸邦	三三、〇三一八	九七二、三三〇一	二九	
ボンペー諸邦	一七、〇三一四	六九〇、八六四八	四〇	
パロダ	二、〇九七五	一九五、二六九二	九三	パロダ
中央印度諸邦	二〇、四〇一一	八六二、八七八一	四二	
中央州諸邦	八、〇七七四	一六三、一一四〇	二〇	
ハイタラバード	二一、四一七九	一一四、一一四二	五二	
マイソル	七、六二五七	五五三、九三九九	七二	パンガロール
マドラス諸邦	二、五八一九	四一八、八〇八六	一六二	
其他	一八、九九〇〇	七〇、〇〇〇〇	四	
アデン屬地	四、〇三〇〇	一四、〇〇〇〇	三	
アラビアソコトラ	三、五七九	一一、〇〇〇	三	

農業

財政に就きて記さんに一九〇四—〇五年の歳入は凡そ八千四百八十萬度印
 本國六三「ポンド」にして歳出は約八千一百三十六萬度印本國一九四「ポンド」な
 るが一九〇五—〇六年の豫算は歳入十二億五千四百九十九萬「ルービー」歳出
 十二億三千七百九十三萬八千「ルービー」を示し歳出は鐵道軍事民政其の他
 に充てらるるが國債は二億三千七百七十七萬「ポンド」に近し。

牧業

生業 住民の殆ど三分の二は農業に従事し農産は實に此の地の主要なる
 生産力なり而して農産物には米黍麥茶珈琲煙草罌粟インデゴあり黃麻亞
 麻寶綿あり米はベンガルマドラス中央諸州アグラ寶綿はボンベール、
 マドラス、アグラ中央諸州を以て主産地とせり林業も亦近年大に注意せら
 るる所なり牧業はインドスの下流地方に盛にしてゼブ、水牛馬騾綿羊山羊
 駱駝象等を飼養し専ら力役で使用せられ食料に供すること稀なり鐵業は盛
 ならずして石炭の外鐵銅岩鹽硝石等を探取するに過ぎず工業には熟皮毛
 布「カシミア」毛被敷物飾具土器彫刻器等の製出あり其の他製紙製絲紡績「ビ
 ール」製造造船等の漸次に隆盛に趣くあり貿易に就きては一九〇四—〇五

貿易

年の輸入は九千二百六十二萬「ポンド」輸出は一億一千六百三十四萬「ポンド」
 なるが其の大部分は海洋貿易輸入一八七四—一八七五にして殊に私人の貨物貿易
 輸入五九七五を以て主要なるものとす今主なる取引先を示せば輸入にイ
 ギリス(三六七二)ベルジック(二二二二)ドイツ(一九五)マウリシアス(二七四)ロシア
 (一六六)海峽殖民地(二六四)等ありて輸出にイギリス(二七〇六)ドイツ(九八六)
 香港(七二二)フランス(六五九)合衆國(六〇二)日本(五六三)ベルジック(五一一)等あ
 り而して重要輸出品は寶綿(一六二五)米(一二七二)黃麻(七八二)小麥(七七五)阿
 片(六九八)黃麻製品(六三二)皮類(五九六)綿絲(五八九)茶(五七一)等にして重要輸
 入品は綿布(一九二五)鐵器銅器(五四二)の外に砂糖石油器械等あり貿易港は
 カルカッタボンベールの二を以て最要とす且貿易に従事する船舶は入船六
 百三十三萬噸出船六百二十三萬噸にして其の大部はイギリスの旗章を翻
 せり。

交通

交通に關して道路は主要なる都會を連絡して其の延長は三十萬軒を下
 らず鐵道は四萬六千五百四十四軒(一九〇六年)郵便局は一萬六千三十三局電信

線は三十六萬六千餘軒(一九〇五年)あり、電話線は三千二百七十三軒(一九〇〇年)に過ぎず、又航河は一萬六千軒を下らず、灌溉運輸の便を與ふる運河は其の主要なるもの二萬一千軒を越ゆべきが、ガンガ運河支流七、三八〇軒、シルヒ支流四、三一九軒、は殊に著名なり、

カルカッタ

處誌

ベンガル

カルカッタ

(Calcutta)

(八四、七七、九六)

北緯二二度二三分 東經八八度二三分

は印度帝國及ベンガル(Bengal)州の首府なり、ガンガ河の一派なるフーグリ河に沿ひ、土地一般に平低にして濕潤に失し飲料水に乏しくして至りて健康に適せず、特に夏季にありては惡疫流行するの恐あるが故に、行政府を始とし、高官富豪は他の地に避遁するを常とす、住民の大部は土民に屬し、黃麻製品、紙等を産し、物貨の集散盛に行はてれ、商船の出入繁劇なり、市内には大學博物館等あり、附近には植物園、其の他見るべきものあり、ホーラー(Howrah) (二五、七五、四九)はフーグリ河を隔ててカルカッタと相對す、黃麻布の製出地なり、ブラッシー(Brassey)はカルカッタの北方に位し、ギーラチ河口に沿ふ、二七、五七、年クライブが勝戦せし處なり、ダッカ(Dacca) (九〇、五四、二)はブラマポトラの一

ホーラー

パトナ

支に臨むが「モスリン」を以て聞えし處なり、ダーチリング(Dariling)はシッキムの境に近き避暑地にして海拔二一八二米突に位す、パトナ(Patna) (一三、四、八五)はガンガ、ソン、ガンダク三流の會する地方に建ちて交通上の便を有す、宏大なる阿片製造所ありて、インヂゴ貿易の大中心なり、ガヤ(Gaya) (七、二、八八)はパトナの南方鐵路百十五軒、フルク河畔に位し、近傍のブダガヤは佛教史上著名なり、

東ベンガル州のアッサム

シロム

(Shilong)

は海拔二〇三〇米突の地に位して

東ベンガル州のアッサム(East Bengal and Assam)州の首府たり、シルヘット、カチアルはブラマポトラの支流に沿ひ、産茶地の中心に位す、

北西諸州のオード

アラハバード

(Allahabad)

(二七、二〇、三二)は北西諸

州(Northwest Provinces)の首府なり、ガンガ、ジマナ兩河の會點附近、海拔九一米突の地にありて、交通の要扼に當り、將來盛大なるべき望あり、綿、砂糖、藍を集散す、ベナレス(Benares) (二〇、九三、三一)はガンガの河畔、海拔七七米突に位し、ヒンド教徒の聖地にして、一千四百五十餘の寺院あり、黃銅器、玩具品を産す、ラクナウ(Lucknow) (二六、四〇、四九)はオード州の首府たり、グムチ河に沿ひ海

ベナレス

ラクナウ

世界地理提要

あじあ洲

印度

拔一一米突に位す、市街は宮殿洋屋等を有し稍美觀を呈すれども土製の小屋多くして印度市街の特徴を現はせり、**バレイ**(Bareilly) (一三、一二〇八) はデューアー河の左岸にあり、綿穀物、砂糖を集散して敷物家具を製す、**カウンプル**(Cawnpore) (一九、七一七〇) はガンガに瀕し、海拔一二七米突の地にあり、一八五七年土兵の虐殺を以て名あるが馬具靴其の他の革細工を集散す、**ミーラト**(Meerut) (一一、八一二九) はデリーの北東に位す、一八五七年土兵の憤起せし處なり、**アグラ**(Agra) (一八、八〇二二) はジァムナの右岸、海拔一六七米突の地にあり、一六五八年までムールガル帝國の首都たりし處にして宮殿、寺院等を存す、綿煙草、食鹽、穀物、砂糖等の集散行はれ、絨箔、彫刻の産あり。

ラホール(Lahore) (二〇、二九六四) は**パンジブ**(Punjab)州の首府なり、ラビ河の左岸地方に於ける、海拔二一五米突の地に位し、**アムリツタル**(Amritsar) (一六、二四二九) は首府の東微北に位す、カシミヤ毛被、象牙彫刻等を産し、北印度に於ける商工業の一中心にしてシクラー人の聖地たり、**ムールタン**(Multan) (八、七三

バレイ

カウンプル

ミーラト

アグラ

ラホール

アムリツタル

デリー

パンジャーブ

九四) はチナブ河を去る約六軒の地、海拔一二三米突にあり、絹布、綿布等を産し、商業稍盛なり、**シムラ**(Simla) はヒマラヤの南面、海拔二一七〇米突に於ける避暑地なり、**デリー**(Delhi) (二〇、八五七五) はジァムナ河に瀕し、海拔二一五米突に位す、歴史上著名の地にして、昔マホメト教帝國の都たりしことあり、大寺、アソカの碑柱等見るべきもの多く、寶石細工、刺繍等の産あり、商業も亦盛なり、**ラワルピンデ**(Rawal Pindi) (八、七六八八) はジューラム河とインドス河との間、海拔五二〇米突の地にあり、カシミル、アフガニスタンに對する通過貿易活潑なり。

北西國境州 **ペシヤワール**(Peshawar) (九、五一四七) はハイバル峠を扼する、**ジァムラッド**塞の東十六軒餘の處にありて、海拔三五五米突に位す、北西國境州 (North-Western Frontier Province) の首府にして、**カブール**、**ボクハラ**、**中アジア**に對する通過貿易盛なり。

アシミール **メルワラ** 首府 **アシミール**(Ajmer) (七、三八三九) はマホメト、ヒンド兩教徒の均しく聖地とする處なり、**メルワラ**(Mervana)の地はアラバリア山脈に據りて、**首府**を**ピロル**と云ふ。

世界地理提要 あじあ洲 印度

ナグプル

中央諸州

中央諸州(Central Provinces)の首府ナグプル(Nagpur)(一七三七三

四)はナグと稱する小流の澗、海拔三四三米突にありて商業の一中心たり。

ベラル

ベラル(Berar)州は地味肥沃綿を産すること夥しきが著大なる都會を

有せず。

クールグ(Coorg)州はマイソールと西ガッツ山脈との間に位し、カウベ

リ河の流域に属する處多し。

マドラス

マドラス(Madras)(五〇九三四六)北緯一三度一七分は當州の

首府なり、氣候炎熱にして港灣は不良なれども新埠頭、風波防禦の竣功以來、商業漸次隆盛に越けり、市街は美麗なる白街と粗造なる黒街とに分かれ、政廳、造兵廠、博物館、植物園、公園等を有す、コカナダ(Coconada)(二五〇〇〇)はゴダベリ河口の北にあり、コロマンデル海岸に於てはマドラスに次げる商港とす、トリチノポリ(Trichinopoly)(一〇四七二二)はカウベリ河に浴び、織物、煙草、金銀細工の産あり、マツラ(Madurai)(一〇五九八四)はバイガイ河に沿ふ、パンヂヤ王國の舊都の地なり、ツチコリン(Tuticorin)(二七〇〇〇)はマナアル海の商港にして綿、珈琲、穀類、家畜等の輸出多し、カリコ(Calicut)(七六九八二)はマラバ

ボンベ

ボンベ

ボンベ(Bombay)(七七六〇〇六)は本州の首府なり、北緯十八

度五十四分、東經七十二度五十二分に位せる小島の南東部に建ち、平均氣温二十六度二分、平均雨量は一千七百八十六耗を示す、港は優良にして我が横濱を距ること五千三百三十哩なるが、質綿、米、鴉片、小麥等の輸出頗る盛なり、市内に政廳、法院、學校等あり、銅器、眞鍮器、彫刻品、刺繡等の製造行はるるが、殊に綿絲紡績には十一萬人餘の従事者あり、サルセッタ、エレハンタの二嶼はボンベ島の近傍にあり、地下寺院を以て名を知らる、スラト(Surat)(一一九三〇六)はタブチ河に沿へる港なり、往昔の繁榮を見ざるも綿絲、刺繡等を製す、アーメダバド(Ahmedabad)(一八五八八九)はサバルマチ河に臨み、マホメット教の舊寺少なからず、絹布、綿布、紙等の産あり、カラチ(Karachi)(一一六六六三)はインドス三角洲の北端に位する港にして、パンジヤブ地方の物産を集散し、盛況に向ひつつあり、プーナ(Poona)(一五三三二〇)はボンベの南東、海拔五五四米突の地に位し、氣候佳良にして、當州夏季の首府たり。

直隸保護國

保護國中にて印度總督に直隸するものをカシミル、ラヂ

プタナ、バロダ、中央印度、ハイダラバード、マイソル、トリバンコル、等とす。

スリナガル

カシミル、ジャムの首府 スリナガル (Srinagar) (一、二、二六、二八) は殷賑の地なり。

チャイプル

チャイプル (Jaipur) (一、六、〇一、六七) は軍府と商業の中心とを兼ね ラヂプタナ

(Rajputana) 地方最要の市たり。

バロダ

バロダ (Baroda) の首府 バロダ (一、〇、三七、九〇) は ビシツトミラ に瀕して肥沃

の平野の中に位す、附近にイギリス兵の屯營あり。

インドル (Indore) (八、六六、八六) は中央印度の マルワ 地方にありて綿、罌粟

を集散す。

ハイダラバ

ハイダラバード (Hyderabad) (四、四、八四、六六) は回教諸邦中最強なる ハイダラ

バード

バード 即ち ニザム の首府にして クリシッナ 河の支流 ムサ に沿ひ數多の回教寺

院を有す。

バンガロール

バンガロール (Bangalore) (一、五、九〇、四六) は マイソル (Mysore) 地方の大都會にし

てイギリス兵の駐屯地なり。

トリバンドラム (Trivandrum) (五、八〇、〇〇) は茶、木材、珙珀を産する トラバン

コル (Travancore) の首府なり。

其三 ポルトガル領

ポルトガル 人は他のヨーロッパ人に先ちて本半島に來り各地に於て殖民事業に従事して一時は盛を極めしが、其の後次第に衰へて今は僅に ゴア、ダマン (Daman)、ダイウ (Diu) の三ヶ處に於て三千七百万方料の地と五十三萬餘の住民とを有するに過ぎず。總督は ゴア に置かれ、其の他に知事ありて管理の任に當れり、貿易高の如き七百萬 ペニー に達せず。

ゴア (Goa) (三、六、五、八方料) は ムルマ 河口を擁して地勢丘陵多く米、木材の産あり、ノバ ゴア は マハナヤ 河口を溯ること五料に位す、ポルトガル 領印度の首府にして總督、僧正、等居住す、ゴア は政治上の中心として二十萬の人口を有せしことありしが今は椰子樹の栽培に跡を止むるに過ぎず。

其四 フランス領

フランス 人は ポルトガル 人、オランダ 人に次ぎて此の地に來り十八世期の前半にありては其の勢力偉大なりしが、目下は其の遺物として シマンテッナ ゴア (Chander-nagor)、カリカ (Karikal)、マレ (Male)、ボンナシ マレ、ヤナオン (Yanon) の五ヶ處にて地積五百九千方料、人口二十七萬三千餘人を有するに過ぎず、ボンナシ マレ に知事を置き、其の

セイロン

他に事務官を設けて民政のこと并に貿易の事を司らしむ。貿易は一九〇四年に於て約五百七十四萬フランクの輸入と三千五十四萬フランクの輸出とを示せり。ボンサシエリ(Pondichery)(二九〇七方料)にはフランス印度の首府あり、市街は一運河に依りて白街と黒街とに分たれ、政廳、高等裁判所、サブレイス記念碑等を有す。

◎セイロン島

領域

セイロン(Ceylon)島はセイロン(Ceylon)とも呼ばる。印度半島の南東にありてパルク海峡、マナル海を北西に控え、其の他は印度洋に面せり。長、四百四十六軒幅二百三十五軒面積、約六萬六千方軒あり。

海岸

海岸は頗る單純にして良港に乏しく天然の錨地はガールトリンコマリに過ぎず。パルク海峡、マナル海は共に水淺くして低き珊瑚礁及沙灘はアダム橋を爲せり。

山河

山岳は其の數少なからず、ペドロタラガラ(二五三八)キリガルボタ(三三八)○(アダム(二二四九)等の諸山あり、河流は巨大ならざれどもヌワラエリヤ臺地に起りて北東に流るるマハビラガンガあり、西岸に注ぐカラニガンガ、カ

氣候

ラガンガ、マハオヤ、等あり。

低地にありては酷熱に苦み、コロンボに於ける年平均温度は二十六度なりと雖、海拔一千乃至一千五百米突の地にありては温暖にして適當の季節多く、恰、長春にあるが如し、雨量は北西南東の地方を除けば一米突五より二米突の處多く、二米突乃至四米突の地もなしとせず。

天産

天産は印度半島と相似る所少なくして却て遠隔の地たるマダガスカル島に類するの點甚多し、動物には猿、熊、豹、水牛、象、鱉、等あり、植物には茶、珈琲、ココア、キナ、肉桂、烏木、等あり、鐵物は黒鉛、寶玉、鐵、滿俺等を産す。

住民

人口は一九〇四年に於て三百八十一萬餘ありて一方軒五十八人の割合なり、而して一九〇一年の人口約三百五十八萬の多數はシンヘル人(二三三三)にしてタミル人(九五、ムール人(二三)等之に次がり、本島最舊の住民なるべきベッダは中央の山地に徘徊し蒙昧なる蠻民なり、其の數は四千に達せず、宗教中最盛なるは佛教にして二百十四萬の信徒あり、此の外にヒンド教(八三、基督教(三六)、マホメット教(二五)等の信者あり。

セイランはイギリスの直轄に屬し、知事は行政、立法の二會議の補助に依りて全島の施設を司り、地方は西、中央、北、南、東、北西、北中央、ウバ、サバラガムワの九州に分たる、而してマルヂバは本島に附屬せり、兵備は微弱にして陸兵は約一千八百人あるが外に二千五六百人の義勇兵あり、財政一九〇四年は歳入に凡そ三千八十四萬「ルービー」、歳出に三千二百二萬「ルービー」ありて國債に三百三十六萬五千「ルービー」と五百十六萬六千「ポンド」とあり。

生業は未だ充分の發達を見ざるも農業は盛にして耕地は全地積の一割四分に當り茶、珈琲、肉桂、椰子油、煙草、ココア、キナ、等を産す、牧業は牛(一三九萬頭)山羊、綿羊を興ふ、鐵業に就きて黒鉛は約一千七百坑より産し、其の價格頗多きが寶石類の産少ならず、貿易に就きて輸出は約一億一千七百六十七萬「ルービー」にして輸入は一億一千六百四十八萬「ルービー」餘なるが、主要輸出品は輸出高の過半を占むる茶(五六八五)の外に、ココヤシ類(二四四三)黒鉛(六五二)カカオ(二四四)等あり、出入船舶は一千百二十二萬七千噸にして鐵道も七百五十二軒あり、電信線は五千百四十五軒を有す。

コロンボ(Colombo)一五、八二二八はセイランの首府にして島の西岸にあり、港は我が横濱を距る四千五百二十二哩にして港内多くは七米突以上の水深を有し船舶の出入少なからず、市内には政廳、公園等あり、カンヂー(Kandy)(二、六五一九)は海拔五一二米突にありて小湖に瀕す、舊シンハル人の國都とせし處なり、ヌワラエリヤ(Nuwara Eliya)はヘドドラガラ山の南西、海拔一八九三米突に於ける保養地にして知事の夏季の住處たり、ガール(Galle)三、七三一六は島の南西岸に於ける軍港なるが船舶の碇繋に便ならず、トリンコマリ(Trincomali)一〇、〇〇〇は北東岸に於ける良港なり、殊に其の外港は十六軒の面積を有して水深し、實に印度洋に於けるイギリス艦隊の根據地たり、ヂナ(Dina)三、三三八七九は北部に於ける一島にありて市況盛なり。

マルヂバ(Maldive)諸島はセイランの西方約八百軒に位し十七群の珊瑚礁より成りて人民の住する島嶼は二百以下なり、住民はマライ種のマホット教徒にして「ココヤシ」の纖維を採取す、スルタンはマリ島に住してイギリスの保護を受く。

ラツカデバ(Laccadiva)諸島は亦イギリスに属す、南北の二群に分かれ、島嶼は珊瑚質にして地味不良、コイヤシを以て唯一の物産とす、住民はマライ人にアラビア人の血液を交えしものにして、イスラム教を奉ず。

●イラン高原

境域 イラン(Iran)高原はカスピ海、ツラニア平地を北に控え、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に臨み、東方はインドス河、西はチグリス河に限らる、而して本高原はアセルベイジャンの諸山に據りて北西の方、アルメニア高原に接し、ヒンヅークシに依りて北東の方、中央アジアの高地に連なるも、地勢上、明瞭なる一區域たるを失はず、面積は約二百五十乃至二百七十萬方、糶に達し、長は二千二百糶ありて、幅は東部の一千糶、西部の五百糶なり。
海岸 海岸線の延長はカスピ海に於ける四百三十糶を加ふれば合計凡三千五百糶ありて、出入共に著しからず、灣にグワグル、グワタル、チアーバル、ブシールあり、海峽にオルムスあり、岬崎にラス、オルマラ、ラスナウ、チアスク、ラス

デアブリンあり、島嶼は殆どペルシア灣に限らるるが、キシム最大にして此の外、ララク、オルムス、カイシク、シアイヒ、シッアイブ等あり。

山岳

北部にはヒンヅークシサドルストラン、五七四一、エルブールズマベンド、五四六五、ダフトの諸山脈あり、東にはソレイマン山脈ガイサル、ガール、キイソレイマン、四二〇〇、西より南に亘りてアルメニア山脈サメラ、八二二、小アララト、三、ザグロス山脈、クーヂナル山脈等あり、此等の山脈を以て包圍せる内部の地には數條の山脈あれども顯著なるもの少なし。

河流

イラン高原は著大なる河流を有せず、而して海洋に注水するものあり、内部の湖沼に終るものあり、或は沙漠に流失するものあり、アラル、カスピ海斜面六五萬方糶にアム、ムルグ、アブ、ヘリルド八〇五、アトレク五六三、セフィド、フランスあり、印度洋斜面六〇萬方糶にカブル、ダシット、カルン四一八、ケルハ六〇〇あり、閉塞地二五萬方糶にヘルメンド一一〇〇、カシルド、フアラールド、ハルドあり、沼湖は東部にハムン、ハムンイマシケル、ネメスカル、西部にニリス、ダルヤイニメク、ウルミアあり。

ハムン(Tiannu)沼はサイヌタン湖とも稱せらる。季節に依りて其の面積を異にし、今日に於ては頗る縮小せるが水量に乏しきヘルメンドを始としカシツルドフアラールドハルドの諸流を受く。

地勢 イランは不正四邊形の高原を爲して起伏常なく内部には顯著なる低處ありて周邊には屹立せる山岳の四五千米突に達するものあり、平地の海拔は五十乃至六百三十米突にして高地の平均は一千二百米突なり、又南海部には沿海のデシスタン(熱國)デンシル(山道)セルハド(涼地)の階段を爲すあり、北部には濕潤なる低地と急峻なる山地の相接するを觀る、而してカビル(鹹沙漠)ルト(裸沙漠)の二大沙漠を始とし、其の他不毛荒蕪の地多く、人生に利用すべき處は少なし。

氣候 氣候は甚だ大陸的なり、沿海の地に屹立せる山脈は海洋より來る濕氣を遮るを以て、内部にありては天氣常に乾燥にして木星附屬の衛星を肉眼にて觀るを得べしと云ふ、雨量は高原の大部は二十糎を受けずして中部には十五糎に達せざる處あり、氣温は一般に酷烈にして七月の平均は三十

四度に達する處あり、一月に於ては十八度より八度の間にある地多し。

天産 動物には豹、狼、ハイエナ、獅子等の野獸あり、馬、駱駝、猫等の家畜あり、植物は水量に不足なき地に於て大麥、小麥等の穀類、ナツメヤシ、葡萄等の果物類を産し、エルブルーズ山脈には森林あり、鐵物は乏しからざるべきも未だ充分なる産出を見ず。

住民 人口は約一千五百萬ありと稱せられ、一方糎に付きて僅に五人の割合なり、種族は白種に屬するもの多けれども亦黃種も存す、白種に就きて其のアーリア派にタジク、アフガン、バルチ等あり、其のセム派にアラビア、ユ

ダヤあり、黃種にはモンゴリア派のハザレー、ウスベク、トルコマン等あり、宗教は拜火教、キリスト教、ユダヤ教等なきに非ざるも主として行はるるはマホメット教にして西部にはシイヤ派、東部にはスニイト派の教徒あり。

分國 イラン高原はロシア及びイギリスの領地と境を接し、兩國の南下或は北上に關して重大なる關係を有する處なり、當地方は分かれてアフガニスタン、バルチスタン、ベルシアの三と成るも始の二者はイギリスの勢力の

動物 植物 礦物 人口 種族 分國

下にありと稱すべく、眞の獨立國は唯一のペルシアあるのみ。

◎バルチスタン

境域

バルチスタン(Baluchistan)は高原の南東を占め、北の方アフガニスタン及北西國境州と境し、東はシンド、パンジブと接し、南はアラビア海に面し、西はペルシアに限らる。東西八百八十五軒、南北七百二十四軒に近く、面積は三十四萬三千方軒に達せんとす。土地の大部は禿瘠の山岳、沙漠、礫礫の地より成る。人口は約百四萬人ありて、一方軒平均三人に過ぎず。種族はブランチイ(三〇萬)最も多きを占め、アフガン(二〇)、バルチ(八)、其の他より成れり。宗教に就きて約七十七萬人はマホメット教を信じ、約四萬人はヒンド教を信ず。

住民

政治

生業

バルチスタンはイギリスに屬するが之を二部に分つを得、其一は印度帝國の一州三〇、八六二、四六八にして他は附屬地二、四〇五、四〇〇人なりとす。

農業は小麦、大麥、黍、粟、米、玉蜀黍、馬鈴薯の外に果物類を興へ、牧業は數種の獸類を飼養し、工業品には兵器、磁器等なきに非ざるも物産の饒多なる地に

非ず、貿易に就きて印度に對しては八百五十八萬ルービーの輸出あり、外國貿易は著しからず、交通に關してイギリスの直轄地は佳路を有し、北西鐵道の通するあり、郵便、電信の便あり。

ケッタ(Quetta)はイギリス領バルチスタンの首邑にして、海拔一六八〇米突に位し、ポーラン越に對する要扼の地なり。ケラット(Kohat)はサラワン、ヂアラワン、コルワー、パンチグル等の聯合より成れる土邦ケラットの首邑にして、海拔二〇五七米突の地にあり、冬季に至れば君主「ハン」はガンダバに住むと云ふ。ベラ(Bela)はラスベラの首邑にして、フラリ河畔の沃地に位す。

◎アフガニスタン

境域

アフガニスタン(Afghanistan)即チキラヤツ(Wilayah)はイラーンの北東部を占む、北は中央アジアに隣り、東は清國、イギリス領印度と接し、南はバルチスタンに接し、西はペルシアに連なれり。面積は五十五萬方軒を超え、南北は約八百軒ありて、東西は凡そ九百六十軒あり、地勢は北西、東、南西の三方に傾き、南西

世界地理提要

あじあ洲

イラン高原

住民

部は沙漠最、多し。

人口は五百萬あれば一方平均七人の割合と成り、本高原の三地方中、最稠密なりとす。種族はツラニ最、勢力を有するも、其の數より見るときはギルヅー第一に居り、少くとも一百万あるべし、之に次げるはタジク、ハザレ、アマック、ウスベグ等なり、宗教に就きてキシルバシ、ハザレの大部は主としてシイヤ派のマホメト教を奉ずるも、其の他はスニ派に屬せり、而してワキイは拜火教を信じ、其の數三千人と概算せらる。

政治

政體は君主專治にして首長を「エミル」(Emir)と稱ふ、表面上は獨立國なれども事實はイギリスの屬邦の如くにして「エミル」は印度政府より毎年十八萬「ルービー」を受け、交通上の要地はイギリス人の占居に係れり、地方はカブル、ヘラット、カンダハル、トルキスタン、バダクシヤン（屬地ヲハ）、ナルラーの各州に知事を置く、兵備は五萬乃至六萬の士卒と二百門の砲とを有す。

生業

國土は山岳沙漠の地少なからずして住民の多數は遊牧に従事するも、肥沃の地はヘラット、カブル河の谷、カンダハル等此處彼處に存して耕耘に適し住

カブル

カンダハル

ヘラット

民の主食物たる果物（林檎、梨、巴旦杏、桃、榴、杏、梅、シメ）に豊にして乾果の輸出せらるるもの少なからず、絹布、氈等はカンダハルに多く産し、羊皮「ボスチン」裘の類の製造は主要生業の一たり、貿易一九〇四—〇五に就きては印度に對して約一千五十七萬「ルービー」を輸入し、凡六十六十二萬「ルービー」を輸入するがロシアに對しては輸入に十二萬「ポンド」、輸出に三十二萬「ポンド」あり、道路は概して險惡なるもカイバル道、ポーランド道は良好にしてカブル或はカンダハルまで車行し得べし、商品の運搬には駱駝馬を用ふること多し。

カブル(Kabul)七五〇〇〇はアフガニスタンの首府なり、海拔一七六二米突の地にありて交通の要路に當り、通過貿易盛なり、城塞をバラヒサルと云ふ、カンダハル(Kandahar)三〇〇〇〇はガズニの南西海拔一〇五五米突に位し、商業交通上重きを置かるる處なり、ヘラット(Herat)三〇〇〇〇はヘリルド河の北に於ける海拔八一〇米突の地に位し、重要な商路に當れるが亦軍事上の要區たり、バルフ(Baluch)は同名の汗國の首邑にしてゾロアステルの生地なり。

境域

◎ペルシア

ペルシア(Persia)即ちママリクイマールセイイラン(Mamalik-i-Mahruse-i-Iran)は高原の西部を占む、北はアトレク河、カスピ海、フラス河等に依りてアジアロシアと境し、東はアフガニスタン、バルチスタンに隣り、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に瀕するが、西はアジアトルコに接す、長二千二百軒に餘り、幅は一千四百軒に達し、面積は約百六十五萬方軒あり。

住民

人口は九百萬人ありて一方軒に付き平均五人の割合なり、其の二百五十萬人は遊牧人なるが、種族はタジク人(五五〇)、トルコ人、トルコマン(二五〇)、クルド人(一〇〇)、アラビア人(五〇)、アルメニア人の外、數多あり、滯留ヨーロッパ人の數は一千二百を超えず、宗教はマホメット教のシイア派最、勢力を有して約八百萬の信者を有するが此の外にキリスト教徒(九)、ユダヤ教徒等もあり、教育は稍改善せられて數種の専門學校あれども住民の大部はマホメット教の經典なる「コーラン」を學ぶに過ぎず。

政治

政體は「コーラン」の制裁を受くる君主專治にして國君を「シャーインシャー」(Shah-in-Shah)王の王と稱す、行政上中央に宮内、外務、内務、軍務、財務、法務、教育、電信郵便、税關、宗教、出版、鑛山等の諸省あり、高等會議あり、地方は三十三州に分たれ、各州に總督、副總督を置く、陸軍は十二師團ありて戰時には十五萬人に達すべし、兵艦は二隻、六百三十六噸に過ぎず、財政に就きて一九〇三―〇四年に於ける歳入は七千三百萬、克蘭(約百三十三萬ポンド)なりとす、國債は三千二百五十萬、ルーブルあり。

生業

國土の大部は不毛の地に屬し耕地は五十分の一に過ぎざれども住民の多くは農牧に従事す、農業は米、大麥、小麥等の穀類、棗、葡萄、無花果等の果物及び罌粟、藍、煙草、綿等を栽培するが、茶も亦有望なりと云ふ、牧業は馬、騾、駱駝等を飼養し生毛はホラサン地方を最良とす、此の他に「ゴム」類、眞珠等の産あり、工業は生絲、綿布、毛氈、兵器、阿片等を製シタブリズ、テヘラン、イスバハンを以て重要の中心とす、主港はペルシア灣にブシール、リンガー、ベンデル、アパスあり、カスピ海にエンゼリ、メシド、イサル、ベンデル、イダスあり、一九〇四―〇五

世界地理提要

あじあ洲

イラン高原

二百十七

年の貿易は輸入二三億四千九百九十一萬、クラン餘輸出に凡そ二億四千七百九十六萬、クランあり、主としてロシア輸入一、六九七、九七五、五五五、と輸出一、四七五、六七一、九七五、とイギリス一、二七五、五五五、と取引し、果物(四〇二四)、魚類(三六一〇)、阿片(二九七五)、蠶絲及繭(一四五五)、米(一三五二)、皮革(一三一六)等を以て主要輸出品とす。交通は概して不便にして鐵道の如きは十三籽商船は汽船、帆船各一隻に止まれるが電信線は一萬六千餘籽の心線を有しコーカシア、印度に通ず。

テヘラン

テヘラン(Tehran)二八、〇〇〇(北緯三五度四分、東經五一度二分)は王國の首府なるが海

イシエド

「シアー」を始るとし近傍のグラハク等の山中に避暑するもの少なからず、メシエド(Meshed)六、〇〇〇(北緯三三度四分、東經五十二度二分)はイマンレザの墓

イスバハン

イスバハン(Isfahan)七、〇〇〇(北緯三二度四分、東經五十二度二分)はイマム(Imam)の墓

ケルマン

ケルマン(Kerman)六、〇〇〇(北緯三二度四分、東經五十二度二分)はイマム(Imam)の墓

タブリス

にありて敷物を産す、レシット(Resht)四、〇〇〇(北緯三十七度四分、東經四十八度二分)はカスピ海に近くしてセビルド河に瀕しエンゼリと相俟ちて商業に従事す、タブリス(Tabriz)二、〇〇〇(北緯三十八度四分、東經四十七度二分)はアゼルバイジャン地方、ウルミア湖の東方、海拔一五〇〇米突にあり、交通の要路に當りて商業盛なり、シラズ(Shiraz)三、二〇〇(北緯二十九度四分、東經五十二度二分)はパールシスタン地方、海拔一五五〇米突に位す、パールシア極樂地の一とせられし處にして目下商業には稍見るべきものあり、ブシール(Bushire)は當國海洋貿易の中心にして葡萄酒、煙草、阿片等を輸出す、キルマンシー(Kirmanshah)三、二〇〇(北緯三十二度四分、東經四十七度二分)はルリスタン地方、ケルヘー河の上流にありて敷物、兵器を産す、附近のピスツンはダリウス時代の遺物、釘状文字の彫刻ある岩石を以て著名なり。

アラビア

境域 アラビア即ちデジレールエルアラブ(Djezireh-el-Arab)の國の意、アラビ人はアジアの南西部に於ける一大半島なり、北はシリア、メソポタミアに依り、北西はスエズの地峽に依りてアジア大陸又はアフリカに連接するも、東南西の三

面積

面は海に面せり。地積は三百萬方杆内外と概測せられ、長さは二千六百六十杆にして、幅は二千杆あるも、ペルシア灣と紅海との間に於ける平均の幅は九百七十杆なるべし。

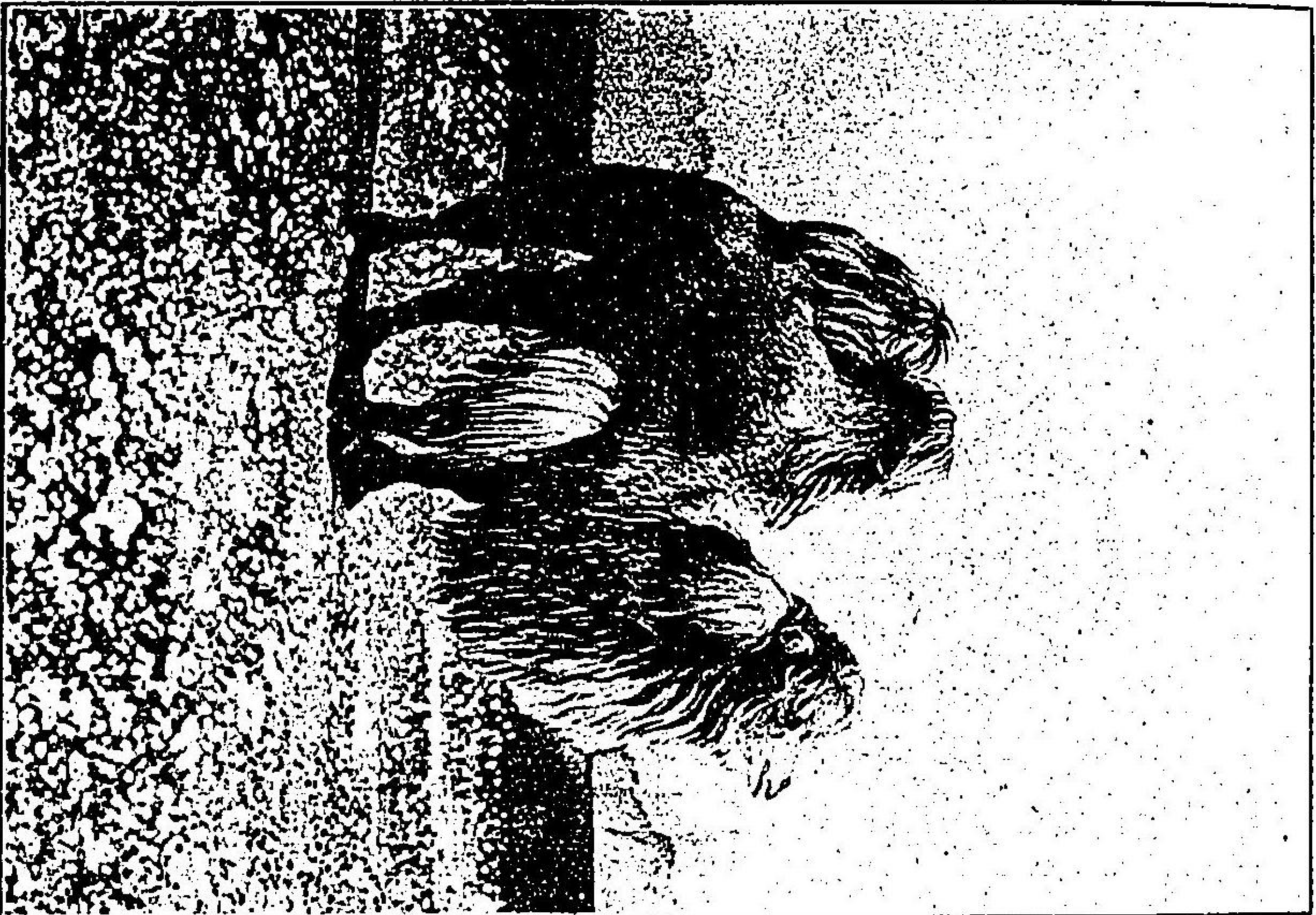
海岸

アラビア半島は三千七百杆の海岸線を有するも、砂丘斷崖多くして、彎曲に乏しく、海灣にペルシア灣、オマーン灣、アラビア海、アデン灣、紅海、カバ、エズ、あり、海峽にオルムス、バブエルマンデブ、半島にシナイあり、地峽にスエズの存するを見る。

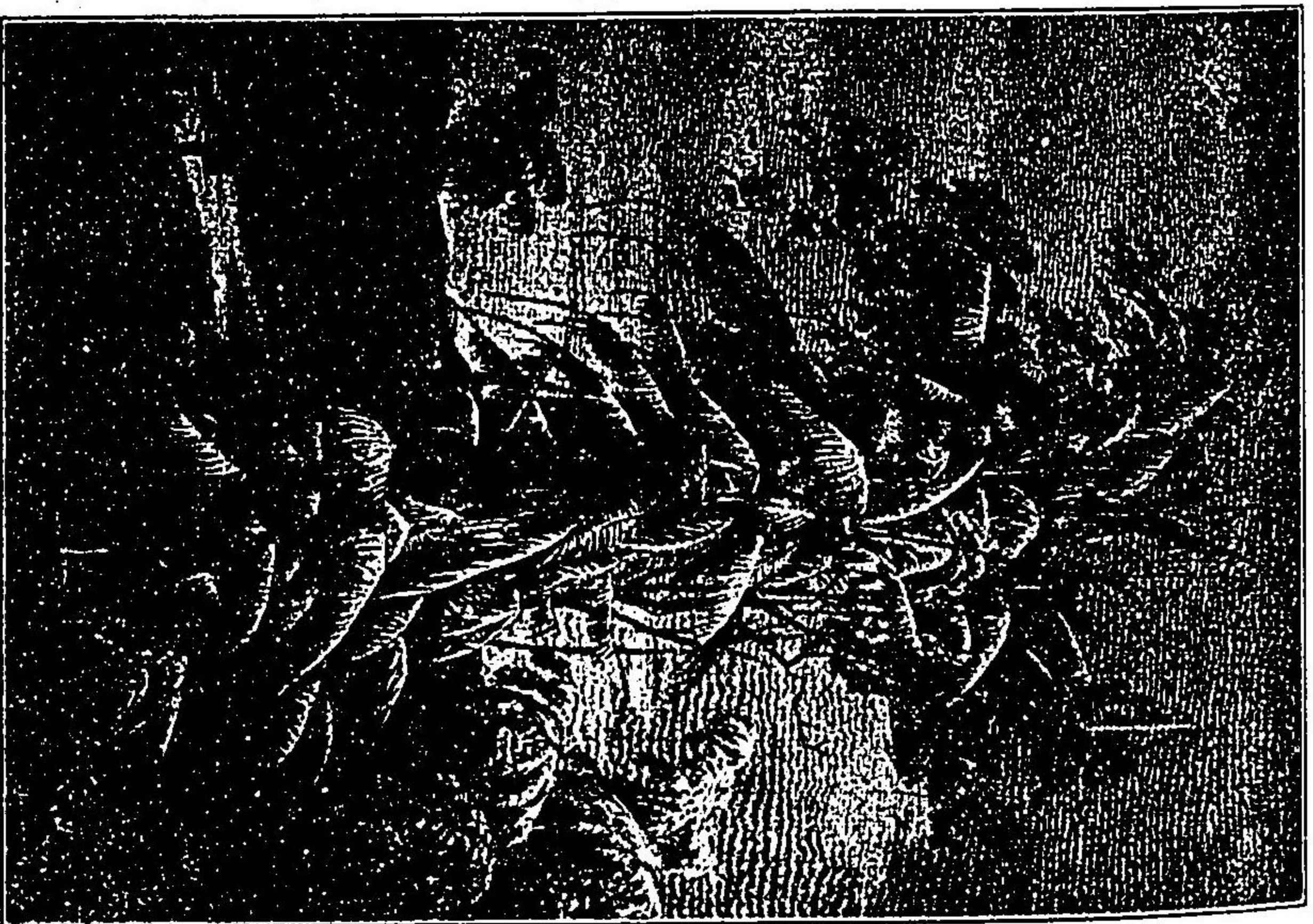
海峽、地峽

テハマ

地勢 ペルシア灣に沿へるエルハッサの地方并に紅海岸に於ける狭長なる低地のテハマ(Tehama)を除けば、アラビアは一般に高原を爲して南に高く北に低く、平均海拔は約九百米突ならんと云ふ沿海の地に屹立せる禿嶺、不毛の山脈中にありて、最高峯とすべきはマスカト附近のジベルアフダル(三〇一八)なり、内部に就きて其の南部は砂質にして、北部は礫質或は岩質なるが、印度洋に接近せる山脈の背後にはダーナ(Dahna)赤沙漠あり、北に進みてネフド(Nefud)沙漠と成り、遂にシリアの沙漠に達せり、ダーナの北に於ける



駝 (Camelus bactrianus)



椰 (Cochlospermum rotundifolium) [ツラビ]

ラクダ「駱駝」(Camelus)は二種あり、「峰駱駝」(C. dromedarius)はアフリカ北部の原産なり、高さは百五十程乃至二百三十程ありて背に一の肉峰を有す、「峰駱駝」(C. bactrianus)はアフリカの中部并に西部に飼育せらる、體軀肥大にして脚部短し。

タケ「籐」「沙籐」「右籐」(Calamus rotang)〔籐綱科〕は印度支那マライ群島に産す、木質は堅固四種以内なるも長さは三百米に達する、竹類に用ひ又綱類、椅子、各種の器物に製す。

ネジド(Nedjed)は半島の中央に當れるがウエドルンマ(Ramam)一三〇〇を始、とし此處彼處に泉地ありて耕地、牧場又は樹林を觀ること稀ならず、眞に幸福アラビアと稱すべき地にして人類の棲息に適せり。

氣候 アラビアの氣候は酷熱にして乾燥なり、殊に紅海岸のデハマ、ベルシア灣沿岸の地に於て甚しく、デハマの七月は日蔭に於て尙三十六度七を示す、然れども海拔は溫度を減せしめ、イメンの高地に於ては冬季氷を見七月と雖、三十二度を超ゆること稀なりとす、而して沙漠に於ては勿論高温なるが變化少なくて日中の四十三度、夜間の三十八度を示すと云ふ、雨量は甚く少なく處に依りては全く無雨の地ありて乾燥不毛の度はサハラに勝れり、又暴風砂を飛ばすことあるも旅行者に危険を與ふることなきに似たり。天産 地貌がアフリカの如く生物も亦之に類する所あり而して天産は概して饒多ならざるが動物に馬、駱駝、綿羊、山羊の産あり、野牛、獅子、ゾブラ、鷹、等も存するが如し、植物に「ナツメヤシ」「アカシア」葡萄、無花果、珈琲、等あり、鐵物に鉛岩鹽等あり。

人口

種族

生業

住民 人口は五百萬と稱すれども種族は一樣ならずしてアラビア人の外、ユダヤ人、バニヤ人、黒色人等あり、アラビア人はマホメット教信者にしてハデシ、フェルラーの如く定住するものあり、ベドインの如き遊牧の民あり、宗教は主としてマホメット教行はれン、シイア二派の外にワハビ派あり、生業に就きてアラビアは不毛の地多けれども尙、ナツメヤシ、珈琲の産ありて家畜、生毛等と共に輸出せらる。

分國 本半島の沿岸地にはトルコ、イギリスに屬せる處あれども、其の他は概、外國の所領たることなく各部の主長の下に獨立せり。

◎獨立部

オマーン

オマーン(Oman)はアラビアの南東岸に於ける獨立國なり、面積は十九萬四千二百方呎、人口は約五十萬人あり、印度政府との間には最、親密なる關係を有し、マスカットにはイギリスの領事兼駐在官居住す、貿易は主として印度と行はれ、一九〇五—〇六年の輸入は約五百六十萬、ルービーに

して輸出は「デイト」青貝、果物、消石灰、眞珠等の二百六十七萬餘、ルービーなり、而して入船は三十九萬噸に達せず、首都マスカット(Mascat)三〇〇〇〇)はポルトガル人の創建に基づける要塞地にして良港を有す。

ソマリア

ソマリア(Somaliland)はソマリアの北に位し、首邑ハイル(Haile)一五〇〇〇、は海拔一〇六七米突の地に位す。

◎屬領部

トルコ領

ヘルシア海沿岸のエルハッサ(El-Hassa)紅海岸のヘヂアス(Hedjas)イェメン(Yemen)等はトルコ帝國の版圖に屬するが故にアジアトルコの部に記述すべし又シナイ半島地方はトルコの貢國たるエジプトに屬す。

イギリス領

イギリスの領地はアデンを主とするが、此の外にペールン諸島、カラマン諸島等あり。

アデン(Aden)はアラビアの南西岸に於ける火山質の半島にして、小アデン

世界地理提要

あじあ洲

アラビア

アデン

半島若干の大陸地、ペリム島を包含せる二百七方杆の地積と四萬四千足らずの住民とを有するが、四萬三千八百七十九方杆の屬地(アラビア保護地、ソコトラ島)を有してボンペー州の附屬なり。貿易は殆ど純通過的にして一九〇四—〇五年の輸入は四千九百四萬、ルービー餘、輸出は四千二百七十九萬、ルービー弱なり。アデン港は我が横濱を距ること六千五百六十浬にして軍事商業交通の要地なり。入船の噸數は二百八十四萬を超ゆ。

ペリム(Pelim)島はマフヘルマンテア海峡に於ける不毛の小島にして要塞地たり。クリアマリア(Kuria Muria)諸島はアラビア半島の南東にあり、良港を有す。バレーレン(Bahrain)諸島は人口六八〇〇〇方杆はバルシア灣に於ける眞珠の採集地にしてイギリスの保護を受く。カマラン(Kamran)諸島は紅海にあり。

● アジアトルコ

境域 アジアトルコはトルコ國の一部にしてアジア洲の西方にあり、北東はロシアのコーカシアに接し、東はベルシアに隣し、南はアラビアに達し、西は地中海、エーゲ海に臨み、北はバルダネル海峡、マルマラ海、ボスポロス海

ペリム島

バレーレン諸島

海峡、黒海に臨めり、面積は凡そ百七十八萬方杆に達す。

海岸 海岸線は黒海、マルマラ海、エーゲ海、地中海に瀕せる小アジア半島に稍發達し、該半島の西岸は澳港島嶼に富めり、而して海峡にボスポロス、バルダネル、地角にババ、島嶼にキプロス、ロドス、サモス、キオス、ミチリニ(レスボス)等あり。

山岳 山脈の趨勢は錯綜を極むるに拘らず、概して二の山系に屬せるが、其の一は北西より起りて南東に越え、其の二は北東に起りて南西に進めり、而してシリア、パレスチナの兩リバノン山脈は別に一系を爲して南北に走り、左に主要なる山岳を記さんにアルメニア山、彙に大アララット(五一五七、スパハンダハ三三八〇〇)、ツラガイラ(三九六二)あり、ポントス山脈にフアルテムベク(三七〇四)あり、タウルス山脈はブルガルダハ(三五七五)等を含み、リバノン山脈にはドルエルホデブ(三〇六七)、アンチリバノン山脈にはヘルモン(二七六〇)あり。

河湖 河流には内部の閉塞地に終るものあれども、亦外海に趣くもの少

海岸線

なからず、カスピ海斜面にアラス(八〇〇)あり、ベルシア灣斜面にチギリス(七七〇)、エウフラト(二六〇〇)あり、キシルイルマク(九七〇)、サンガリアス(五二〇)は黒海斜面に屬せり。

エウフラト

エウフラト(Euphrat)河は西部アジア第一の長流なり、上流に二派あり、西派をカラス、東派をムラドと云ふ。上流にありては水勢急激なるも、メソポタミア平野に出づれば方向を南東に轉じて幾多の彎曲を呈し、百二十五米突以内の河幅を以て緩流す。メソポタミア舊地の附近を經、クルナにてチギリス河を合はせ、以てカルン河を容る。シトヘルアラブ(Shah-el-Arab)河と成り、百五十料を流れ行きて、ヘルシア灣に注ぐ。源委通じて二千六百料あり、小汽船は河口より千七百七十料のビルに溯るを得、支流にベイリク、カブルあり。

チギリス

チギリス(Tigris)河は西派のシト、東派のホータンスを以て源流とす、相合してモスル附近にて平地に出で、左岸に沙漠を控え、メケダドを過ぎクルナに至りてエウフラトに合す。河幅は二百米突以上に達し、流勢急激なり、支流は左岸に大ザブ、小ザブ、サヤラーあり、メケダドの下流にナールイサ、シトヘルハイ等の運河を有す。沼湖は巨大なるものなけれども、鹹湖に死海、パン(三六九〇方料)、ツスチュリヤあり、淡水にエジメル、チル等存せざるに非ずして無口のもの多きを見る。死海(Dead Sea, Mer Morie, Toddes Meer)は面積九百十五方料の鹹湖なるが、長さは七十六料

にして幅は十七料あり、其の水面は海面より低きこと三九四米突なり、水深は北部に於て約四百米突に達する處あるも、南部に於ては一米突乃至四米突に過ぎず、ヨルダン河、其の他の流水を受くるが、外海に通ずることなくして、水分は一、一七乃至一、二三の比重を有し、鹽分は百分中二十六以上に達す、爲めに魚介の生活に適せずして、死を以て海名とするに至れり、而して「アスファルト」を含むことも少なからざるが、故に「アスファルト湖」の名もあり、湖岸は南部及北部に平低なれども、東には七六〇米突、西には四六〇米突の山壁あり、附近は地震少なからず。

地勢 アジアトルコの地はアルメニア高原の一部、小アジア即、アナトリア高原、メソポタミア平地、シリア并にアラビアの一部より成りて地勢上、調和單一の性を缺けり。

アナトリア高原

アナトリア高原は、キフン河の溪谷以西の地にして、アラベル山脈、アンチタウルス山脈は東邊を爲せり、高原の平均海拔は約一千米突なるが、南部のタウルス山脈には三千米突に達する處ありて、黒海に瀕する地は甚だ高からず、西部は數多の溪谷に依りて扇形を爲して、エーゲ海に突出せり、内部には鹽分を含む沙地又は濕潤に過ぐる沼澤地多くして、海拔二千米突に達するが、最高部はカイサリエの近傍アルゲニ山(四〇〇〇)なりとす。

氣候 地勢錯雜なるが爲、氣候も地方に依りて大差あり、パン湖の地方は

世界地理提要 あじあ洲 アジアトルコ

平均六度半の気温なれども夏季には酷暑を覚え冬季には嚴寒を感ず、黒海岸のトラベズントの平均は十五度にして地中海岸のスミルナの平均は十八度なり、パレスチナは概して温暖なれどもゴールの谷地に於ては平均二十四度を示せり、メソポタミアは炎暑夏季には五十度を超ゆる處ありの地なるもシリアアラビアの酷熱に比すべくもあらず。

天産 アジアトルコはアジアの西部に位せるを以て生物はベルシヤ的なるあり、南ヨーロッパ的なるあり、動物は珍奇なるものなく、メソポタミアに於ては殆ど野獸を見ざるに至れり、植物にはエルズルム地方アナトリアの北部等に檉、胡桃多けれどもリバノン山脈が森林に富めりと云ふは既に過去のことたるに過ぎず、而して大河沿岸の地又は地中海に瀕する沃地には穀類、果物等を産す、礦物は石炭、鐵、鉛、銅等ありて採掘せらるるの日を待てり。

住民 人口は約一千六百九十五萬なるが地方に依りて大に其の密度を異にし、小アジア、シリアの沿海地并にメソポタミアに於ては稍密なるも、其の他、臺地、山地、砂地に於ては甚粗なり、而してアジアトルコの地たるやアフ

人口

種族

リカ、ヨーロッパに接近せるを以て古來幾多の種族の來往あり、今日に於ても種族の數は甚多し、今其の主要なるものを記せば小アジアの沿海の地にはギリシヤ人あり、エルズルム地方にアルメニア人、チアルベクル地方にクルド人あり、シリアにドルズ、マロニットの二種族あり、パレスチナ、アラビアにアラビア人多く、トルコ人は各地に散在せるも、小アジアの高地并にメソポタミアの市街を以て最も多數の居住せる處とす。

宗教 はマホメット教最流行はれ信者の數は一千三百萬を下らざるべく、ユダヤ教信者は凡そ二十五萬あり、ギリシヤ人、アルメニア人はキリスト教を信ず、**政治** アジアトルコはトルコ帝國の一部なるを以て「スルタン」の主權の下にあり、而して本地を若干の省に分ち總督を置くが直轄地(甲種)と否ざるもの(乙種)との別あり。

地	方	地	積	人	口	方針に付
小アジア	アルメニア	トルコ	五〇、一四〇〇 <small>カヤ</small>	九〇八、九二〇〇	一八	
甲	トルコ	トルコ	一八、六五〇〇	二四七、〇九〇〇	一三	

世界地理提要 あじあ洲

アジアトルコ

二百二十九

種	乙		種
	サモス	キプロス	
シリア			六三、七八〇〇
メソポタミア			四二八、八六〇〇
アラビア			一〇五、〇〇〇〇
小計			一六八九、八七〇〇
サモス	四六八		五、四八三四
キプロス	九六〇一		二二、一八四三
小計	一、〇〇六九		二七、六六七七
合計			一七二七、五三七七
合計			一七七、六八六九
			九、六

生業 農業は穀類葡萄、罌粟、無花果等を産し、牧業は山羊、綿羊、水牛、駱駝を飼養す。工業は更に振はすして僅に革類敷物を製するに過ぎず、貿易は主としてヨーロッパ諸國との間に營まれ、鐵道は約三千五百二十軒あり、商港はスミルナ、トラベズント、パンラを主とし、アレppo、ダマスク、バグダード、エルズルムは隊商通過の主要地たり。

スミルナ

小アジア スミルナ(Smyrna)二〇一〇一六は一にイスマイルと云ふ、アジアトルコ第一の都會にして要塞を有し港を備へ商業甚だ盛なるが、商權はギリシア人、其の他のヨーロッパ人の手にあり、市街の不潔なると天候の炎熱なるとは屢、悪疫の流行を來たす、ブルッサ(Bursa)七、六三〇三はオリンポス山の麓に位し商工業稍、盛況を呈す、スタタリ(Sakarya)はコンスタンチノブルの對岸に建ち工業行はる、アンゴラ(Angora)はサカリヤ河の畔、海拔八七〇米突にありて生毛を産す、カイサリヤ(Kaisarie)七、二〇〇〇はアルジェー山の麓に於ける一市場なり、トラベズント(Tραπεζοντι)三、五〇〇〇は黒海岸の一港なり。

ブルッサ

カイサリヤ

アルメニア II クルデスタン エルズルム(Erzurum)はエウフラトの上流に近くして海拔二〇三二米突の地に位す、兵事上の要區にして皮革、金屬細工の産あり、チアルベタル(Dirhakar)三、四〇〇〇はチグリスの上流、海拔六六〇米突の地に於ける商區なり。

モスル

バグダード

メソポタミア モスル(Mosul)六、一〇〇〇〇はチグリス河の右岸に建ちて海拔二五〇米突の地にあり、アッシリアの都たりしニヌアの舊趾と相對せり、バグダード(Bagdad)一、四、五〇〇〇〇はメソポタミアの最大都會なり、チグリス河に跨り海拔四〇米突の地に位し第六軍團の司令部あり、古來有名の地にして現に商業の一中心なるが熟皮の産あり、ケルベラ(Kerbela)六、五〇〇〇〇は

エウフラトの西にありてマホメット教徒の聖地たり、ヒルレー(Hillah)はケルベラの南東に位して河に臨みバビロンの舊趾に建てり。

シリア

アレポ(Aleppo)(一二七一四九)はシリア北部の商區たり、海拔三

八〇米突の地に位す、控港をイスカンドルンと云ふ、バイルト(Bairut)(一一八八一)はシリアの最要港にして商業盛なり、葡萄酒、果物等を輸出す、ダマスク(Damascus)(一四〇四八七)は交通上の要衝に當れるが第五軍團司令部ありて絹布、敷物の製造行はれ商業地として名あり、エルサレム(Jerusalem)(五一〇〇〇)北緯三一度三四分はアラビア人のエルクツなり、ユダヤの舊都なるがユダヤ、キリスト、マホメット三教徒の均しく靈地とする處にして宗教史上最著名なり、市街はジッファ港を南東に距ること六十軒に位して海拔七二〇乃至七八七米突にあり、三方に深谷を繞らし耶蘇の墓を有す、ベートラーム(Beth Lahm)はキリストの生地にしてエルサレムの南方約十軒にあり。

アラビア

メヂナ(Medina)(四八〇〇〇)は海拔八七〇米突に位し、マホメッ

トの墓あり、メッカ(Mekka)(六〇〇〇〇)はデッダー(Diddah)港の東方海拔六七〇

アレポ

バイルト

ダマスク

エルサレム

メヂナ

メッカ

米突の地にあり、マホメット教徒の最神聖とする處にして其の教祖の生地なり、一師團の兵を置きて之を衛る、サナー(Sein)(五八〇〇〇)は商業地にしてトルコ兵の駐屯するあり、ホデイダ(Hodeidah)(四五〇〇〇)は珈琲を輸出す。

サモス島

サモス(Samos)はエーゲ海の小島なり、スミルナの南南西に位し、ミカレ海峡を隔てて大陸と對す、長きは四十八軒にして面積は四百六十八方軒に過ぎず、人口は五萬三千餘ありてギリシア正教を奉ず、本島は一八三二年以來フランス、イギリス、ロシア三國の擔保の下に一公國としてトルコに隸するが一九〇五年の輸出は葡萄酒、煙草、葉煙草等の一千八百九十四萬ピアストルなりき、首邑をリスィ(Vathy)と云ふ。

キプロス島

キプロス(Cyprus)は地中海の大島なり、小アジアの南シリアの西に位す、長きは二百二十五軒幅は九十七軒、面積は九千六百餘方軒ありて、南北の山岳帯は中部の平原を挟めり、住民は二十二萬餘ありて其の大部はギリシア人なりとす、本島は名義上トルコの領する處なれども一八七八年以來イギリスの支配の下にありて長官たる高等管理官は行政、立法の二會議に依りて補助せらる、一九〇四一〇五年の貿易は約八十五萬ポンドにして、麥豆類、葡萄酒、綿、乾葡萄酒等の輸出あり、首邑ニコシア(Nicosia)なり。

世界地理提要

あじあ洲 アジアトルコ

cosin(一五〇〇〇)は、メヤス河に沿ひ多少の工産あり。

◎ アジアロシア

ロシア國はヨーロッパの東部とアジアの北部とより成る大帝國なり、アラ
ル、カスピ、アゾフの三海を合はすれば總面積は凡そ二千二百八十四萬方
方寸にしてアジア部の面積は約一千七百四十二萬方寸と成りて全アジア
洲の三分の一以上に當れり、極北はチリウスキン岬の北緯約七十八度にして
極南はヘリウード河の北緯三十五度、極東はデデネフ岬の西經約百七十二
度なるが、此のアジアロシアはコーカシア中央アジア、シベリアの三地方
より成るを以て各部に就きて記述せん。

◎ コーカシア

コーカシア(Caucasia)と稱する地方はカフカズ山脈の南北兩斜面に跨り、
面積は四十七萬方寸に近く、北はマニチの凹窪地に依りてヨーロッパ
ロシアに境し、東はカスピ海に臨み、南はペルシアのアゼルバイジャン、トル
コのエルズ

境域

海岸

山岳

河湖

ルムに接し、西は黒海に瀕す、廣袤は凡そ一千二百方寸に七百方寸ならん。

海岸は出入少く、黒海の岸にバツム、ボチーの諸港あり、黒海、アゾフ海
間にタマル半島あり、カスピ海にはキシランガチ灣、バクー港、バクー半島、
アブシロン岬等あり。

山脈はカフカズ山脈を以て主とす、其の南に一の山嶺あり名づけてアン
チカフカズと云ふ、兩者はスラム山脈に依りて連接せられ、アルメニア高原
の第一階段を爲せり。

カフカズ(Kavkas)山脈はアゾフ海のタマン海に起り、四十乃至二百方寸の幅を以て
北西より南東に走りてカスピ海に突出する、アブシロン半島に達す、長は一千一
百餘方寸に亘り、西部にはオシテン(四五七五)、中部にはエルブルズ(五六三〇)、カシマン
タウ(五二一一)、ザフタウ(五一五九)、チハラ(五二七二)、カスベク(五〇四四)、東部にはテ
アロス(四五〇五)の諸山あり、火山質の山岳少なからず、雪線は南面にありては二
千九百乃至三千七百米突なれども、北面にありては反て稍高くして三千三百乃至
三千六百米突なり、是れ北部は乾燥の地にあるに因るならん、又本山脈を横ぎる通路
中、車行に適するはタリエル(二五〇九)あるのみなり。

河流は閉塞地に終るものなきに非ざれども、主流は二斜面に屬せしむる

世界地理提要

あじあ洲

アジアロシア

地勢

を得、其のカスピ海斜面にカラウス、クマ(五四〇)、テレック(六一六)、スラル、サムル、クラ(二〇五〇)、アラス(七八〇)あり、其の黒海、アゾフ海斜面にクバン(八一〇)、イソグル、リオン、チオロクあり、沼湖は北にマニチ、南にゴクチあり。

カフカズ山脈の北方にある地はステップより成りて不毛沙洲の地多く、遊牧の民を觀るに過ぎざるが、南部は高臺盆地に富みて土壤も亦優良なれば、古來群邦の割據する處たり。

氣候

氣候は土地の高低と日光の強弱とに依りて大差を生ぜり、山脈の北面又は西にありては多少の濕氣を受くるも南又は東にありては大に乾燥炎熱を感ず、特にアルメニアの高原又は山地に於ては極寒極暑相續ぎて夏季に四十五度の高温あるも冬季には零下三十度乃至三十五度に下りて沼湖の氷結は數月に亘る、雨量は西部に三四米突を受くるも南東に於ては五十耗に過ぎずして、バク地方は六月間一滴の降雨をも見ざることもあり。

天産

カフカズ山脈はアジア的及びヨーロッパ的生物の分界線たる觀を呈するが、動物に虎、豹、ハイエナ、熊、栗鼠、兎等あり、植物に松、胡桃、橙或は葡萄、桑、綿、稻、麥等

住民

ありて、礦物に石油、石炭、岩鹽、銀、鉛、銅等を産せり。

人口は九百二十五萬ありて一方平均二十人なり、種族の饒多なる、細目に涉るの程度に従ひて四十乃至六十の民族を得べしと云ふ、今茲に稍顯著なるものを擧げんに、ゲオルギヤ人(九八萬)は山脈の南面に多く、チルケス人(三六)は其の北面に居り、共に容姿の秀麗なるを以て名あり、アルメニア人(二二〇)は身體優美の種族にしてアラス流域の地に住す、トルコ人(九八)はカスピ海沿岸の地に住し、スラブ人(二五〇)は大小のロシア人、其の大部を占めて各地に散在せるも主として北部にあり、此の他にペルシア人、ユダヤ人等あり。

行政

本地は擧げてコーカシア太守の管轄に屬し、分ちて六省、四州、一領土とす、其の中、スタフ、ロボル省、クバン州、テレク州、黒海領區はシスコ、コーカシア(内)、コーカシア)にありて、バク、イェリサベト、ボル、エリバン、チフリ、スクタイ、ス省、ダゲスタン、カルスの二州はトランスコーカシア(外)、コーカシア)にあり。

生業

農業は小麦、大麦、燕麥、玉蜀黍、米、綿、染料等を與へ桑樹の栽培も行はれ、桃、杏

櫻、巴旦杏等の良果を産す、殊に葡萄酒は好評ある飲料を供す、林業は尙有用の木材を興ふ、漁業は甚盛にして鱒、鮭、鯉等の總年額は二百萬、ルーブルに達すと云ふ、山間に行はるる獵業は野兔、栗鼠、青狐、貂等を捕獲す、鑛業は石油を以て第一とし、バクラー附近の地に於て盛に産出す、又製絲、燃絲の工業は漸次隆盛に趣きて、敷物の製造は古來名あり、道路、鐵道等の交通機關には少なからざる注意を拂はれたり。

チフリス

チフリス(Tiflis)一六、〇六四五北緯四一度四二分 東經四四度四八分は絶崖の間を流るるクラ

バクラー

河に瀕し、海拔四五四米突に位す、總督府の所在地、交通商業の中心にして市街は漸次旺盛に趣くが住、民雜多なり、アレクサンドロポル(Alexandropol)(三二、一〇〇〇)はアルパチャイ河に瀕し兵要地の一たり、バクラー(Baku)一一、二二五三はコーカシア第一の商港なり、鐵路は黒海岸に通じ汽船はトルキスタンに通じカスピ海岸に於ける海軍の要地なるが殊に石油を以て著名なり、デルベンド(Derbend)はカスピ海の小港なり、クタイス(Kutais)(三二、一〇〇〇)はリオン河畔の舊市にして製帽に名あり、ポチー(Poti)はリオンの河口にある港にして

クタイス

ウラザカフカズ

スタフロポル

イエカテリノダル

イエイスク

チフリス鐵道の起點に當り絹布、穀物を輸出す、バツム(Batum)(二、九〇〇〇)は海軍の要區にして黒海東岸の良港なり、農産を集散す、ウラヂカフカズ(Uladikavkas)(四、三、八、四、八)はカフカズ探題と自稱す、テレク河畔、海拔七三八米突に位し、ダリエル峠の咽喉にして兵事、交通、商業の焦點なり、スタフロポル(Stavropol)(四、一、六、二、一)は山麓にあり豊饒の土地にて圍繞せらる、イエカテリノダル(Jekaterinodar)(六、五、六、九、七)はクバン河の岸にあり製造業、商業に従事す、イエイスク(Jeisk)(三、五、四、四、六)はアゾフ海の一小港なるが漁業并に商業に従事す。

◎中央アジア

境域

中央アジアは西トルキスタンの主要部にシベリアの一部、外カスピ地方とを加へたるものより成れり、東はタルバカタイ山脈、天山山系より西はカスピ海に至り、東はシベリアに連なり、南は清國新疆省、アフガニスタシ、ペルシアに接するが面積は三百六十四萬餘方呎あり。

地勢

中央アジアは南東バミル高原、天山山系より北西に傾きて西部にウストウルトと稱する臺地を有するが概して平低の地多く、中にはキルギスの如

山岳

キステップの地あり、アクトム、キシルクム、カラクムの如き沙漠の地あり、然れども處々に泉地なきに非ずして殊にフルガナ地方は頗る肥沃なり。

北西部にムゴジアル山脈、南西部に大バルハン、小バルハン、コベット、ダハ、等ありと雖、海拔甚高からずして顯著なる山脈は南東部より東部に蟠廻せり、其の主要なるものは天山山脈(ハンテウリ、アライ山脈、トランスアライ山脈、クンゲイアラタウ山脈、テルスケイタウ山脈、アレクサンドル山脈(四六八五)、ブクサイ山脈、タラストウ山脈、カラタウ山脈等を包括する天山山系にしてタルバガタイ山脈にはムスタン(三四五一)あり、パミル高原にはカウフマン(七〇一〇)あり。

河流

今主要なる河流を記せば北部にトボル、イシム、イルチシあり、東部にイリ一五〇〇あり、中部にサリ(八〇〇)、チウ、ダラス、シル(一六五〇)、ザラフシャン、アム(二五〇〇)、ムルグアブ、テジエンドあり、西部にエムバを見る。

アム河、即ちアムダリア(Amudarya)は古名をオクスと云ふ、水源はパミル高原に發するサハルト(南派)、ムルグアブ(中派)及び、スルグアブ(北派)より成りて概し北西の方向に流

シル河

れ下流はタルサク、ヤニス等に分かれて鹹湖に注ぐ、長さは二千五百料あり、ヒバ附近のピトニクに於ける排水量は一秒時三千五百四十立方米突なり、而して本流は往古カスピ海に終りしことありてメルフ地方を潤す、ムルグアブ、ザラフシンの如きはアムに達せしと云ふ、目下支流の主なるものは左岸にバンガア、コクチアあり、右岸にラクシウ、カフィルナカンありと雖、其の下流一千料以上の間には一も存せず。

シル河、即ちシルダリア(Sirdarya)は古名をヤクサルと云ふ、天山山系中のマトロフ氷河の下に發し上流をナリンと云ひ、カラダリアを合はせて始めてシル河と成る、四流してホーゲンダを過ぎたる後、急に北西に向ひアラル海に注ぐ、本流は源委通じて一千六百五十料あり、下流に於ける河身は屢、移動せり、云ふ、沙洲多し。

沼湖

沼湖の數は少なからずして東部には、ザイサン、アラクル、サンシクル、バルハシ、イシククルあり、中部にテニス、チアルカル、テニス、アラル海、西部にカスピ海、バルスクあり、此等には淡水性あり、鹹水性あり又面積の縮少するものあり。

カスピ海

カスピ海(Caspian Sea, mer Caspienne, Kaspisches Meer)は世界第一の大湖にして面積約四十四萬方料あり、長は一、千九十四料、幅の中間に基づけば一、千二百六十料あり、幅は二百乃至五百五十料あり、水面は外海の表面より低きこと二十米突なりとす、水深は北部に六七百米突、南部に九百餘米突の處あるが、中部には水底山脈の横ぎるありて稍、淺きものの如し、エムバ、ウラル、ボルガ、テレク、クラ、アトレク、等の諸流注入し

水中の鹽分は界外洋に於けるものと同じく鱒、鮭等の産あり、海岸は東部に於て殊に風折し島の著しきものをチレンケンと云ふ、本湖は古來交通上の利便に供せられしがカスピ鐵道の開通以來一層其の用を増大したり、又沿海に行はるる漁業も盛なりとす。

アラル海

アラル(Aral)海は六萬八千方料の面積を有し海拔四八米突の地にあるが、南北の最長三百五十料、最大幅二百八十料、平均水深十乃至十五米突にして鹹味を帯ぶること甚しからず、鱒、鮭多く湖上島嶼點在し航行困難なり、アムシルの二河此處に注ぐ、本湖の水量を維持するに足らずと云ふ。

バルハシ湖

バルハシ(Balsash)湖は海拔二三六米突の地にありて長は五百四十餘料に達するも幅は十乃至八十五料に過ぎずして弓形を呈し面積は約二萬一千方料あり、往古は頗る廣大なる咸を占め今のサシクル、アラクル等の諸湖を含みしと云ふ、平均水深は二十米突内外にして鹹味少なく魚類に乏し、本湖に注ぐ河流はイリを始め、其の他六流あり、是れ常地方にセミバラチンスク(七河地方)の名ある所以なり。

氣候

氣候は大陸的にして寒暑甚しく冬は北部に於て零下四十度に降り、夏は南部の日蔭に於て三十六度を示し、サマルカンドにては極寒極暑の差七十五度に及び氣温の變化は急激なり、空氣は甚乾燥にしてキシルクム、カラクム、の沙漠には終歲一滴の降雨も見ざることあり、年平均雨量はタシケン

天産

に三十二粉、サマルカンドに三十四粉なり、南部、東部の山岳地方には比較的多し、而して沙漠の地はテバドと稱する熱風に苦めらる。

動物には驢、羚羊、虎、狼等あり、殊に蚊、蝗、蚱の勢力は恐るべしと云ふ、家畜として飼養せらるるものは駱駝、馬、羊、牛なり、植物はサクサウル、ニジダ、白楊等を主とし水利のある處には穀類、果物、其の他の栽培行はる、鐵物は南部殊にホーヂェンド附近に多し。

住民

人口は約七百七十二萬人ありて一方料に付き二人に過ぎず、種族に就きて其の最多数を占むるは遊牧を事とせるキルギスなり、此の外市街の地にはサルト人多く、農民にはタジク人多し又ウスベグ人はフルガナ地方に勢力を有し中央アジアのトルコ族中最開化せるものなりとす、而してスラブ人は北部にありては各種の業務を営むも南部にありては官吏士卒多くして普通の人民としては少なし、宗教はスニト派のマホメット教最、勢力を有すれども亦シイア派あり、キリスト教徒、拜火教徒も見らるる所なり。

政治

地勢上シベリアに屬すべきステップ州を合はせて九州に分たれ、二州

生業

ク、ツルは内務部の直轄に屬し他の二州アグモリンスク、セはステップ總督殘、五州セミレチエンスク、フエルガナ、シルダリはトルキスタン總督の支配の下にあり。草原の地には多少の牧場あり、濕潤肥沃の谿谷には耕地を見、實綿穀類生毛、皮革等の輸出あるも、要するに物産少なく生産力に乏しき地なり、而してトランスカスピ鐵道(一八九〇)の建設、灌漑工事の擴張は頗、此の地方の發達を促せり、該鐵道はアム河、シル河或はイリ河と相俟ちて印度又は支那に通じ得べく、大北帝國の南下に關しては中央アジアも重要な地なり。

タシケント

タシケント(Tashkent)一五、六四一(四)北緯四一度一八分はトルキスタン總督の駐在地なり、市街はシル河の一支たるチルチクに沿ひ、海拔四六〇米突に位す、住民極めて雑多なるが、タジク人大部を占む、而してロシア街は道路廣潤、家屋清麗にして一新面目を呈す、商業は盛に行はれ、又絹布、柔皮、陶器等の製造あり、ホーヂェンド(Chodschent)三、〇〇七(六)は海拔二五〇米突にあり、タタル街とロシア街とに分かれ、周圍に胸壁を構ゆる城塞地なり、絹布を産す、ホーカンド(Hokand)八、二〇五(四)はカラス河に瀕する舊都の地にして、海拔四〇

ホーカンド

ナマンガン

アンヂヂン

サマルカンド

〇米突にあり、紙類、織物、鑄物等を製し商業繁榮なり、舊マルジラン(Margelan)三、六五九(二)はホーカンドの東微南に當り、養蠶に従事し絹布、毛布を製す、ナマンガン(Namangan)六、一九〇(六)は海拔四〇八米突にありて皮類、綿布を製し綿羊、雜貨を集散す、アンヂヂン(Andischan)四、六六八(〇)はナリンの支流に近くして、フエルガナ第一の沃土にあり、海拔四六〇米突に位する商業地なり、オシ(Osh)三、六四七(四)はアクブラ河の畔、海拔一〇一〇米突に位す、アライ并にパミルに達する通路に當り、雜貨を集散す、サマルカンド(Samarand)五、四九〇(〇)はゼラフ川の流域、海拔六七〇米突にあり、舊チムレンクの都せし處なるが、城塞は市街を新舊の二部に分ち、絹布の製出あり、商業稍盛に行はる、メルフ(Merf)二、〇〇〇(〇)は同名の泉地にありて、ムルグアブの下流、海拔一七二米突に位し、軍事上又は通商上の要地なり、ウスンアダ(Usunada)はカスピ海の一港なり、クラスノボドスク(Krasnovodsk)も亦カスピ海の岸にありて、トランスカスピ鐵道西部の終點なり、オムスク(Omsk)三、七四七(〇)はオム河とイルチシ河との合流する處、海拔四九米突にあり、ステップ總督府の所在地にし

て城塞あり兵學校あり、商工業共に盛なり、ウラルスク(Уралск)三、六五九七はウラル河の右岸、海拔四三米突にありて畜産并に漁産を集散す。

中央アジアに於けるロシアの屬地に二あり、其の大なるをブハラと云ひ、其の小なるをヒバと云ふ。

屬地

ブハラ

ブハラ(Buchara)國はロシアのトルキスタンを北にし、東はカスピルに至り、南はアフガニスタンと境し、南西はトランスカスピ州及ヒバ國に隣り、面積は二十一万方料に餘り、長五、六百料、幅三四百料あり、人口は百二十五萬ありて、マホメット教を奉ず、此の國は一八七三年の條約に依りてロシアの屬地と成りたり、君主、エミール、[ヒ]ウスベク種族より出で、一萬餘の兵を有するが、ロシアはアムル河上に五隻の兵船を備ふ、水利ある處には耕地ありて、實綿、生絲、其の他の産あり、トランスカスピ鐵道は當國を横ぎり、アム河には航運の便あり、首都ブハラ(七、〇〇〇)北緯三九度、六四分、海抜二四〇米突にあり、マホメット教徒の聖地たるのみならず、通商上の要衝に當るを以て市街極繁華なり、カルシ(Karachi)二、五〇〇)は首府の南東、海拔四六〇米突に位し、武器並に銅器を産す。

ヒバ

ヒバ(Chiva)國は東はアム河に限られ、北はウラル海に至らんとし、其の他はトランスカスピ州に接す、長、三百二十二料、幅二百二十五料あり、面積は六萬方料にして、其の一萬三千五百方料は泉地に屬し、殘部はステップを爲せり、住民は八十萬

ブハラ

ヒバ

人ありて、マホメット教を奉ず、當國は一八七三年の征討後、大北帝國に屬し、君主汗はウスベク種族に屬す、土地はアム河より導ける運河に依りて潤され、生絲、實綿を産す、首都ヒバ(三、〇〇〇)はタシケントを距ること七百五十料の地にありて、穀物、絹布を製す、新ウルゲンヤ(Urgendj) (三、〇〇〇)はヒバの北東四十料にありて、アム河に瀕し、内外の物産を集散す。

◎ シベリア

位置 シベリア(Siberia)はアジアの北部にありて、極南は豆滿江口の北緯四十二度二十三分に、極北はチリウスキンの岬の北緯七十七度三十六分にあり、極西は東經凡六十度、極東は西經凡百七十二度とす。

境域 北は北極洋に面し、東はベーリング海峡、ベーリング海、千島海峡、オホタ海、日本海に限られ、南は韓國、清國に接し、南西は中央アジアに接し、西はウラル山脈を隔ててヨーロッパロシアを控ゆ、東西六千七百五十料、南北三千料に近く、面積は約一千二百五十萬方料なりとす。

海岸 海岸線は長からざるに非ざるも、概して結氷の爲に閉塞せらるるを免れず、其の北極洋岸は一般に低くして、海灣には深く凹入するものあれ

は二派に分かれて東派は十二座の活火山と二十一座の熄火山を包括し、西派は五座の熄火山を有するがクリツチ(四八八七)、シウエリチ(三三五三)等の高峰を有す。

河流

水誌 土地廣大にして山脈は主として南東部に偏在するを以て河流の巨大なるもの甚多し而して大支流の多くは北西或は北東に流れて本流に會し水路は相連なりてウラル山脈より太平洋に達せんとす然れども河口は概北極洋に瀕する寒冷の地にあれば結氷期長くして實際に効用あるものは至つて少なし北極洋斜面にはイルチシ||オプ(五六八五)、イエニセイ(四七五〇)、ピアシナ(五三四)、ハタンガ(六四〇)、オレネク(二一三四)、キチム||レナ(五四六五)、ヤナ(一六〇〇)、インヂギルカ(一五〇〇)、コリマ(一六〇〇)あり太平洋斜面にアナデル(一一五二)、カムチャツカ(五〇一)、アムル、ウスリ(八〇〇)あり。

オプ河

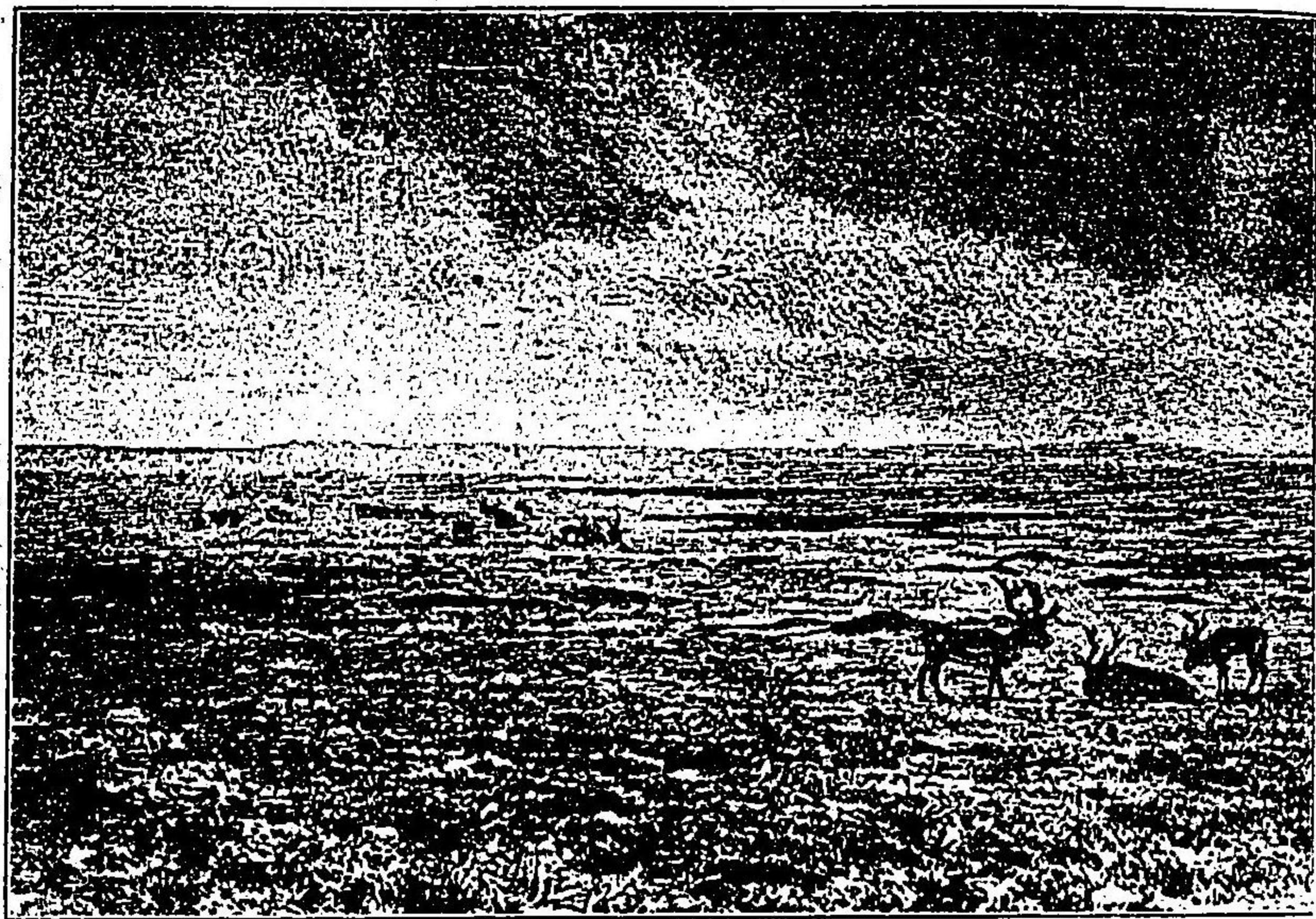
オプ(Ob)河(四二〇〇)はオビ河とも云ふ、ピエルハ山脈に起りバルナウルカの水を受けて山地を離れ三百乃至八百米突の河幅を以て曠原の地を緩流して派流を爲しイルチシを容れ北轉して森林帯に入りツンドラ中に進み幅五十料、長八百料の狹灣に依りて北極洋に朝す、本河の全長はイルチシ||オプとすれば五千六百八

十五料に達し流域は三百五十萬方料に達す、支流は右岸にトム、チウリム、ケット(一一〇〇)、ナム、ワフ、等ありて、左岸にチアリシ、アレイ、イルチシ、コンドソスバ、等あり、イルチシ(Irtysh)河(四〇〇)はコプト高原の南方に於けるアルタイ山脈に發しウルゲンと稱する湖河の潜流を受け黒イルチシと成りロシアの領土に入りて五派に分かれてザイサン湖に注ぎ、該湖を出づるやイルチシと稱しオム、イシム(一六七五)、トボル(二六〇〇)等を合はせて一大河と成りオプ河に入る。

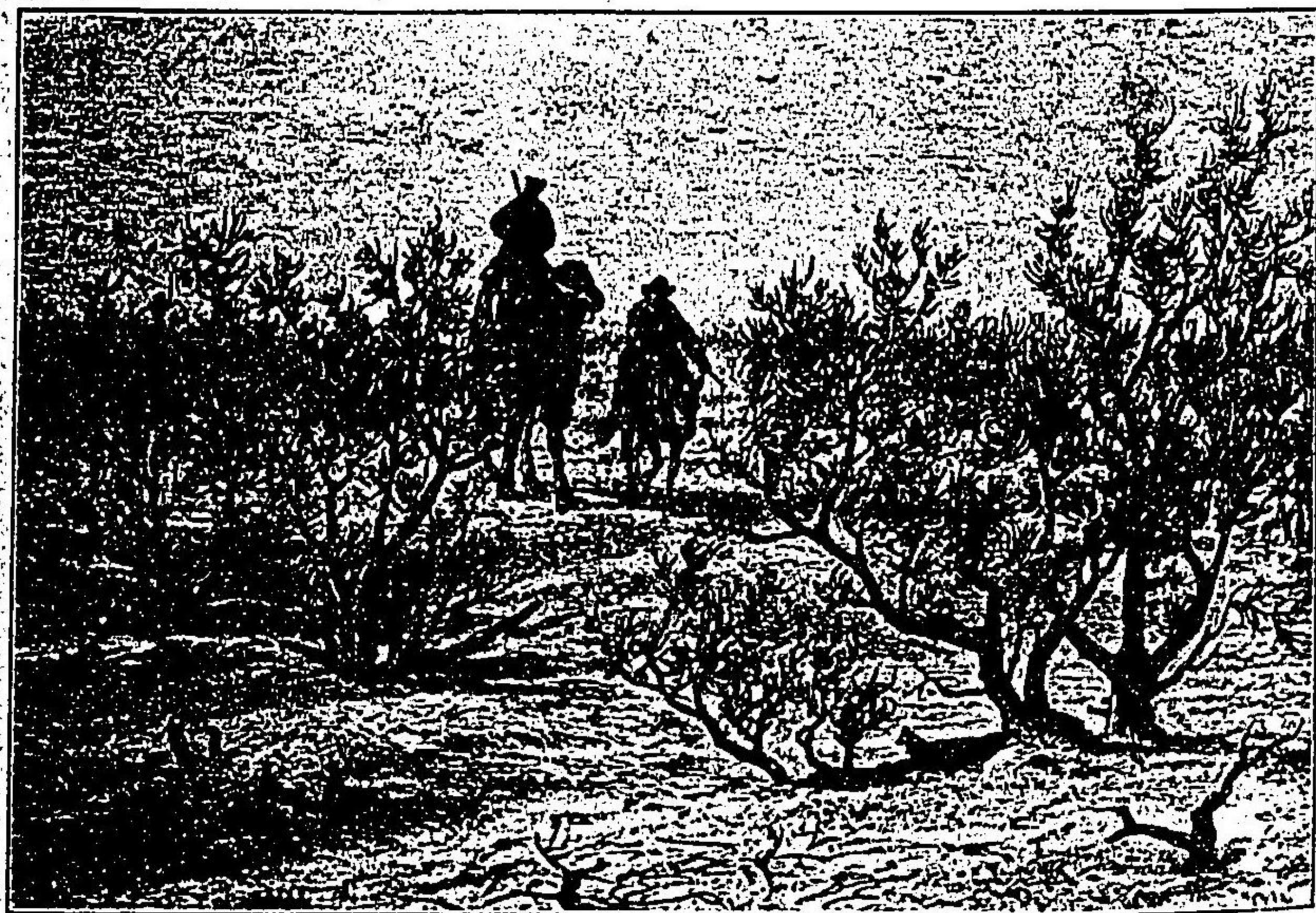
セレンガ
アンガラ
イエニセイ
河

セレンガ||アンガラ||イエニセイ河は四千七百五十料の長と二百九十五萬方料の流域とを有すセレンガ(Selenga)河は源流をエテルと云ひエケゴル、オルホンの水を合はせてバイカル湖に入るアンガラ(Angara)河は非チム、塞地より來りて上アンガラと稱せらるるが同湖を出づるや下アンガラと云ふ、イルクト、オカ、ウダ、イリム等を合はせたる後イエニセイ河に入る、イエニセイ(Enisei)河はサヤン山脈の南面に發するベカム、フアケムの合流たるウルクムガクムチクを合はせロシアに入りたる後の名にしてクラスノヤルスク附近に至り河道は海拔一六〇米突にあり、アンガラ河即上ツンカスカ河を容れて北に進み左よりシム、ツルハン、等、右より山ツンカスカ(二七〇〇)、クレイカ、等を容れ下流に於ては濶二十二乃至二十五料の三角洲を抱き幅六十料内外の河灣をなして海に入る、魚類の産はオプの如く多からず、レナ(Lena)河(四八〇〇)はバイカル湖の南西三十二料、海拔一千米突の地に發源し樹林叢鬱たる峡谷を流れ、東バイカル山脈より來る非ナム(二一三五)を容れし後、河

レナ河



地衣ツンドラとトナガヒ(馴鹿)



サクサウル (Saxaul) (Haloxylon ammodendron)
[ヅンガリア ステップ, Dzungaria stepp]

アムル河

身増大して六百四十米突に達し、オレンクマ(一五〇〇)マイヤアムガを捉げ来るアル
ダン河(一三〇〇)等を合はせ河幅一千五百米突を以てヤクーツクを経、方向を北西
に轉じて左岸第一の支流たるサリウイ(二〇〇〇)を受けたる後、ツンドラに入り北
流して三角洲(二二〇〇〇)を形成し遂に海に入る、サチムレナ(二二〇〇)の長は五千四百
六十五料に達すと云ふ、流域は凡そ二百五十萬方料あり、河、中魚類少なからずして沿
岸の地は獵産林産等に富めり、ヤクーツクとキレンヌクとの間には通舟の便あり。
アムル(Amur)河はサハリンウラ又は黒龍江と云ふ、ケシタイ山脈に發する源流
ケルレンはシルカ河と合して始めてアムルと稱す、シルカ(Schilka)河(二二〇〇)はソホ
シド山に發するインゴダとケシタイ山脈より出づるガシリンとの合流より成れ
り、此の如くにしてアムルは約四千四百料の長を有する大河なるが、ロシアに屬す
る部分では中流の左岸又は下流なり、而して、ロシア部の支流はセイヤ(二二〇〇)、レン
ヤアムケン、ウスリ(八〇〇)を以て主とす、ウスリ(烏蘇里)河はシホタアジシの南端に
發してハンカ湖、其の他、ダムレン、ノル、イマン、ビギン、ホル等の水を受け、河幅二十三
料を以てアムルに終り、八百料の長を有す。

沼湖

沼湖は西部にチアニ(三六一二方料)、クルンダ(七五二)等あり、東部にバイカル
(三四九七五)、ハンカ(興凱)(三七九二)分露す等あり。

バイカル湖

バイカル(Baikal)湖はアジア第一の淡水湖にして、世界屈指の大湖たり、北北東

開種一帯の平野にありては冬季永く降雨稀にして土地

は薄き表面を除く外常に氷結しあるを以て植物の發生期

極めて短く風色單調、動物の生存少なく實に寂々寥々たる

地域なり、アジア又はヨーロッパの北部にあるを「ツン

ドラ」(Tundra)と云ふアメリカにありては「バーレン

グラウンズ」(Barren grounds)の瘠地と云ふ、稀には柳又

は樺が叢密を爲すを見るも樹の高は十六程を越ゆるもの

なく藓苔地衣を以て主要なる植物とす、從て「ツンドラ」

に別あり、藓苔「ツンドラ」は濕地にして地衣「ツンドラ」

は乾燥せる礫地より成れり。

サンサウル (Saxnahl)(Juncus acutiflorus)

は砂地に發生する高さ三四米突の灌木なるが枝の多きに

拘らず葉を有せざれば陸を與ふることなし、幼枝は駱駝

の飼料に供し佳良の薪材なり。

デリスン (Dyrisson) (Lasioglossis splendens) [禾

本科] は鹹味を帯ぶる粘土質の地を好み高さ二三米突の

小叢を爲して雉、燕、野兎、狼、狐、等に隠棲處を與ふる

が、牧草に用ひ帽子、敷物又は被覆に製すべし。

リ南西に亘り長さ六百七十二料、幅は四十乃至百料、面積三萬四千九百七十五方料にして周回は一千五百七十九料あり、又水面は海拔四百六十九米突に位し平均水深は二百五十米突あるが、最深點は一千三百七十五米突あり、上アンガラ、セレンガ、等二百餘の水流を受け水色斐然として清く湖岸は絶壁奇岩多く湖上には一のマルホン島を見るのみ、湖水は毎年十二月より翌年の五月まで氷結するも魚類の生産夥しく海狗も南東岸には棲息す、湖の南西岸に幅一千里突の低處あり、下アンガラ河の流出する處なり。

地勢 シベリアは南部及び東部に於て山岳を有するも南東より北西に向

ひて緩斜する平低の地多し、然れども高地と低地との區別の有するはイニ

セイ河以西に於ける西シベリアにして、起伏に富める東シベリアには高隆

なる丘陵の縦横に走行するを見る、而して北緯六十五度以北の沿海地方は

所謂ツンドラ(凍土帯)に屬し僅に夏季の間多少融解して沼澤の地と成るが、

之よりタイガ(森林帯)を経て南するに従ひステップ(草原帯)の地と成る、ステップ

中にて、トムスクの西に於けるバラバの如きは地味肥沃なり。

氣候 氣候は純然たる大陸候なり、蓋北に面する平地は氷洋に瀕するの

みならず、寒烈なる北極風を遮ざる山脈なく、之に反して南部には高山秀峯

ツンドラ
タイガ、ス
テップ

氣温

の連綿たるありて熱帯地方より吹き来る高温風を防遏す従て同緯度の他の地に比すればシベリアは遙に低温を示す現に年平均の零度以上に達するは南西の一部に限れり而して春は好季なるも來去極めて速なり夏は短きも高温に達すること恰赤道直下にあるが如しヤクーツクに於て三十度を超ゆることありて稀には三十八度に昇ることあり殊に寒暑の差烈しく寒極と稱せらるるベルホヤンスクは北東部にありて極寒は零下六十九度を示すが年平均は零下十七度二なり。

地名	年平均	一月	七月	八月	寒暑の差
ベルホヤンスク	(一) 一七、二	(一) 五、二	(十) 一五、〇		六六、二
ヤクーツク	(一) ?	(一) 二、〇	(十) 一八、〇		四一、〇
イルクツク	(一) 〇、二	(一) 二、〇	(十) 一八、八		三九、二
オホーツク	(一) 五、一	(一) 二、三	(十) 一三、三	月八	三七、〇
ウラヤチナストク	(一) ?	(一) 一、四	(十) 二、〇	月	三四、〇

降雨は南より東に越くに従て其の量を減じ夏季には概して乾燥を極む

降雨

風

と云ふ冬季の雪は西部レナ河の下流地方ヤナ河の流域に比すれば東部に少なきがタイガ地方にはブルカ即、猛烈なる飛雪の起ることあるも冬天は殊に清鮮なり風は冬季に於てはウラル山脈、イニセイ河の間に南及南西の風多くレナ河流域は北西風多し夏季に於ては西海岸は極軟風を受け東海岸は繼ぐに太平洋より来る南東の濕風を以てす。

植物

天産 植物に就きて記さんにシベリアは氣温低く濕氣不充分なれば樹

木の生長は遅々たるもステップの北に於けるタイガ即、森林帯は北緯五十五度より同六十五度に至る地を蔽ひて落葉松、ビクタマツ、センプロマツ、シベリアモミ、大松樺、白楊、樺、ヤチダモ、カヘデ、等を産す動物は寒地特有の毛皮獸に富み極兎、青狐、其他、狐の各變種、極犬、海狗、シベリナ、銀鼠、栗鼠、極熊、水獺、極猫等あり魚類には、ステルレ、鱒、オンブラ、鯉等あり礦物は其の産少なからずしてウラル地方に金、鐵、白金、孔雀石等ありアルタイ地方に金、銀、鉛、銅、鐵、亞鉛等ありリアホフ群島、レナ河口附近の地中よりは、マンモスの牙類を産す。

動物

礦物

沿革 西曆紀元前百年頃より紀元四百年代の間に當りてシベリアには堅昆、高

車即ち丁零等の諸族著はれ、突厥亦漸盛にして六百六十年代に唐の爲に征せられしことあり、其の後、韃靼、突厥、乃蠻、克烈等の諸族起りしが、蒙古の成吉思汗の攻略する所と成り、元の衰ふるや土人割據し、ヨーロッパ人の侵略を蒙りしなり、ヨーロッパ人にして始めてシベリアの土人と交渉せしは後にロシアに滅ぼされしノアゴロド人なりと稱せられ、シベリアの如きは早くロシアに歸服(八四)せしことあり、然れどもシベリアが眞實にツァールの領土と成るに至りしはコザックの統領イェルマツクがコザック人数百名を率ひてシベリアに進發(七五)せしに由れり、コザックは僥倖にして劫掠を事とし、後凡そ百年の間にアムル地方の外、全シベリアを取れり、アムル河畔はハバロフの經營(一五六)する所と成りしが、ヘルチンスク條約(八六)に依りて此の地方を清國に割讓するの止むを得ざるに至れり、然れどもロシアはウラル山脈よりカムチャツカに至る間は大概之を有することと成り(一七九)ムラビヨフをして受領條約(一八五)を訂結せしめて更にアムルの下流地方に地歩を占め、清國とイギリス、フランス兩國との和議に奔走せる報酬として清國よりウスリ江東の地を得(三〇八)又我が日本とは境界に關して紛争久しきに亘りしが、カラフト島と千島との交換條約を結びて一時局を結べり(七五八)而して近年北清事件に當りては滿洲を占領し、撤兵の期に及びて約を履まず、韓國の獨立を危うせんとせしを以て遂に彼我の交戦を來たし、我が連勝の結果はポーツマス條約を成立せしめ、ロシアはカラフト島の南部を失ひたり。

人口

住民 土地の廣大なるに拘らず人口は一八八五年の四百三十一萬餘、一八九七年の五百七十五萬餘にして、百方軒に付き七人乃至二百三十人、平均五十人の割合に過ぎず、其の分布は南部に偏し、北部は極めて粗なるがヨーロッパに近き西部は比較的稠密なりとす、又人口の増殖は主としてヨーロッパよりの來住者に基づけるが、罪人の謫流地たりし頃には有益の事業に對する率先者の多くを國事犯者に仰ぎたり、而してシベリア鐵道の建設以來殖産は活氣を帯び、移住者を増加せんとす、來住者の數は一八九六年に十五萬人にして翌年は二十萬人なりき。

種族

種族は頗る錯雜なり、一八八五年の調査(人口總數六二一、一〇〇〇人、ベルに從へば七派に分かる、第一のヨーロッパ派(五五、一二千人)はスラブ(五五、〇九)アロシカ人、ドイツ(三)の二に分かれ、第二をセム派(八)、第三をオスチアク、イニセイ(二五)、サモイェード(一七)、ボグル(六)、ソイオト(二)より成るフィン派(五〇)、第四をトルコ、タタル派(三〇〇)とし、シャクト(二〇〇)、タタル、アルタイ、カルムク(一〇〇)を含ましむ、第五のモンゴル派(三、三三)にはブリヤト(二五〇)、ツングス(五

○支那人、滿洲人(一〇)、朝鮮人(三)あり、第六の北東派(二七)にはチウクチ(八)、ユリアク、ユカギル(五)、ギリアク(八)、カムチアカダ(三)、アイヌ(三)あり、第七の印度派(五)は即ちツイガヌなり。

宗教

宗教中最勢力あるものはキリスト正教即ちギリシア教にしてスラブ種族を始とし其の他の教化の民は之を信ず、天主教、ユダヤ教、マホメット教を奉ずるものは多からず、又ラマ教、シヤマン教はブリアト、サモイイード、オスチアク、ツングス等の土人の間に行はる。

教育に就きては小學校、中學校を各地に設けて普通教育を授くれども女子の就學者は男子より遙に少數なりと云ふ、大學はトムスクに設けらる、又土人の部落にも學校あり、要するにロシア政府はギリシア教とロシア語とに依りてシベリア在住の各種の人民を教化結合せんとするもの如し、而して其の結果空しからずして既にブリアト、其の他の種族中にロシア的愛國家を生ずるに至れりと云ふ。

教育

政治 シベリアに關する自然的境界と政治的境界とは一致せず、行政上

のシベリアは五省、三州並にサハリンより成り、各省に知事、其の他に軍政知事を置き、内務部直轄の二省以外は總督又は知事をして統轄せしむ。

管轄者	行政區	地積	人口	方料	首府
内務部	トボルスク省	一三八、七四三	一四三、三〇四	一、〇	トボルスク
	トムスク省	八四、七三九	一、九、七、七九	二、三	トムスク
イルクツク總督	イニセイスク省	二五四、三三九	五七、〇二六	〇、二	クラスノイアルスク
	イルクツク省	七三、三三六	五、四、三六	〇、七	イルクツク
	ヤクーツク州	三九四、七五八	二六、九八〇	〇、七	ヤクーツク
	後バイカル州	六、三三六	七、二〇七	一、二	チタ
	アムル州	四、五、一七七	一三、〇三六	〇、四	ブラゴベシチェンスク
アムル總督	沿海州	一八、六九八	三三、三三六	〇、二	ウラヂラストク
	サハリン	四、四〇〇	?	?	アレクサンドロフスク
シベリア		三、四、六、〇〇〇	五、七、三、〇、〇〇〇	〇、五	

兵備

陸軍は第一軍をニコリスクリウススキに、第二軍をチタに、第三軍をイルクツクに置けるが有名なるコザック兵外バイカルは屯田兵にして各地の要處に駐屯せり而してウラヂラストクに要塞を備ふ又海軍は近年の戦役に依りて大に勢を失ひ、三十四隻約三萬噸の艦船を有するのみ。

獵業、漁業

農業

林業

畜業

礦業

生業 生業は未だ盛なりと云ふを得ざれども亦見るべきものなきにしもあらず、獵業は獵具、獵法の無謀なりし爲、現時の如き衰頽を觀るに至れり、漁業は獵業と同じく濫漁の結果として大に漁産の減少を來たせり、農業に就きて耕種の行はるるは北緯五十七度以内にして其の方法極めて幼稚なるが穀類、煙草等の産あり、林業は伐採の方法宜しきを得ずして森林減少し樹種の劣退を來たせるが有用なる木材は主として潤葉樹に求むべし、畜業に關しては草圃、牧場等に富めるも良種皆無なり、而して飼養せらるる畜類は馬(二〇〇萬頭)、牛(二一五、綿羊(二八〇)、豚、山羊、馴鹿、駱駝、犛牛等あり、ウラル地方殊にアジア斜面は黄金を始とし、鐵、白金、寶玉、寶石等を産出するが産地の主要なるはベルム州のニジニタジルスク、イェカテリンブルグ等とトボルスク

工業

商業

交通

省のペロゾフ、ツリンスク等とす、而してアルタイ地方即ち金山地方及其の附屬鐵區は鑛産上遙に前者に優る者ありて多量の金、銀、銅、鐵、亞鉛を與ふ、又トムスク省等に於て探掘せらるる工業の發達は甚だ遲緩にして大鐵道の開設後と雖、日尙淺き今日に於ては未だ盛況を呈するに至らず、蒸溜製革、製脂、煙草製造、毛布製造の如き小工業は少しく存す、内地に於ける百貨の集散は毎歲各要處に開設せらるる年市に依れるが貿易港の主要なるものはウラヂラストク、ニコライエフスク等にして陸路貿易場にキアプタあり、而してキアプタ經由對清貿易はスエズ運河の開鑿とシベリア鐵道開通との影響を蒙り漸次減少しつつあり、ヨーロッパシアに對しては三百萬フランクの取引を行ひ、輸出品には穀類、粉類、脂類、毛皮、茶類、魚類等あり、輸入品は各種加工品、酒類、醬料等なりとす。

交通は未だ進歩せざれども亦次第に發達せんとす、陸路の主要なるものはウラヂラストク、イルクツク間(四四六三軒)、イルクツク、チツメン間(三二七四)、

パロフスク、ニコライエフスク間(九六三)、イルクツク、ヤクーツク間(二七一一)、上ウヂンスク、キアフト間(一五六)にして馬車、橇を用ひて往來し、橇は馴鹿、犬、馬をして曳かしむ、水路はアムル河のストレチェンスク、ニコライエフスク間、ハバロフスク、カームシルイバロフ間、バイカル湖及、オブ河のチツメン、トボルスク間、チツメン、オムスク、セミバラチンスク間を主要なりとす、鐵路にはシベリア鐵道の外に東ロシアのベルムより來りイェカテリンブルクを経てチツメンに達するものあり。

シベリア鐵道は西の方チツリアビンスクに起りカインスクに至りトムスク線を分岐し、カイダロボより滿洲に入り、ハルビンに於て二線に分かれ、一はウラヂヤストクに達し、一は長春に趣きて我が南滿線に接續す、而して一八九一年の起工に係るウラヂヤストク、ハバロフスク線は竣工したるも同處以西ストレチェンスクに至る線路は工事困難なるを以て中止せられたり、此の有名なる大鐵道(六三三〇)の通過する處は最高地と雖、二千六十米突に上らずして隧道はバイカル廻岸線にあるのみ、又本鐵道は軍路を主とせ

シベリア鐵道

るものなるに拘らず、沿道に移住民の渡來を促がし諸種の産業を振興したるが、河川の航運、年市の繁榮等に打撃を與へたるが如し。

電信線は西の方チツメン、トボルスクより中間の市街及、イルクツクを経てウラヂヤストクに達するありてヤクーツクを除くの外、主要なる市街を連結す、又カラフト島にも此の便あり。

トボルスク省

トボルスク(Tobolsk)(一一四〇二)はトボル河、イルチン河

の會する處にありて航運の便を有し商業稍盛なるが省廳を有す、コザックの棟梁「イェルマーク」の碑あり、チツメン(Tjumen)(三〇〇〇〇)はツラ河に跨り熟皮、敷物を製す。

チツメン

トムスク省

トムスク(Tomsk)(五二二一〇)はトム河畔、海拔九二米突の

地にあり、商業の中心にして省廳并に大學の所在地なり、街衢の整ひたる、住民の多き實にシベリア第二たり、支線に依りて大鐵道に連絡せり、コリワン(Koljwan)はオブ河に沿ひ鐵産地にあり、バルナウル(Barnaul)(二九八五〇)はバルナウル、オブ兩河の會する處、海拔一四〇米突にありアルタイ鐵區の中心

トムスク

世界地理提要

あじあ洲 アジアロシア

にして鑄金製革に従事す、カインスク(Kainsk)はバラバ曠野にありてオム河畔に位し革類の集散行はる。

クラスノイ
アルスク

イニセイスク省

クラスノイアルスク(Krasnojarsk)(二二三三三七)はイニ

セイ河とカチ河との合流する處にありて海拔一五二米突に位す、省廳を有し食料毛皮の集散地たり、カンスク(Kansk)はカン河に瀕す、砂金毛皮の集散に従事す、ミヌシンスク(Minusinsk)はイニセイ河の東、海拔二四五米突の地にあり、鑛産地たり、ツルハンスク(Turhanak)はツルハン河とイニセイ河との合流地にありて毛皮を集散す。

イルクツク

イルクツク省

イルクツク(Irkutsk)(五一四三四)はアンガラ河に瀕し海

抜四六〇米突の地にあり、省廳總督府あり、貴金屬の集散行はれて商業上の要樞なり、ニジニウヂンスク(Nizhni Udinsk)はイルクツクの北西に當り、鐵と金との産地にありて稍著名の地なり。

ヤクーツク州

ヤクーツク(Yakutsk)はレナ河に接し海拔六五米突の地に位す、本州の首府なれども人口六七千に過ぎず、毛皮の賣買行はる、ベルホ

ヤンスク(Verkhjansk)はヤナ河畔、北極圏附近の地にある寒極として名を知らるるが亦獵漁の地なり。

外バイカル州

チタ(Tschita)はインゴタ河に臨み海拔七〇〇米突の地

にあり、州廳を有するが河舟の製造行はる、カイダロボ(Kaidalovo)は東清鐵道の分岐する處なり、ネルチンスク(Nertschinsk)はネルチ河に沿ふ、一六八九年清國とロシアとの間に條約を締結せし地にして現今鑛業の中心なり、ストレチンスク(Strjetsensk)はシルカ河汽船の發着地にして又鐵道の終點なるが倉庫を有し機械の製造行はる、キンタ(Kjachta)はセレンガ河の東、海拔七九〇米突の地にあり、北京を距ること一千一百軒、ヘラルプルグを距る七千七十軒にして城塞を有し、清國との陸上貿易に従事するが茶を輸入し毛皮類を輸出す、上ウヂンスクはセレンガ河とウダ河との合流地に於ける商業地なり。

アラハシ
チヘンスク

アムル州

ブラゴニンチンスク(Blagowjeschtschensk)(二二八三四)はアムル

河とゼーヤ河との會流地にありて海拔九〇米突なるが豊饒なる農業の中心地にあり、州廳を有し商業隆昌なり、アルハシン(Albasin)はアムル河畔にあ

世界地理提要

あじあ洲

アジアロシア

りて其の名史上に著はる。

沿海州

ウラヂフストク(Vladivostok) 一九〇〇(北緯四三度五分東はア

ムルスキー半島の南部にありてアムル灣を西に控え金角港に瀕す此の地は一八六〇年北京條約に依りてロシア領に成りしものにして舊名海參威はウラヂフストク東方を領すとの意と改まれり港内は廣大安全にして四五千噸の艦船數十隻を泊し得べく沿海の地は岬崎に富みて最防衛に適し軍港としてはシベリア第一の稱あり然れども氣候は不良にして夏季は降雨多く冬季は嚴寒を與えて毎年數月間本港は結氷の爲使用し難し此の間僅に破冰船を用ひて通行し得るのみ市中には州廳其の他の建物あり工業は稍見るべきものあり商業も亦盛運に向ふの傾向を有するが商權は主としてドネツ人之を握れり住民には支那人朝鮮人少なからずポシヤト(Posie)は同名の灣に瀕し氣候はウラヂフストクに優れりニコリスク(Nikolajev) 二二〇〇〇はシフン河畔海拔四三米突の地にありて鐵道の分岐點なりハバロフスク(Chabrowsk)はアムル河の右岸海拔七〇米突の地にありて知事の居住地な

ウラヂフストク

ニコリスク

るのみならず商業上の要地なり鐵路に依りてウラヂフストクと通ずニコライエフスク(Nikolajevsk)はアムル河口の商港なるが往時は要塞の地なりきアヤン(Ajan)はオホータ海に面する一小港なりオホーツク(Ochotsk)は一小部落たるに過ぎずペトロパフロフスク(Petropawlsk)はカムチアツカ半島の南東岸アワチア灣に瀕する一小區に過ぎざるも良港を有し毛皮の集散地にして城塞あり

コマンドル(Komandor)諸島はユーリヤンクメドニの二島より成りてカムチアツカを距ること二百料の沖合に位す海獣の生育地として名あり

サハリン

サハリン(Sakhalin)島或はサハリエン(Sakhalien)島はオホータ

海の西方に位せる一大島なり世には本島の稱呼をイギリス的名稱に基づきてサガレン(Saghalien)(薩哈唎)又はサガリン(Saghalin)と稱するものあり而して我が國にては古來之をカラフト(唐太樺太島と稱し來れるが本邦人之が存在を知りしは相應に古きものの如し

サハリンは舊アムル河の下流の名稱にして往昔はサハリンなる島名なく滿洲人はアムル河口に於ける岩礁をサハラランズンダバダ(アムル河口に於ける岩礁と云ふ意)の名稱の

世界地理提要 あじあ洲 アジアロシア

名稱

コマンドル

沿革

下に概稱せしなり、然るにロシアは之を擴充して今のサハリン島の地を含ましめ而してアムダハダを省きてサハリンと稱せしなり。

ロシアはコサックの統領イェルマックが始りて(四紀一五六〇頃)シベリア方面に侵入せしより遂に廣大なる地域を占領するに至りしが、ネルチンスク條約(一六八九)は南下を許さざりしを以て専ら東方に進みてオホーツク海方面に出でオホーツク井にアヤンを建てカムチツカに至れり而してアムル河口の情況は未だ明瞭ならずして一千七百八十五年フランスの探検家ラペローズ(La Perouse)は探検の結果サハリンは滿洲に連なれりと報告し、其の後ブローントン(Broughton)も一千七百九十七年に同様の報告を爲せし爲、南方よりアムル河口を利用すべきことは不可能的事業の如く思惟せられたり、一千八百四十年清國とイギリスとの事件ありし後に於てプーチン(Putin)の首唱に基づきコンスタンチンと稱する一艘はタタル(韃靼)海峡に入りしも、南方よりアムル河口に達するを得ずして不成功に終れり、然るに一千八百四十七年ムラビエフ(Muraviev)將軍が東シベリアに總督と成るやケサケ井ツチなるものありて北方より南下し一千八百四十九年サハリン島と大陸との間に海峡の存在あるを知るに至れり、其の後ギシニアフツはサハリン島を探検して石炭の産あるを發見し、北部サハリンをロシア領としアムル河口附近に屯營地を設けたり(一八五三)、而してロシア多年の宿望は愛瑛條約(一八五八)、天津條約(一八五九)、北京條約(一八六〇)と成り遂に滿洲の一部はサハリン島の北部と共にツァールの領土と稱す。

することと成れり、されど該島に於ける彼我の境界の如きは甚だ明確を缺きたりき。

先之我が國にてはロシアが樺太の北部より南下しアイヌの住居せる區域に侵入したりと聞き、幕府も稍注意を加ふるに至りて官吏を簡派せしが文化五年間宮林蔵が派遣せられしは最、特筆すべきことなり、氏は二回の旅行に依りて樺太の南部より次第に北方に赴き遂に滿洲に入りて歸朝せし結果樺太が一島なりと決定せられしはケサケ井ツチの發見に比し遂に以前にありて地理學上の一大成功なりとす。

かくて嘉永六年(一八五三)プーチンが我が島嶼に到來し、又安政二年(一八五五)に下田に來りて假條約を訂結せしが、安政六年(一八五九)ムラビエフは品川に來りて樺太の境界問題を提出したれども何等の協定を見ざりき、文久二年(一八六二)我が使節ペテルブルグに至り北緯五十度を以て境界とせんと提議せしも亦不調に終れり、慶應三年(一八六七)復た我が國は此の問題を提出せしが充分なる解決を見ずして樺太は兩國の共有地と稱ふるに至れり、然るに明治八年(一八七五)樺太と千島との交換條約締結せられ、日本のカラフトは變じてロシアのサハリン島と成りしが、明治三十八年(一九〇五)のポーツマス條約は該島の北緯五十度以南を日本帝國の領土たらしめしを以て樺太とサハリンとの境界は確定し約五十年來の宿望遂に終を告げたりと云ふべきか。

本島の南端ノトロ(近藤)岬は北緯四十五度五十二分にして北端ニリサベ

増城

ク岬は同五十四度二十二分に當り、西は東經百三十九度二十九分に起り、同百四十二度二十二分に終れり、長は南北凡九百六十軒、幅は最廣き處百五十軒、狭き處は二十五軒にして北と東とはオホー夕海に臨み、南は宗谷海峽を隔てて十州島と相對し、西は樺太灣、間宮海峽、アムル灣、サハリン灣等を挾みて大陸に接せり、面積は精確なる測量を経ざるもロシア領のサハリンは四萬二千四百方軒にして、日本領の樺太(三、三六〇〇)より稍大なりと云ふ。

海岸

海岸に就きては絶壁を見ざるに非ざるも砂濱最多く出入は甚だ少なし、バ

山岳

イカル灣の外著しき港灣なく、岬嶺にはマリア岬、エリサベタ岬等あり、山嶽の如きも高峻なるものなく、唯並行せる數條の山脈、北方より南方に向ひて走り、東岸山脈中のチアラ山(一五五〇)米突は全島の最高峯と稱せらる。

河流

地脈の状態此の如くなれば、河流の著しきものは南北の方向を取れり、トイム河は流ること三百軒餘にして、アスチナ灣に注ぎ、本島の最長流なり、流域は地味佳良にして、拓地に適するが如きも、冬季長く温度不足にして、居住に適せず、ナビット河はトイムと並流するも著しからず、ナビル灣に注げり、

平地

また南流するボロナイ河は北緯五十度以北に發す。

本島は山岳丘陵に富むが最、著しき平野は北部のサハリン及アムルの兩灣に瀕する地なり、其の他、河流、湖、海沿の沿岸にも小平地あり、北部にはツンドラの濕地も少なからず。

氣候

氣候は東部に寒冷にて、西部は稍温暖なり、アムル河口の近海は十一月より六月に至るまで氷結するが、以北の地にありては七月に至るも氷塊の疊積することあり、而して我が九春、古丹にありては約八十五日(一月―四月)の結氷を見るも、ドウエに進めば約百二十日(十二月―四月)なりと云ふ。

最	ルイコフ	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
高	アレクサン	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
最	ルイコフ	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
低	アレクサン	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
均	ルイコフ	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
平	アレクサン	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)
	ドロフスク	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)	(三三三)

兩處に於ける三回(午前七時、午後一時、同九時)の觀測の結果を示せば

觀測地	午前七時		午後一時		午後九時	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
ルイコフ	三三	(一)五、六	四、七	二、三	(一)一、二	(一)三、三
アレクサン	〇、三	(一)三、四	四、六	二、五	(一)〇、一	(一)二、六
ドロフスク						

雨量に關しても東西の兩岸は趣を異にせるが夏季は降雨少なからずして冬季は積雪の丈餘に達する處稀ならず殊に東岸に於ては夏季に濃霧の襲來すること多しとす要するに一年に就きては雨雪の日に曇天の日を加ふれば二百七八十日と成りて快晴の日の如きは甚稀なりとす風向は南或は北を最、多しとするが風力は概、強大なり。

斯の如く本島に於ては氣温低く濕氣多きも甚しく健康を害するに至らず殊にロシア人は本島の氣候に堪ゆるのみならず囚徒の如きも此點に就きて不平を鳴らす如きこと殆、なきに似たり。

鐵物に石炭琥珀、石油、砂金、銅銀等あり植物に樺、柳、赤楊、楡、槭等あり動物には熊、狸、狼、赤狐、白狐、黒狐、麝、麝、黒貂、銀鼠、栗鼠、獺、臘、獸、海豹、鯨等あり、鷺、鴨、雁等

住民

あり、鯨、鱒、鮭等あり。

一千九百年に於て樺太全島の住民は約四萬人と計上せられ、ロシア人、土人、外人の三種に大別せられしが、土民に五種ありて、其のギリヤク一五、五八二人は北部に、其のアイヌ一七、四三二人は南部に、其のオロチヤン一七、七三二人はトイム河の沿岸并に北東岸に、其のツングス一七、五七二人は北端に居住せり、此等土民の總數は僅々四千百五十一(四一四〇)人にして現時に於ける主なる住民は三萬五千餘のロシア人(數多の種族を包含す)なりしが、其の三分の二以上は所謂刑餘の民若しくは囚徒之を占め何れも流謫者たり、又外人に就きては漁期に際し日本人の出稼するものは七千人内外ありしも定住者は五百人内外に過ぎずして、其の他、清國人、朝鮮人等の在留せし者は多からざりき、而して戦後に於けるロシア領の居住者は未詳ならず。

全島がロシアに屬せし頃には軍政知事之を統轄し、其の主要なる行政機關はアレクサンドロフスク市にありて地方は三區に分たれたり、アレクサンドロフスク區は西海岸一帯、南の方ナヤシ河を境とせる地方を含み、トイ

行政

世界地理提要 あじあ洲 アジアロシア

林業

獵業

漁業

牧業

ムスク區はトイム、ボロナイ兩河の附近即ち北部の東岸を、コルサコフスク區は南部のノヤシ河及びテルベニア岬までの東海岸を管したり、又囚徒の監督に關してはアレクサンドロフスク、ドウエ、ルイコフスク、デルビンスク、オル、コルサコフの六處に集治監を置き、懲罰獄と感化獄との二種を設けたりき。

我が北海道に於て見るが如き樹木即ち樺、白楊、赤楊、柳、槭等の存するあるを以て之を利用して或は薪材とし或は建築材として用ふれども土地の需用に充つるに過ぎず、獵業は主として土人の従事するものにして毛皮獸を捕獲するにあり本島産の野獸はカムチャツカ産に及ばざる所あるを免れざれども尙用ふるに足るものあり故に毛皮獸の價格が大に騰貴せる今日には本業も亦同島に於ける生産力の一として見るべきなり、漁業は本島に於て最、重んずべきものにして昆布、布海苔、石花菜の如き海草あり、鯨、臘腸獸の如き海獸あるも、鱈、鱈、鰯等を以て夥多なりとす、就中鱈漁は最、盛にしてロシア領にありてはトイム河口、ゴロワチエフ岬附近を主要漁場とす、牧業に關してはロシア人は牛、馬、豚、鶏、家鴨、鵞等を養ひ、ギリヤクは犬を飼ひ、オロチオンの

農業

鑛業

商業

交通

アレクサン
ドロフスク

使用する馴鹿は其の數多からず、農業は不振にして麥類、蕎麥、馬鈴薯、キアベツ、其の他の蔬菜類并に飼畜用の燕麥を與ふるも、到底住民の食料に與ふるに足らず、鑛業として認むべきは唯、石炭の採掘あるのみ而して炭層はアレクサンドロフスク附近、ドウエ附近等にあれどもドウエを除くの外、海陸共に交通不便なるを以て放棄せらるるもの少からず、商業は微々たるものなるが、貿易の如きも日用品の輸入と石炭、魚類の輸出を觀るに過ぎずして取引は主としてアレクサンドロフスクに行はる。

交通に就きて記さんに道路は極めて發達せずしてアレクサンドロフスク、ルイコフスクを連絡する縦貫道路以外には見るに足るものなし、冬季は犬馬を使用するが、アレクサンドロフスクと沿海州のニコライエフスク間も、犬樞を通すと云ふ。

アレクサンドロフスク(Alexandrovsk) 北緯五〇度五三分は西岸の北部に於ける一邑にして軍政知事の居住地なり、人口一萬四千五百と稱す、市街は丘陵に據りて建設せられ、官衙、學校、寺院、病院、博物館、圖書館等一般の設備あり、港

は北に岬を控え鉢形を呈せるが三子礁等の障碍ありて利便なりと稱する能はず海底電線は此の地より對岸のデカストリ港へ架設せられ官設の工場には鋸挽場製粉場あり又海岸には堅牢なる棧橋設けらるドゥエ(Duue)はラジオンキエール(La Jonquière)灣に面し港形不完全なれども石炭革類の輸出ありて商業稍盛に行はれ冬季には滿洲地方との交通一層多し住民は二千五百人以上に達するも其の二千は刑餘の人とす此の地に拓殖倉庫の本部ありルイコフスク(Brykowsk)はトイム河の流域に於ける一小市街にしてトイモフ區廳の所在地なり。

あじあ洲終

おせあにあ洲

オセアニア洲(Oceania)一にオセアニカ即大洋洲と云ふは其の狹義即オセアニアの眞義に於ては中央太平洋に散布せる島嶼を總稱するに過ぎざれども其の廣義に於ては此等の島嶼の外オーストラリア大陸并に沿岸島嶼を合はせ稱するのみならず尙南極洋の島嶼をも包含せしむることあり。茲に本洲の四極地を左の如く定むれば

極北	クレスボ(Cresso)島 <small>一にロカデアラタ</small>	北緯	三二	四六
極南	マツカリ群島の最南島 <small>ビシホフヘンホロクラー</small>	南緯	五五	一五
極西	ダークハルトク(Dirk Hartog)島	東經	一一四	〇〇
極東	サライゴメス(Sala y Gomez)島	西經	一〇五	二八

にして南北は約八十八度東西は約百三十四度に亘りて區域は廣大なれども面積は八百九十五萬方秊即陸地の十五分の一アジア洲の約五分の一なり

世界地理提要 おせあにあ洲

名稱 境界 地 廣表 所載

大陸

沿岸島嶼

大洋島嶼

り而してオーストラリア大陸は洲の南西部を占め、島嶼中の巨大なるものは大陸の北乃至東の海岸に沿ひ、細微なるものは沙漠たる洋中に散在せり、其の沿岸島嶼は北部をバプア(Papua)、中部をメラシネア(Melanesia)、南部を新ゼーランド(Nova Zeelandia)と云ふ、又大洋島嶼に就きては北西に於けるものをミクロネシア(Micronesia)と稱し、東部にありて赤道の南と北とに亘れるをポリネシア(Polynesia)と呼ぶ。

オセアニア		オーストラリア	
八百九十五萬方		七六二、四九三七	
大陸部	七六九、二八三一	タスマニア	六、七八九四
島嶼部	一二五、七一五〇	沿岸島嶼	一二二、六八〇五
		バプア(新ギネア)	八〇、八九五六
		メラネシア	一四、五八六〇
		新ゼーランド	二七、二九八九
		大洋島嶼	三、〇三四五
		ミクロネシア	三五四六

ポリネシア

二、六七九九

大陸部

大陸部はオーストラリア及びタスマニアより成れるが、之にバプアとフィジーとを合はせてオーストララジア(Australasia)と稱することあり。

境域 オーストラリア(Australia)即南大陸はアジア洲の南東にあり、極北はヨーク岬の南緯十度四十二分より極南のキルソン岬の南緯三十九度九分に至り、極西はスチープ岬の東經凡百十二度にして、極東はバイロン岬の東經百五十三度四十分なり、北はアラフラ海に依りてマライ群島と境し、又トルレス海峡を以てバプア島と相隔り、東は珊瑚海、タスマン海に臨み、南東はバス海峡を挟みてタスマニア(Tasmania)島と相對し、南并に西は印度洋に瀕す、本大陸の形狀は扇の地紙に似て、東西に稍長くして、凡三千八百方に達し、南北は約三千一百方あり、面積は凡七百六十三萬方にして、我が國の十七倍強に當れり。

世界地理提要

おせあにあ洲

オーストラリア

二百七十九

発見 オーストラリアは陸地の分布上孤立して人類移住 (Migration) の通路に違かりしを以て住民の發達又は本地の発見をして遅からしめたり一千五百三十一年フランス人の手に成りし地圖にはオーストラリアをジャバラグラント (Java la Grande) 即ち大ジャバとして其の北西岸を表記しあり一千六百六年エスマニア人トルニス (Torris) はバプアとオーストラリアとを離隔する海峡を通過し其の後オランダ人ゲルクハルトグ (Dirk Hartog) が西岸の地に上陸一六六六年十月二十五日(日)あり有名なるアベルタスマン (Abel Tasman) は第一回旅行(一六四二)に依りてオーストラリアの南東岸即ちタスマニアの海岸を見第二回の旅行(一六四四)に於て西岸と兩岸とを連絡せしめて新オランダと命名したりイギリス人クックは東岸の地を探検してトルレス海峡を通航しバス(Bas)は同名の海峡を発見してタスマニアの島たるを確定しイギリス人フリンダース (Flinders) はスマンサー島附近の地を発見してテラアウストラリア (Terra Australis) と名づけ(一八〇二)フィリップキング (Philip King) は大陸を一週(一八一八一)したり而して全海岸の探検はビーゲル (Beagle) 號に依りて完成(一八三七—四三)せられたり。

探検 内部の探検はイギリス人が新南エールズを占領してボタニーベイ (Botany Bay) の諸島の殖民地を創設せし時(一七八八)より始まり而して大陸横断旅行に就きてはライオンホルド (Leichhardt) がクフィンズランドよりカルメンタリア海(Van Diemen)に到りしを以て第一回(一八四四—四五)とす此の後バ

ク(Burke)一八六一)マッキンレイ(一八六一—六二)マクドナルドスチオート(Mac Donard Stuart)一八六二)等あり。

大陸の西部には西オーストラリア殖民地の建設(一八二九)ありてより以來首府パースは遠征隊の根據地と成り一千八百六十一年フランクグレゴリー(Frank Gregory)はユーレ河(Yule River)の沿岸に起伏に於て富み灌溉の便ある沃地の存するを

発見せり。
一千八百七十年以來探検の目的は一層實用的と成り大陸が供呈すべき富源を探究するに至りしが大陸横断電線の驛地殊にアリスプリングス(Alice Springs)は西方オーストラリア探検隊の根據地と成れり而して第一回の縦貫旅行(西海岸まで)はワーバートン(Warburton)に依りて實施せられユーレ河に達するを得たり次でジョンフォレスト(John Forrest)は前記の行途に比し數度南に當れる地を東向に旅行してエイヤール湖に出で(一八七四)ギルス(Giles)は第三回の縦貫旅行をフォレスト線の南に實施して砂漠が南岸に達するを確めたのみならずフォレスト線の北に當れる行途に依りて大電線に復歸したり又北西地方即ちキンバリー(Kimberley)區に産金地の存するを認めたる(一八七九)アレクサンダーフォレスト(Alexander Forrest)は灌溉の便ある好牧地を発見したり(一八八二)此の外探検に従事せし者其の數少なからず此等は皆熱誠氣力忍耐學識等に據りて本大陸の情態に就き梗概を世に紹介するに至りしも未だ足跡の及ばざる處少なからざるのみならず詳細を知悉し得ざるは亦止

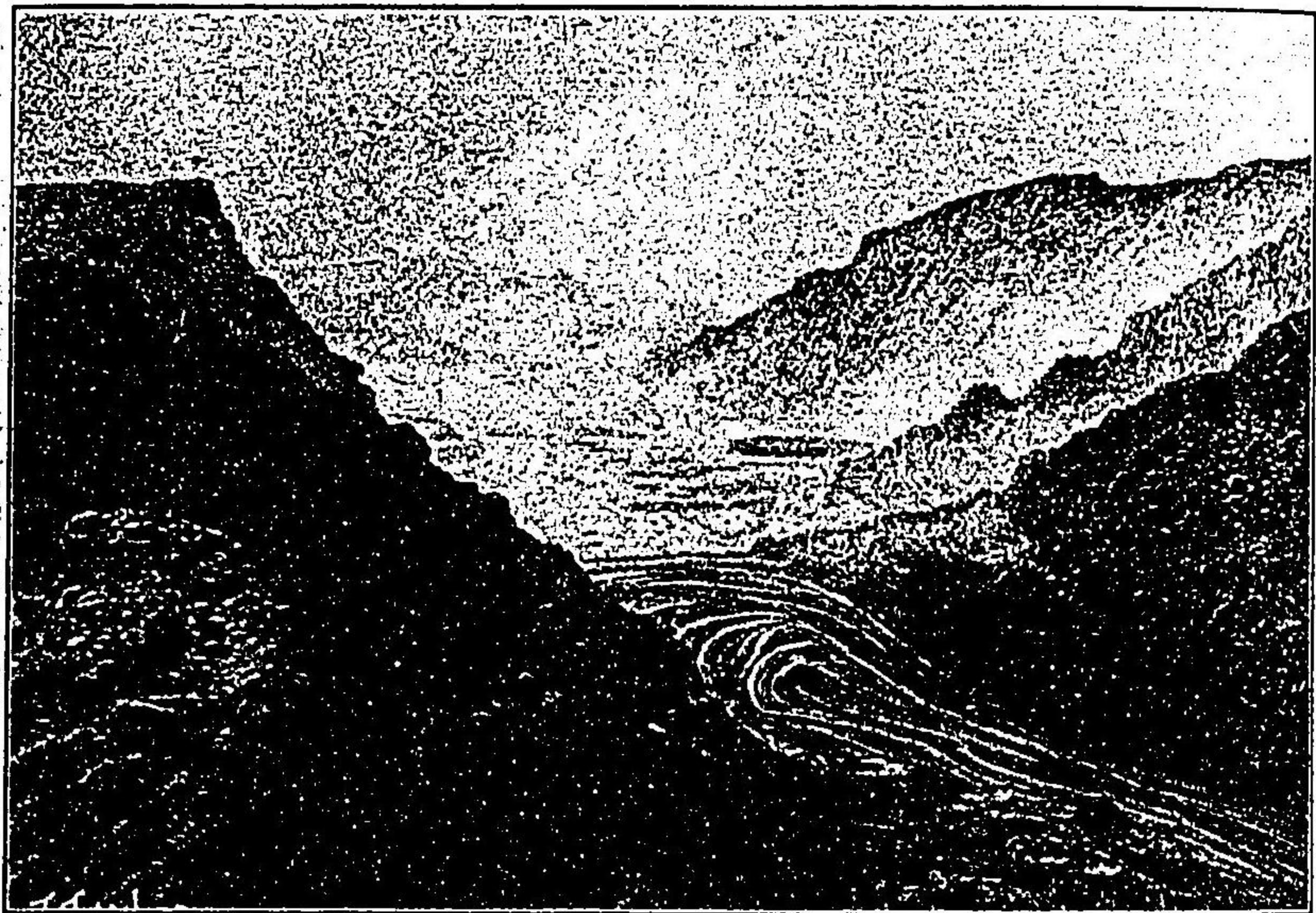
海岸線

海灣

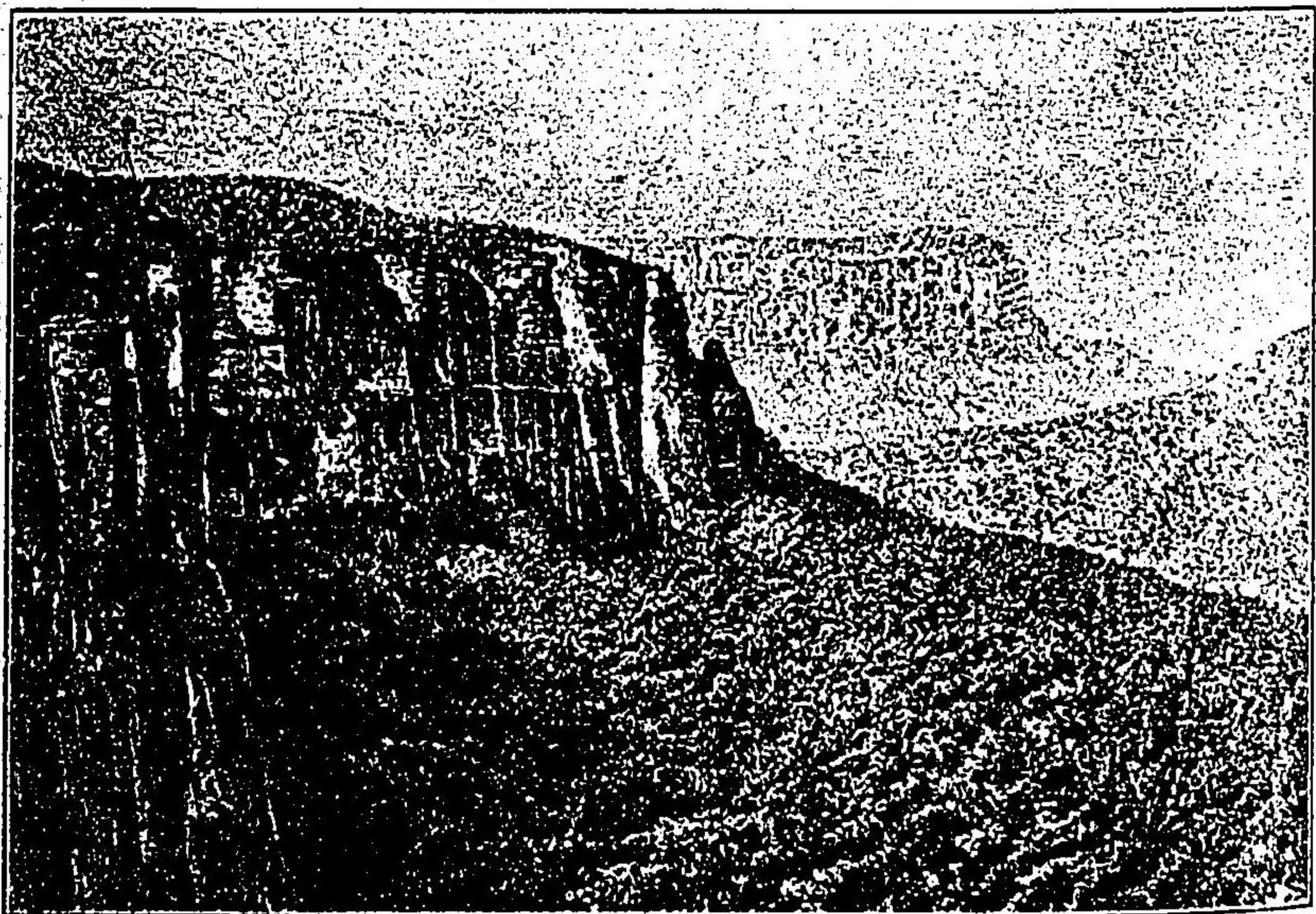
海峡、地角

むを得ずと云ふべき。

海岸線。海岸線の延長は一萬六千軒あれども彎曲少なく良港に乏し南海岸の西部はオーストラリア大灣と稱して一大圓弧を爲す其の海濱は平低なる沙洲に非ざれば一百乃至二百米突の絶崖にして巨河は勿論一の細流だも有せず小港の如きも皆無にして無水無植物の荒地を包めり而して西海岸も亦殆ど同様の状況を呈せり之に反して南岸の東部并に東岸の南部は山岳丘陵に富み蒼鬱たる綠樹繁茂して到る處風色の賞すべきあり然れども沙洲沼瀉の存するありて通舟の便に乏し又北東岸には珊瑚質の大礁堤長約一千九百軒海岸を距るにて圍るるを以て船舶は容易に接近するを得ず北岸に於ては顯著なるカルペンタリア灣あれども利便を供すべき港灣に乏しきを見る今主なる出入島嶼等に就きて記せば海灣は北にダーキン港、ファンデーメン灣、カルペンタリア灣あり東に珊瑚海、ジャクソン港あり南に南海、フリック港、セントビンセント、スペンサーの二灣并にオーストラリア大灣あり海峡はトルレス、バスを以て最著しきものとするが又地角には北に



キラウエアの噴火口 (ハワイ群島)



ブリーマウンテンズ (オーストラリア)

キルベルホルス、ヨーク、東にバイロン、南東にはハウ、キルソン、ネルソン、西にスチープあり、島嶼の顯著なるものは北にバサースト、メルビル、グルート、エレスレイ、木曜等あり、東にフラザーあり、南には著大なるタスマニアの外にフリンダース、キング、カンガル、西にチルクハルトグあり、半島はカルペンタリア、ヨークを以て記すべきものとす。

山誌 本大陸はオセアニア洲中の最大の陸塊なるも全洲中の最高峯は却て他の島嶼にあり、南大陸第一の山岳たるタウンセンドは二千三百米突に達せず、東部に於ける大分水(Grat Dividing)山脈、^{キータム(一八五九)}は分れてオーストラリアアルプ、青山(Blue Mountain)山脈、^{ピーター(一二五〇)}、リバプール山脈、^{ガクズリー(一二三〇)}、新イングラランド山脈、^{カアンパタ(一四四〇)}等と稱せられ、西部にはダーリング山脈、^{リアム(一二二二)}あり、内部にも東西或は南北の方向に走れる山脈少なからざるが海拔は著しからず、又活火山は一も存せざれども消火山の数は多し。
オーストラリアアルプ山脈はメルボルンより回蹄線に達し、孤状を呈して一千七百料に互れるが海拔は漸次低下するも北方に延長してヨーク岬の方向に走れり、^{ギンギ(一七五七)}、^{タウンセンド(一二二四)}、^{ロモニー(一二三六)}、^{キョハン(二〇五七)}等を

以て主要なる山岳とするが、タウンゼント(Townsend)は脈中の最高峰たり。

水誌 本大陸は高山秀嶺に乏しき臺地より成れるを以て降雨少なく氷河積雪を見ること能はず、氣候乾燥にして河流の水量の如きは極めて寡少なり、而して沿海の地に於ける河川は細流にして著しきものは更になく、内部に於けるものと雖、長流巨河と稱すべきもの稀なり、河流は分れて三斜面に屬するが、印度洋斜面にムーレー、マーチソン、ガスコイン、アシバートン、フィッロイ、ビクトリア、ブリンダースあり、太平洋斜面にブルデキン、フィッロイ、閉塞地にクローベル、スクリーク、デアメンチナあり。

ムーレー(Murray)河はオーストラリアアルプの西面、コッシーシコ山の南、凡そ二十四料の地に發源し、イペリナの平野を潤してアレクサンドリナ湖を經、水底淺き潟湖を爲して南海に注ぐ、長きは一千八百料にして流域は百萬方料あるも、水量は一秒時に三百六十立方米突を流下するに過ぎず、然れども河口よりアルバリーに至る一千五六百料は或る時期に際し小汽船を以て航行し得べし、支流の主要なるものはラクラン河の水を受くるマランビザールと本流より長きダーリントンとにして孰れも右岸より會するが、此の外にミッターミッタ、オベンス、ケールブルン、カムパス、マ、ゴッドン、等あり、ダーリントン(Darling)は新イギリス山脈に發してマッキンタイヤ(五六五)と稱

ムーレー河

ダーリントン

し西流又は南西流して名をバルラン(二五五)と改めカッスルリに會して始めてダーリントンと云ふ、コンダミース、マッカリー、ボガン(七二四)、ワレゴ(八〇〇)等を受けてカレラックと云ひ、二派に分かれてムーレーに入る、河長は二千料に達して流域三十二萬方料あるも水量に乏し。

アレクサン
ドリナ湖

アレクサンドリナ湖はオーストラリアに於ける最大の淡水湖なるが、水層淺くして航行に不便を感ず、此の他の湖沼の多くは冬季の降雨時期に限りて在するあり、或は出現後數年を経て消滅するあり、中に就きて稍、大なるものを示せば、トリーレンス、グイドナー(海面上一二米突)、エリク(海面下)、アマテリス(海面上二C四)等あり。

地勢 他の大陸に見るが如き高峯、長流、大湖を有せざるオーストラリアは其の平均海拔二百六十米突に過ぎずと稱せらる、而して沿岸山脈は内面に緩斜して廣漠たる荒蕪不毛の高原を包み、内部の此處彼處には孤立せる丘陵あり、臺地の周圍には多少の牧地あり、又太平洋沿岸には森林多く耕耘に適せる沃地あり、然れども此等の有用なる土地の面積は大陸の總面積の十分一内外に過ぎざるべし。

氣候 土地の半は回歸帶に屬し、半は溫帶に屬するが、氣候は地方に依りて大に趣を異にせり、沿海の地は概して健康に適するが、内部にありては熱

世界地理提要 おせあにあ洲 オーストラリア 二百八十五

風吹き降雨下の二十種以稀にして空氣は乾燥に失す是植物の繁茂を妨ぐる原
因にして従て動物も盛に生育するを得ず。

地名	平均温度	最高温度	最低温度	寒暑の差	雨量
プリスベーン	二二、二	五六、二	(十) 三、〇	五三、二	一、三三
シドニー	一八、〇	四〇、二	(十) 二、〇	三八、二	一、二〇
メルボーン	一四、〇	四三、七	(二) 二、八	四六、五	一、六〇
アデレード	一七、五	四五、〇	(十) 一、二	四三、八	〇、五三
パース	一七、七	四四、六	(二) 〇、四	四五、〇	〇、八四

天産 オーストラリア地方は生物の分布上特殊の二帯を形成せり而し
て植物の種類は饒多なる點に於ては頗る誇るべきものあり就中有名なるユ
ツカリ(Eucalyptus)には直立百五十米突に達するあり其の他にアカセダルニ
ニアンニヤカウリマン、火焰樹、酒壇樹、草樹、アカシアあり動物の固有なるも
のは「カンガルー」風兎、フマランガ(Plalang)、メンツル(Dasyurus)「カモノハシ」
(Ornithorhynchus)「チンチ」(Dingo)「エミ」(Emu)「マクビドリ」(Casuarina)等あり
織物には多量の金あり銅あり多少の銀鉛の有するあり石炭は其の量少なから

植物

動物

織物



ナンバット (Phascolomys latifrons)



カモノハシ (Ornithorhynchus paradoxus)

有袋類には百有餘種あるが其の主要なるものを擧ぐれば

食草族

カンガン (Macropus)

ボトク (Hypsiprymnus)

食果族

フクロキツネ (Thalungista)

フクロリス (Petaurus)

コアラ (Phascogaleos)

食根族

チンヌット (Phascogaleos)

啖蟲族

ネズミウサギ (Perameles)

啖肉族

フクロイタチ (Dasyurus)

フクロイヌ (Phylacinus)

一穴類には左の二屬あり

カモノハシ (鴨嘴獸) (Ornithorhynchus)

ハリモグラ (Echidna)

されども炭質には缺くる所なきに非ず。

沿革 有名なるクックは其の第一回旅行に於て大陸の東岸を探検し、時の君主ジョージ三世の名を以て新に發見したる土地を領得し之にニューサウスエールズと命名したり、然れどもイギリス政府が新領土を利用せんと試みしはアメリカ殖民地を喪失(一七七六)せし後、新に調流的殖民地を設くる必要起りたる際にクックが嘗て佳良なる港の一と復命したるボタニーベイを採用したるにあり、然るに同港の殖民上不便なるを認むるや二十料を隔つる一灣ポートジャクソン (Port Jackson) の南岸にシドニーを開き殖民地の基礎を築てたり、一千八百二十九年新南エールズが第一殖民地として成立せし後、メルレー河以南の地に幸福オーストラリア (Australia Felix) 後にビクトリアの創始(一八三五)、南オーストラリアの成立(一八三六)あり、其の數年前アと改稱せり、の分(一八二五)、四オーストラリア殖民地の創立(一八二九)ありしが、其の後ビクトリアの自治殖民地(一八五〇)、新南エールズの代議制度(一八五三)、南オーストラリアの自治殖民地(一八六五)、クィーンズランドの分立(一八五九)、西オーストラリア殖民地の自治(一八九一)を見たり。

住民 ボタニーベイ殖民地が設けられし時、西洋人は一千三十人に過ぎざりしが爾來白人は著しく増加して人口は四百三十萬を超ゆるに反し、五以上の數を數ふること能はざる土人は漸く減少して今は三萬に過ぎず、而し

て人口の配布には不同ありと雖、概して稀薄にして十方杆の平均僅に五人なりとす而して來住者は四萬九千人に近く往住者は約四萬七千人なり。
 オーストラリア派の黒人は人類の最下位にあり、毛髪は滑らかにして時に波状を爲し數多くして黒色を呈するが鬚も亦然り、顔色は黒く鼻は廣く頭骨小にして腦量極めて少なし、生活は憐むべき状態にありて人員減少の度も著し。

今一九〇一年の住民三百七十七萬餘人を生地にせばオーストラリア(二九〇)を第一とし、イギリス本國(六七)、イギリス殖民地(四二)、ドイツ(三八)、支那(二九)等之に次ぐが、宗教別にはキリスト教(一四九)、其の他の新教(二二〇)、ローマ公教(八五)を以て主要なるものとせり、教育に就きてはシドニー、メルボーン、アデレード等に大學を設け、中等初等の學校は一萬二千ありて約八十二萬の學生、生徒を教養す。

政治 オーストラリア聯邦 (The Commonwealth of Australia) はクィンズランド、新南エールズ、ビクトリア、南オーストラリア、西オーストラリア、タスマニアの六原州 (Original States) より成り、立法權はイギリス王を代表する總督及元老院に對して六人代議院十五人之を司り、行政權は總督之を握り、行政會議

をして補助の任に當らしむ、而して行政府は總督、首相、兼外務、司法、内務、財務、商務、海關、軍務、遞信の各長官、行政會議副議長より成れり、各州には二院より構成せらるる議會并に知事を置く。

州	面積	人口	首府	歳出	州債
クィンズランド	一七三、一三三	五二、六七九	ブリスベーン	三五	四一、七
新南エールズ	八〇、四五七	一四六、一五三	シドニー	一一、一	八二、三
ビクトリア	二二、七六一	一一一、〇五七	メルボーン	六、九	五一、七
南オーストラリア	九八、四三三	三七、二六八	アデレード	二、八	二八、七
北領土	一三五、六一三	二四、二八九	パース	三、七	一六、六
西オーストラリア	二五二、七五三	三、〇〇〇	ホバート	〇、八	八九、四
オーストラリア人	六、七八九	一八、〇二〇			
マツカリー群島	四四〇				
オーストラリア聯邦	七九二、九〇〇	四三二、五〇〇	ダルクゲナール	二九、三	二三〇、六

軍備に就きて陸兵には凡一千四百人の常備兵あり、之に義勇兵、豫備兵等を加ふれば合計七萬人弱と成り、海軍は十八隻、四萬七千噸を有せるが、其中、一等巡洋艦一隻、二等巡洋艦三隻、三等巡洋艦五隻、測量船一隻はロイヤルマリーンに屬しシドニーを以て本據とす。

財政は一九〇五—〇六年に於て歳入凡一千百三十九萬ポンド、歳出一千百三十九萬餘ポンドを示せるが各州の歳出入一九〇四—〇五は二千九百萬ポンドを超えて國債は二億三千一百萬ポンドに近し。

牧業

生業 農業は穀類、牧草、馬鈴薯、葡萄酒、實綿の外、砂糖の原料たるべき甘蔗等を與へざるに非ざるも、其の生産力は牧業に及ばず、牧業はオーストラリア第一の生業にして綿羊の飼養殊に盛に行はれ、總頭數は六千五百八十二萬頭ありて生毛の産額は世界無比と稱せらる、而して斯業の最盛なるは新南エールス(三四五二)にしてクキンズランド(一〇八四)、ビクトリア(一〇一六)等之に次ぐり、鐵業は牧業に次ぎて主要なる生業にして殊に多量の金を産し新南エールスを以て第一とす、該州は石炭の産出も少なからず、工業は

未隆昌に至らざるも製造場の増設又は創設は主要なる市街の地に於てす、商業は稍盛にして一九〇五年の輸入は三千八百三十五萬ポンド、輸出は五千四百十三萬ポンドに近くして、輸出先はイギリス(二六〇八)、フランス(五七五)、ドイツ(三八六)、セイラン(三五九)、ベルジック(三二〇)を主とし、輸入先にはイギリス(二三〇七)、合衆國(四四八)、ドイツ(二六四)、新ゼーランド(二三三)等あり、貿易品の主要なるものを記せば輸入品に絲類(九五三)、金屬器(一一四)、器械(一六五)、鐵(一六三)、金(一四七)、木材(一〇七)等ありて輸出に生毛(一九八二)、金(九五二)、小麥(四一七)、タバコ(二二三三)、肉類(二二二)、皮革(一一一)、銅(一一〇)等あり、船舶の出入は入船に一千九百七十六隻、約三百七十三萬噸、出船に二千百十二隻、約三百七十二萬噸ありてイギリスの船舶其の大部を占む、商船は三十五萬餘噸、鐵道は約二萬四千七十七軒ありて(一九〇五)郵便局は六千六百に近く、電信線は七萬三千餘軒にして電話線も少なからず。

クキンズランド

クキンズランド(Queensland)州は大陸の北東部を占む、

長約二千百軒ありて幅は凡一千六百軒に達し、面積は六原州中の第二位に

世界地理提要

おせあにあ洲

オーストラリア

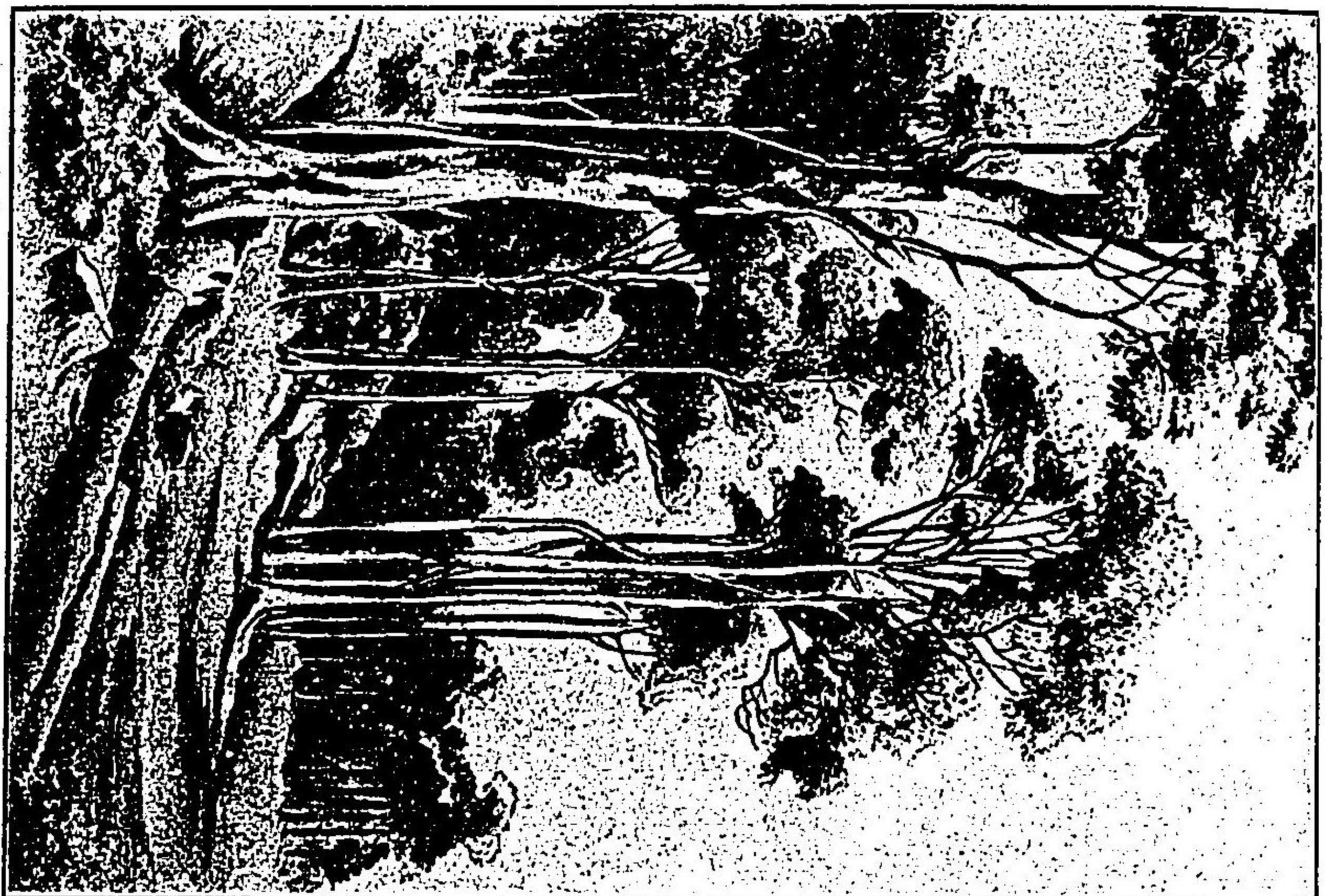
あり。

生業に就きて州の約二分の一は天然林に属せるが、牧業は一九〇四年に於て羊の一千八十四萬餘頭を始とし牛二七二馬四二豚一九等を飼養せり、農業は玉蜀黍、麥類、馬鈴薯、牧草、甘蔗、バナナ、アナンナス、柑類或は煙草、珈琲、アロールト等を栽培す、鑛業に就きて金は一千八百五十八年以來約五千九百五十萬ポンドを産せしが、錫二七、銅二六、其の他の産もあり、貿易は輸入に凡六百五十萬ポンド、輸出に一千百十五萬ポンドありて、金、銀、銅、錫、石炭、肉類、皮革等を以て主要輸出品とす、而して貿易の盛ならざる當州は船舶の出入も各五十五萬餘噸に止まるも、鐵道は其の延長第三位にあり。

ブリスベーン(Brisbane)一、二、五、六、七、二南緯二七度二八分東經一三三度六分はクィンズランド州の首府にしてシドニーの北八百五十軒、ブリスベーン河を溯ること四十軒にあり、市内には政廳あり、植物園、公園あり、イブスキッチ(一、五、二、〇)はブリスベーンの西四十軒、ブレメン河畔にありて、附近の地は農産、石炭を出だす、ギムビー(Gympie)一、四、四、〇〇はブリスベーンの北、百八十七軒にありて、マリ

ブリスベーン

イブスキッチ



イウカリリ林 (東南エールズ)



羊 産 林 (ウオウリフ)

イウカリ〔有加利〕(Eucalyptus globulus)〔桃金娘科〕は一大喬木なり、成長極めて速にして高さ一百五十七米突、周囲三十米突に達せしものあり、佳良の木材、薪材を供するの外、葉を藥料、香料、等に用ふべし、マルハイウカリ (E. amygdalina) は樹高四十六米突に達し前種と効用を同じうせるが、ジアラ (E. marginata) は一オーストラリア葉樹と稱せられ優良なる木材を興ふ。

半喬木は樹高に因りて「ク」(Cyathus)「ア」(Alsophilla) 等を始めとして五十有餘種の「ウ」(Gleichenia)〔蕨目科〕を主要なる樹種と爲す。

メリーボロ
ロックハンプトン
チャーターズ
スタウンスビル
ツウムズ
木曜島

河に沿ひ産炭地にあり、メリーボロ (Maryborough) (一八九〇〇) はギムビーの下流にありて砂糖木材等を輸出す、ロックハンプトン (Rockhampton) (一九七〇〇) はフットロイ河を溯ること七十二軒に位し附近に鑛産地、牧地を控ゆ、チャーターズ (Charter's Towns) (二一〇〇〇) は産金地にあり、スタウンスビル (Stouville) (一五五〇〇) はクリブランド海に瀕して港を有す、ツウムズ (Toowoomba) (一四一〇〇) はブリスベーンの西百六十軒に當り分水山脈中、海拔五八六米突にあり、木曜島はヨーク岬に近き小島にして錨地を有せり。

新南エールズ 新南エールズ即ニョーサウスエールズ (New South Wales)

州はオーストラリア殖民地の母にして東部三州の中部に位す、長さ一千四百五十軒ありて幅は一千三百七十軒に達するが面積は六原州中の第四位にあり。

生業に關して農業は約百七萬方箱の耕地を以て小麦、玉蜀黍、大麥、オートマ、馬鈴薯、牧草、煙草或は甘蔗、葡萄、柑類等を興へざるに非ず、州の地積の四分の一に達する森林は木材を供せざるに非ざるも生産の主力たるの名譽は

本州に於ても之を牧業鑛業に歸せざるを得ず、牧業は一九〇四年に於て羊(三四五三萬頭)牛(二一七)馬(四八)豚(三三)等を飼養し羊の頭數は聯邦第一なり、鑛業は金、銀、錫、銅等の金屬、石炭、大理石等の非金屬を採集す、金は一八五一年より一九〇四年までに五千二百餘萬ポンドの價額に達し、石炭は百九十九萬餘ポンドを産せり、工業は凡三千六百の工場を有す、貿易は輸入に凡二千九百四十三萬ポンド、輸出に約三千七百萬ポンドありて、金貨、獸毛、石炭、肉類、皮革を主要輸出品とす、而して船舶の出入は各四百四十萬噸を越ゆるが鐵道の延長はビクトリアに劣れり。

シドニー(Sydney)五二、八五七〇南緯一三三度五二分四一秒は本州の首府にしてオーストラリア第一の都會なり、ジャクソン港の南岸に位置し天然の良碇泊地を有す、されば出港船舶の如きは約二百六十七萬噸に達して貿易盛大なり、市街は本大陸の他の新市に比すれば不規則にして風色佳なるが公署、博物館、公園等見るべきものあり、パルラマッタ(Parramatta)一二、六〇〇はシドニーの西に位す、ゴールブルン(Goulburn)一〇、六〇〇はジョージ湖の北東に當

シドニー

パルラマッタ
ゴールブルン

ニューカッスル

ブローケンヒル

りて海拔六三一米突に位し農産物を集散す、ニューカッスル(Newcastle)一三、〇〇〇はハンターの河口にありて石炭、生毛を輸出しシドニー以北の主港たり、ブローケンヒル(Brokenhill)二七、七一六〇はダーリング河の西にありてオーストラリア第一の銀産地なり。

エラン(Elan)はタワーフォード灣に瀕してシドニーに次げる良港を有せり、ダルゲナ(Darkey)は聯邦政府の所在地と擬定せられし處なり、スノーアイ河の上流、海拔二七〇米突に位しシドニーを距ること二百九十六哩、最近の停車場を距ること三十二哩にあり、周圍の地は耕種、牧畜に利用し得べしと云ふ。

アルムリー(Albury)はメルバーン河に瀕し舟運の便あり、人口は約六千なるも附近の地は葡萄、煙草等を産し葡萄酒の製造行はる、バサルスト(Bathurst)はマッカリ河の上流、海拔六五六米突に位して小麦の産地にあり、九千餘の人口を有す、ブールック(Bourke)は家畜、銅の産地にありてダーリングの左岸、海拔七五米突に位す。

ロードハウ(Lord Howe)島一〇、〇〇人はノーフォーク島の南南西に位するが島内山岳樹木に富み低地は肥沃なり。

ノーフォーク(Norfolk)島(四方料)はシドニーの北東一千七百七十料に位し良港少なく氣候温和なり。

世界地理提要

おせあにあ洲

オーストラリア

ビクトリア

ビクトリア(Victoria)州はオーストラリア大陸の南東部を

占め、不規則なる三角形を呈す、底邊は凡そ四百二十軒、高きは凡そ六百八十軒ありて面積は五州中の最小なり。
生業に就きて記さんに農業は近年頗る進歩し沿岸の地方は勿論、山脈の北部に於ける地方に於ても給水の便ある處に行はれ、小麦、オート、麥、大麥、馬鈴薯、牧草等の栽培あり、葡萄、オリブ、其の他の果物も前途有望なり、牧業は當州の主業にして一九〇四年に於て牛一六九萬頭、馬三七、豚二九、殊に一千十七萬頭の綿羊を養へり、鐵業は主に金を採集す、産地はバララット、ビーチラルス、カッスルメイン、サンドハルスト(ドンデゴ)、メリーボロー、アララット、ギップスランド等の諸地方にして一八五一年より一九〇四年に至る累計價額は二億七千萬ポンドに餘れり、工業は四千二百所の工場を有するも國內の需用を充たすに過ぎず、貿易は輸入に凡そ二千十萬ポンド、輸出に約二千四百四十萬ポンドありて主要輸出品は金、獸毛、穀類、バター、革類、肉類等なり、又船舶の出入は各三百九十一萬噸に近くイギリス船の出入は六百九十四萬噸なるが鐵道の發達は他州の上に出づ。

メルボーン

道の發達は他州の上に出づ。

メルボーン(Melbourne)五〇、八四五〇(南緯一四度五五分は本州の首府にして目下聯邦政廳のある處なり、市街はヤラヤラ河に跨りて、フィリップ灣に近く位し、メルボーン港(横濱より四九〇哩)及外港たるキリアムスタウンを控え商業甚盛なり、公園、公署等見るべきものあり、ジローン(Geelong)二五〇〇はフィリップ灣の西に位せる一港にして製皮製絲行はる、バララット(Ballarat)五、一三二〇はメルボーンの北西西百八十九軒に當り産金地に位す、州内第二の都會なり、ベンチゴ(Bendigo)四、二五四〇はサンドハートスト(Sandhurst)とも云ふ、海拔二三百一十米突の地にありて主要なる産金地たり。

ワルナンプール(Warranpool)はホプキンの河口に近き海港なり、生毛、穀類を輸出す、ポートランド(Portland)は同名の灣に瀕して家畜生毛類を輸出す、エヌカ(Echuca)はムーレー河とカムパスノ河との相會する處にありて海拔九八米突に位し、航道上の要地たり、カッスルメイン(Castlemain)、メリーボロー(Maryborough)は鐵、銅、鑛業及農業の行はるる地方にあり。

南オーストラリア

南オーストラリア(South Australia)州はオーストラ

世界地理提要 おせあにあ洲 オーストラリア 二百九十七

リア大陸の中部に位して面積は二百三十四萬方籽を越ゆるが、其の百三十六萬方籽足らずは北領土(Northern Territory)と稱せらる。南北は約二千九百籽ありて幅は凡そ千五十籽あり。

生業に關して、農業は小麦、オート麥、大麥、牧草、葡萄、馬鈴薯、各種の果物、等を與へ、牧業は一九〇五年に於て凡そ五百八十八萬頭の羊の外に牛(五二)、馬(一九)等を飼養し、鐵業は銅を産するが、工業は微々たり、貿易(一九〇四年)の全計は一千六百萬ポンドに達せずして輸入は凡そ七百四十五萬ポンド、輸出は獸毛、麥粉、銅等の八百四十八萬ポンドなり、而して入船は二百四十萬噸に近く出船は二百三十七萬噸に止まるが三千一百籽足らずの鐵道を有せり。

アデレード(Adelaide) 一七、〇七、二九 南緯 三五度五五分 東經 一三八度三五分 は本州の首都にしてトルレンス河畔にあり、市街は二部に分かれ、北部は住宅の地なるが事務街たる南部は街衢殊に整然たり、大學、植物園等を有す、ポートアデレード(二、〇四五八)は當殖民地の主港にして首府の北西十二籽にあり、外港をセマフリアと云ふ。

アデレード

ポートアデレード

ワラルー(Willaroo)は銅産地の海港たり、ポートオーグスタ(Fort Augusta)はアデレードの北四鐵路四百七籽にありて大灣に瀕す、港は佳良にして生毛、小麦、銅等の輸出あり、パーマーントン(Palmerston)は北領土の首邑なり、ジラクソン港に瀕する良港にして交通の要區たるが一八七五年以來自由港たり。

西オーストラリア

西オーストラリア(Western Australia)州は東經百二十九度以西の地にして東は南オーストラリアに接するも、他の三面は海面し約四千八百三十籽の海岸線を有せり、而して面積はオーストラリア大陸の凡そ三分の一を占めて二百五十三萬方籽に近し。

林地は七十四萬方籽ありて有用なる木材を産し、農業は穀類、牧草等を與へ、牧業は約二百八十六萬頭の羊の外に牛(五六)、豚、駱駝等を飼養す、而して一八八六年以來金の産額の累計は五千五百萬ポンドに近きが銀、銅、錫、石炭等の採掘も行はる、貿易は輸入に凡そ六百六十七萬ポンドありて輸出に金、木材、獸毛、眞珠及眞珠介、皮革等の一千二十七萬餘ポンドあり、船舶の出入は各百七十八萬噸に過ぎず、鐵道は發達せずして交通上の便を缺けり。

生業

パース(Perth) 四、九六〇 南緯 三一度五七分 東經 一五度五〇分 二五秒 は當州の首都なり、スワ

世界地理提要 おせあにあ洲 オーストラリア 二百九十九

スワ

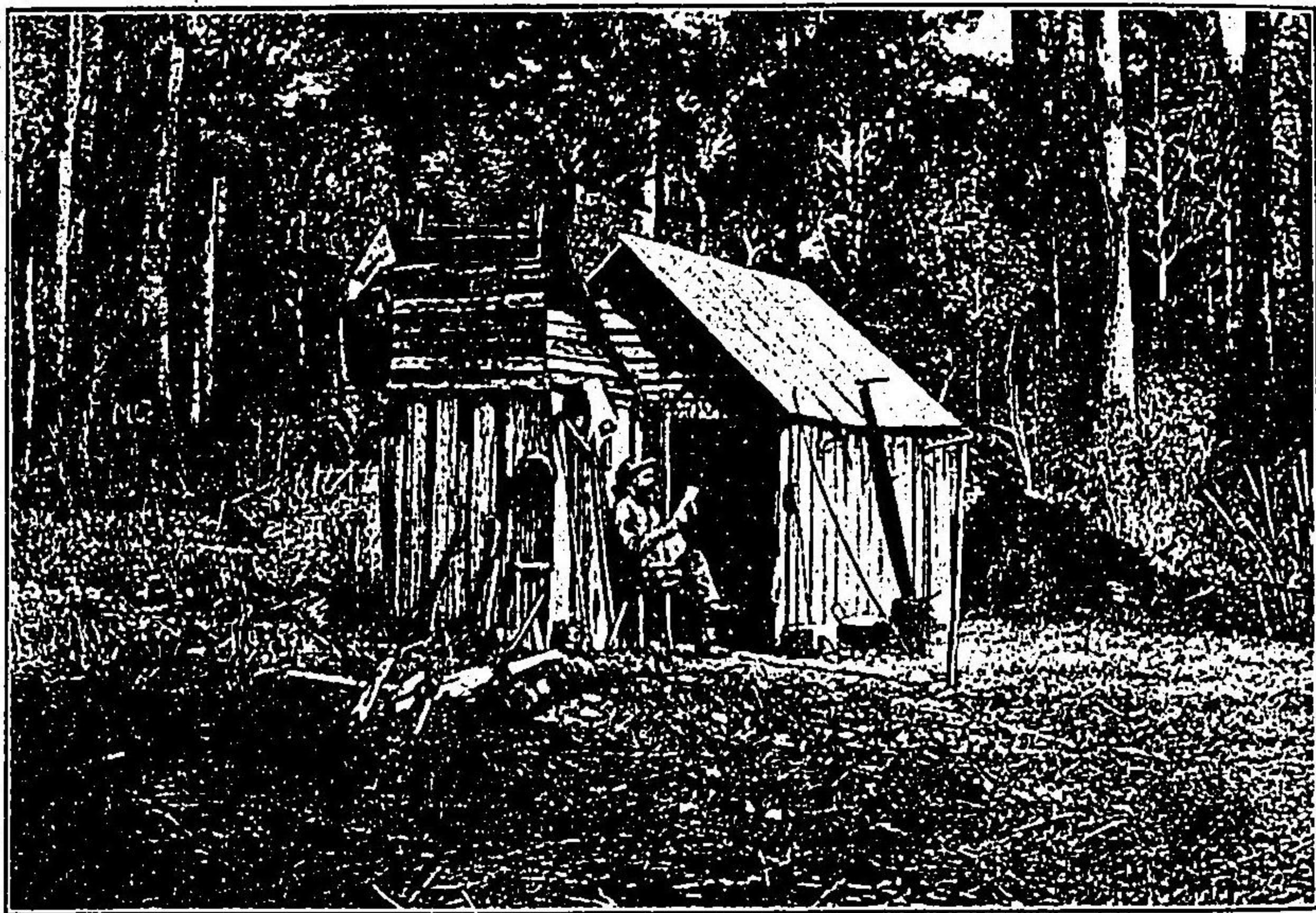
ン河を溯ること十九軒の地に位し市内には建築の見るべきものあり、フリーマン(Freemantle)一四七〇四はスワン河の口に位するが港形佳良ならずして北風を受くるの恐あり。

クールガーマー(Coolgardie)カールマールレー(Kalgoorlie)は孰も湖沼地方の産金地にあり、アルバニー(Albany)はキンヤンシマシマに類する良港なり、グリーンノフ(Greentough)はパリスの北四百四軒、産産地にあり。

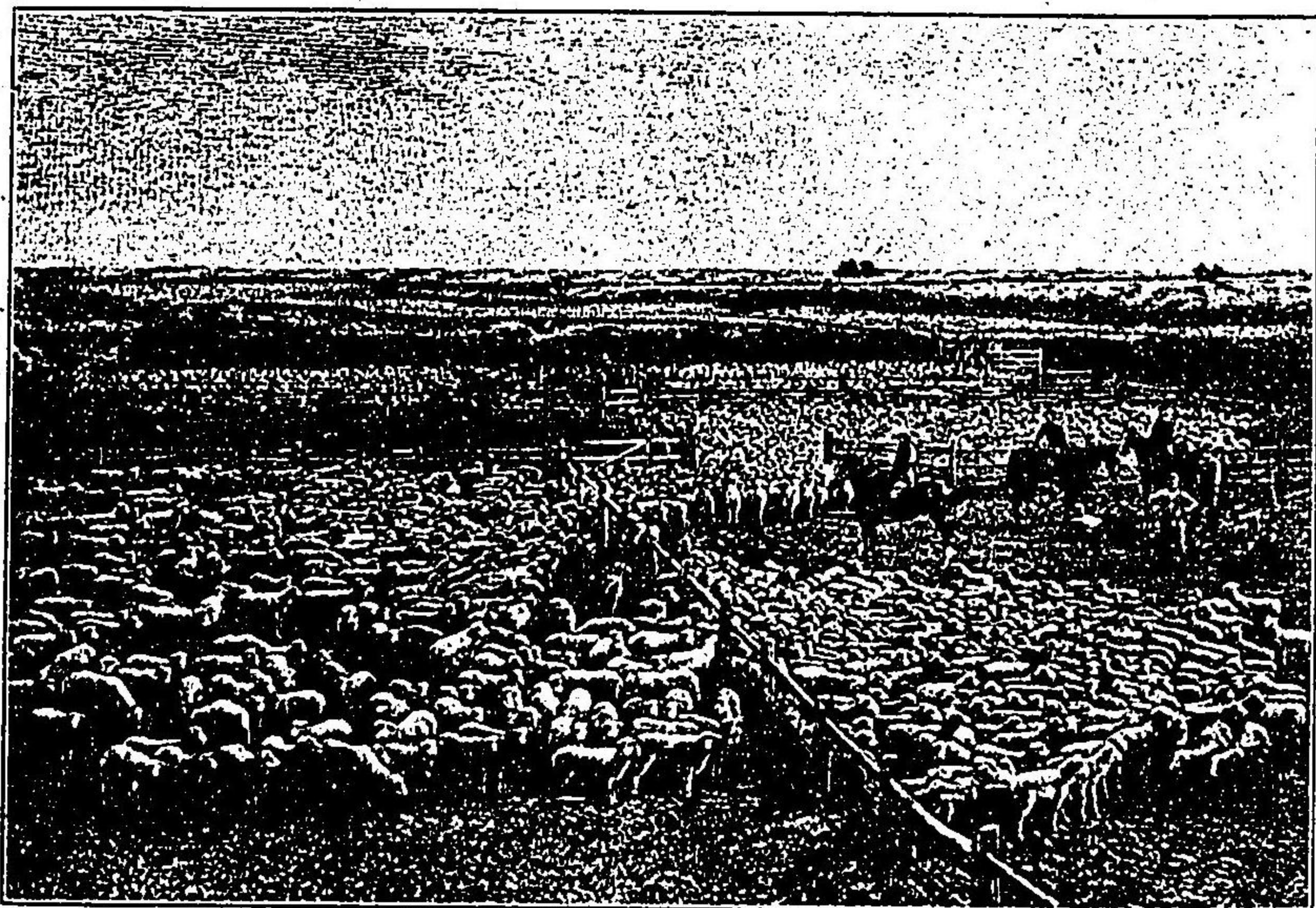
タスマニア

タスマニア(Tasmania)はグリム(Grim)ホータランド(Portland)

及南の三岬を頂點として不規則なる三角状を呈し、南北三百二十軒あるも東西は稍之より短く、面積は屬島を合はせて約六萬八千方軒と算せらる、海岸は西部北部に比較的單調にしてソレル岬(Sorell)の東に於けるマッカリー灣、タマル河灣の之を破ること著しきあるのみ、南東岸は殊に出入多くしてフレシネット(Freycinet)半島、オイスター(Oyster)灣、タスマン半島、ストーと(Som)灣等あり、屬島にキング島、ハンター(Hunter)島、スリーハンモック(Hummock)島、ロビン(Robins)島、フルノー(Furneaux)群島、マリア島、ブルニー(Bruni)島等五十餘あり、南大陸の百尋線に依りてタスマニア島と共に圍繞せられ以て舊時の



開墾者 (ホーサミラリア)



綿羊の牧場 (新ゼーランド)

連絡を示すに似たり。

山脈は東部に於ては海を距ること平均六十四軒の距離を以て走り、平均海抜は約九百米突に過ぎざるが、西部にはサレーン(Surrey)山脈、本島の最高峯カドレル(Cadell)山(一、大西山脈等あり、河流の數は頗る多くしてダーメント、フオン(Huon)、ゴルドン(Gordon)、ピーマン(Piemant)、アーサー(Arthun)等あり、湖沼には大湖、セントクレア(St. Clair)、エュー(Eho)等あり。

地勢は山岳に富みて到る處高隆なるが南東部のみは稍低くして交通上に利用し得べき谿谷多し、之を要するにタスマニアを以て南方のシフイツと爲すは頗る適評なりと云はざるべからず。

氣候。上當地は最、佳良なる一地方なり、氣温は附近の殖民地に比して夏季は涼冷、冬季は溫暖なり、雨量は地方に依りて異なるが、西部は東部より多濕にして、風は屢、強烈なるも雷鳴を伴ふこと稀なりとす、然れども詩的の天候を誇り得るは島の一部に限れり。

人口は約十八萬人(一九〇四年)あるが十方軒の平均は二十五人と成る而

住民

して當初五千人以上ありし土人は一人も生存するものあるなし、移民は南大陸に於けるが如く年に依りて増減あるも來住、往住共に二萬五千人内外あり、宗教はキリスト教最、勢力あり、教育に就きて住民の二割餘は讀書を爲す能はざるが大學は一處あり、政治に關しては立法權を司る、議會は兩院より成り、上院に議員十八人、下院に三十五人あり、行政權を握る知事は七員より成れる内閣に依りて補助せらる。

生業

牧業は一九〇四年に於て羊一五六萬頭、牛二〇、豚、馬等を飼養せしが其の質概して南大陸に於けるものより優良なるに似たり、農業は麥類、馬鈴薯、牧草等を興ふるが果物の産亦注意すべきものにして、鐵業には金、銀、銅、石炭等の産あり、貿易は他州に劣りて輸入に約二百五十五萬ポンド、輸出に獸毛、金、銀、錫、木材、果物及「シアン」、「ホップ」、穀類、皮革等の凡三百萬ポンドあるが出入船舶も各百十萬噸に達せずして鐵道は一千軒未滿なり。

ホバート

ホバート(Hobart)三四九四九南緯四二度五三分東經一四七度二一分はタスマニア州の首府なり、市街はグーエント河を溯ること十九軒、風色に富める地にありて清麗なり。

ランセストン

り、巨船の出入容易にして商業稍、見るべきものあり、ランセストン(Launceston)二、一六〇六は本島第二の都會なり、タマル河の口を溯ること六十四軒、南北兩エスク河の會合地に位す、オーストラリア殊にメルボーンに近きを以て物貨の集散少なからず。

ゼーランド(Zeelan)・ドゥンダス(Dundas)は西岸を距ること遠ざかる銀の産地にして鐵路に依りてマッカリー港に通ず。

島嶼部

位置 島嶼部は一大島と若干の中島、無數の小嶼とより成りて、其の極北はクレスポ嶼の北緯三十二度四十六分、其の極南はマッカリー群島の南緯五十五度十五分、其の極西はカナリー(Canary)島の東經百二十九度、其の極東はサライゴメス島の西經百五十度二十八分なり。

地質 本洲に屬する島嶼には火山質の高島と珊瑚質の低島との二種あり、而して珊瑚質の島嶼には裾礁を經ふに過ぎざるものあり、堤礁に圍まる

世界地理提要 おせあにあ洲 島嶼部

風向

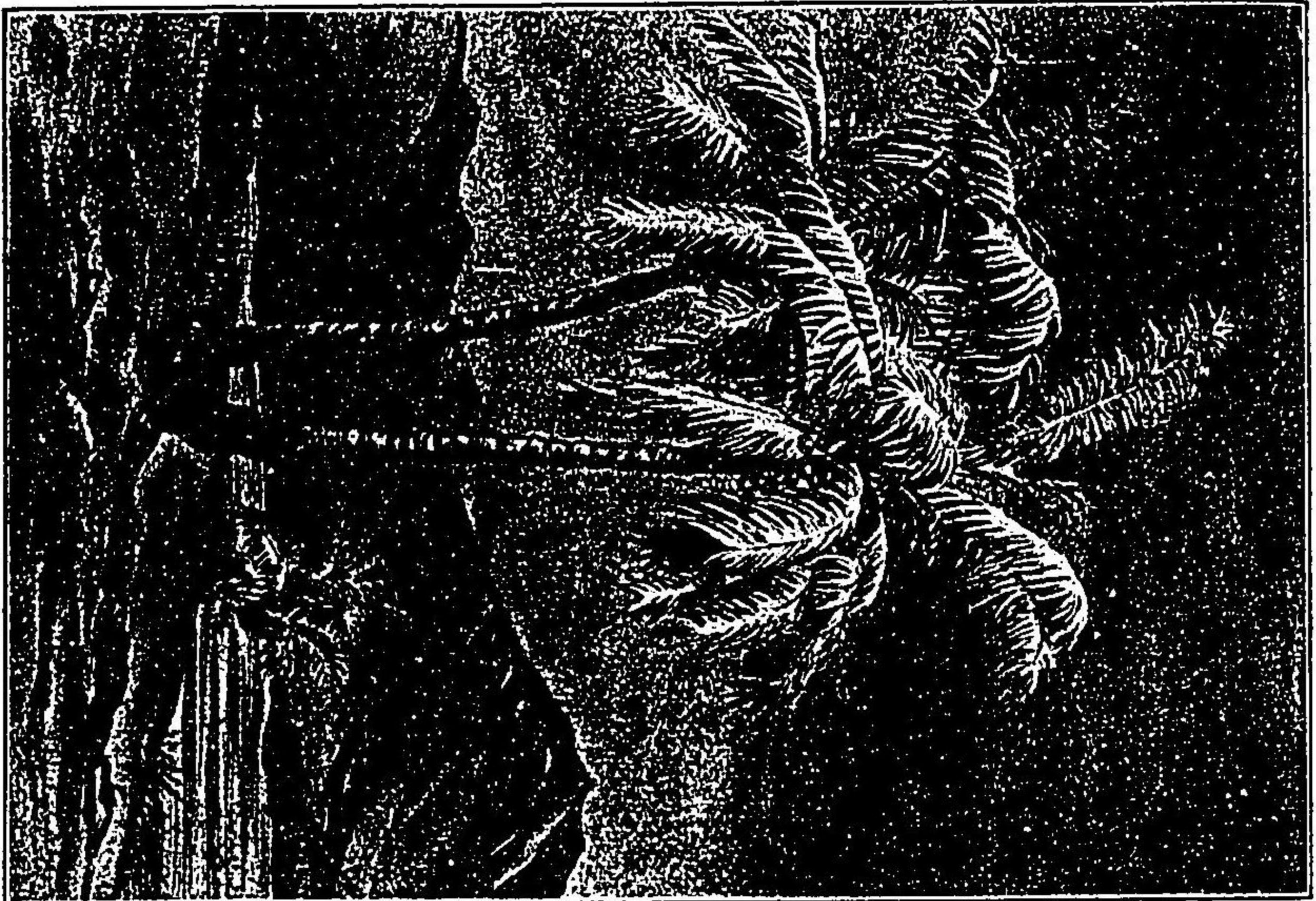
降雨

温度

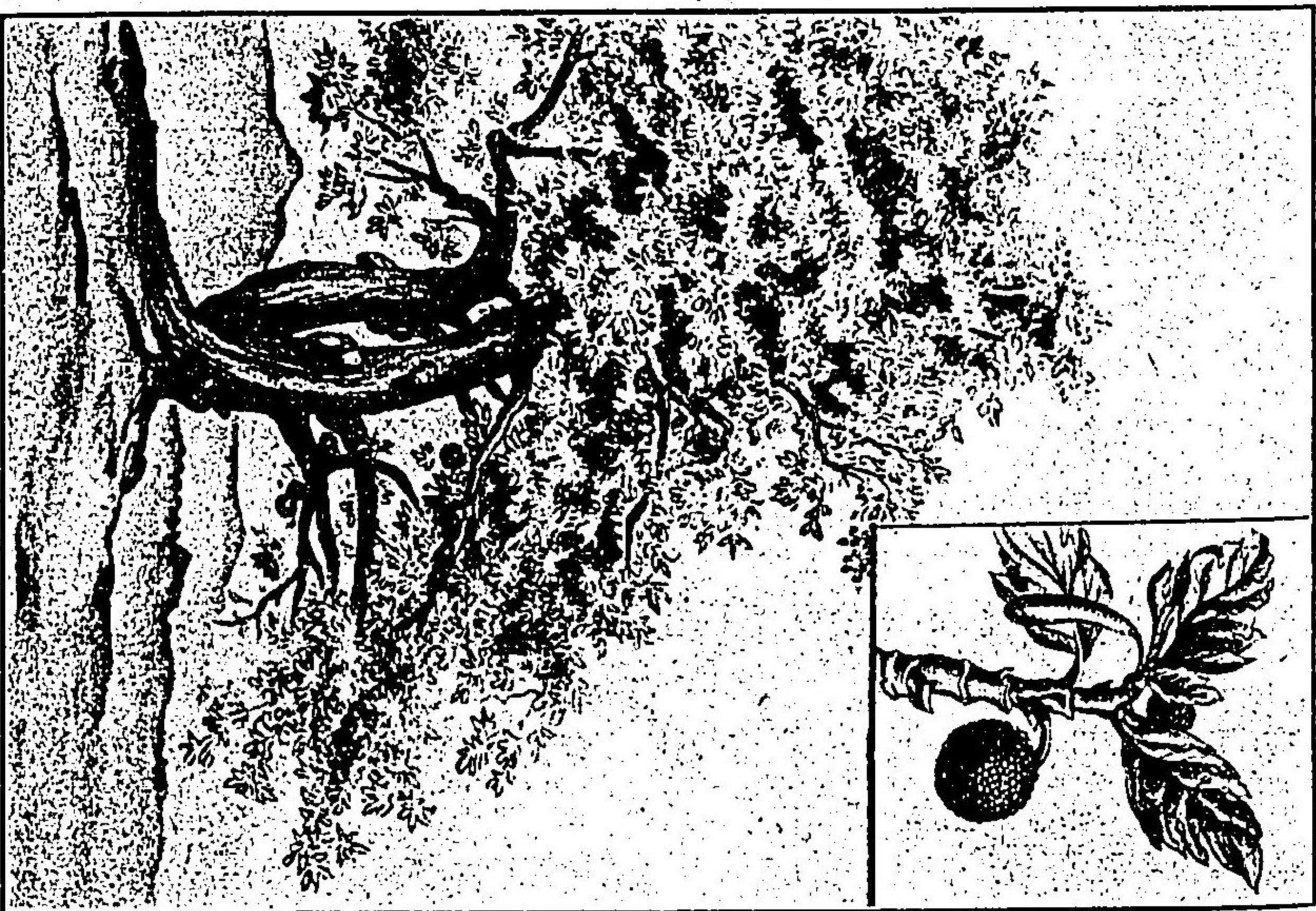
るものあり環礁(Atoll)を爲せるものあり。
 氣候 本洲所屬の島嶼は概し回歸帶にありて貿易風の吹き荒むる地あり。赤道以北にありては北東の方向を有し、同緯度以南にありては南東の方向を有す。而して此の二風帶の間に五度乃至十度に亘れる靜穩帶の存するあり。而して太陽の黄道上に於ける位置に従て多少移動せし、且又此等の定風が真正の方向を有するは太平洋の東部に限り、西部に越くに従て群集せる島嶼は風向に逆ひて其の進行を妨げ、殊に印度洋の氣候風の吹き來る處にありては一定の方向を有する能はず。

貿易風及氣候風は共に多量の雨を齎し來るが定風の衝に當れる島嶼にありては降雨充分にして地味佳良なり、就中貿易風と季候風とが交替する地にありては濕候、乾候の別を生じ、雨水の降下甚多し、是れメタネシア諸島に良土を見る所以なり、之に反して平低なる島嶼は熱し易きが故に海洋より來る濕氣を止むる能はざれば降雨極めて稀なりとす。

各處に於ける群島の平均温度は北部の二十五度乃至三十五度なるがニッ



ココヤシ (Cocos Nucifera) セイヤン (Metroxylon Rumphii)



パンノキ (Artocarpus incisa, A. integrifolia)

ヤム(三三頁) ニルヤム(九九) サクノキ(四八)

サクノキ 麵包果樹(Artocarpus incisa)はタロイモ島の原産にしてオセアニアの熱地に栽培せらる、十米乃至二十米に達する大木木にして樹皮より纖維を採りて織物に製し雄花を「ホクチ」に用ひ、樹幹を木材に供す、殊に滋養分に富める果實を火食す効用の饒多なる重要植物の一に算すべし。

ヤムヤムノキ (Jacquier)(A. integrifolia)はモルツカ群島の原産なるも印度其の他の回廊群島地方に栽培せらる、果實は前種より大なるが効用には大差なし。

トージーランドの南にありては十度乃至十五度にして土地に依りては十度以下に降ることあり。

天産 島嶼部の動植物は概してアジア的にしてオーストラリアの生物に類するものは甚少なし而してハワイ群島にありてはアメリカ的の生物を見ると云ふ要するに生物は東漸するに従て缺乏を告ぐるが如し、殊に低島に於ける植物は「ココヤシ」「タコノキ」(Pandanus)、「イソナム」(Discorea bifida)、「タロ」(Colocasia esculenta)等の數種に過ぎずして各地に普及せる動物は鼠の一種あるのみ「バプア」ニ「トージーランド」の如き大島に於けるも巨大なる獸類を見る能はず然れども「バプア」は有袋類を有するの外鳥類蟲類に富み殊に外觀の美を盡せる「パラヂセア」(Paradisae)の産地として名を知らる而して島嶼部の天産として稍著しきものは檀香、甘蔗、穀類、銅、ニッケル、金、石炭等なり。

住民 住民には黒色の「バプア」人、「ネグロ」人あり淡色の「ポリネシア」人あり、「トージーランド」の「マオリ」人并に「ミクロネシア」の佳人も概して「ポリネシア」派に屬せり、黒色人は野蠻の風を脱せずして争鬪を好み人肉を啖ひ淡色

人は其の性温和にして友誼に厚く外人と交際するを厭はず、文明を慕ひ喜びて固有の慣習を捨つるもの如し、此の外西洋人にはイギリス人、ドイツ人、フランス人、オランダ人等あり、東洋人に支那人あり、又ハワイ群島には日本人少なからず。

所領 島嶼部は全然ヨーロッパ人、アメリカ人の掌中にありて、イギリス、オランダ、ドイツ、フランス、アメリカ、チレーは各若干の地を有せり。

分國表

領國	土	地	地積	人口
イギリス	新ゼーランド及屬地	南東新ギニア	フイジー諸島及	
	ロツマ島	トンガ群島	ファンニング島	ユニオン諸島
	フエニックス群島	ジルバルトリエリス群島		
	サロモン諸島	サンタクルス諸島	ツユビア群島	
	ゾトシー島	ビトケン島	ハウ卿島	ノーフォーク島
	オランダ	西新ギニア		
ドイツ	北東新ギニア	サモア群島	マーシャル諸島	
			五五七九 ^{ガ群}	一五六、二二六
			三九、七八九	一四、〇〇〇
			二四、三六九	四、五、〇〇〇

地理的區分

而して此等の島嶼を研究するに當り、其の自然的狀勢并に住民の情態に基づきて左の如く區分するの例に據れり。

フランス	新カレドニア及ロワイヨータ諸島	二、四三五	八九、〇〇〇
アメリカ	ハワイ群島	一、七四七	一、六七、六七
チレー	新ヘブライズ諸島	一、一〇〇	一、五〇〇
合計		三、五、五〇八	三、五七、〇〇三

沿岸島嶼
 メラネシア (Melanesia)
 バンア (Papua) 即新ギニア (New Guinea)
 新ゼーランド (New Zealand)

世界地理提要 おせあにあ洲 島嶼部

沿岸島嶼

大洋島嶼
ミクロネシア(Micronesia)
ポリネシア(Polynesia)

第一 沿岸島嶼

沿岸島嶼はオーストラリア大陸の北方に起り北東に趣き南東に亘れるが、其の趨勢概々大陸の海岸に沿ひて珊瑚海及タスマン海を抱けり而して北端のバプアと南端の新ゼーランド(南北の二島に分れ居るもの)の二大島を始としビスマルク群島、サロモン諸島、サンタクルス諸島、新ヘブライツ諸島、新カレドニア島、ロワイヨール諸島、フィジー群島等より成れり。

●バプア(新ギニア)

バプア(Papua)即新ギニアはイギリス名をニューギニア(New Guinea)と云ひドイツ名をノイギニア(Neu Guinea)と云ふ世界第二の大島にして北北西より南南東に伸びアラフラ海、印度洋、太平洋珊瑚海に臨めるが南は水浅くトルレス海峡を挟みてオーストラリア大陸と對せり、長さは二千四百軒幅は六百六十軒に近く面積は約七十八萬七八、五三六二方軒あり之に屬島(二、二五九

境域

海岸

屬島

山脈

河流

四)を加ふれば約八十一萬八〇七九五六方軒を得るなり。

海岸は北西部と南東部に於て顯著なる彎入を呈するも概して屈曲多からず、西岸に於ては殊に卑濕なるを見る、半島に北西半島オニン、南東半島メルあり、地角にゼーランド岬あり而して屬島にヨビー諸島、シューテン(Schouten)諸島、フアーガツン、ルイジード、ビオリ、ダントルカストー、D'Entrecasteaux群島、ノルマンビー、ルイジード、ロゼル、ロンゼル、フレデリクヘンドリック、フレデリクヘンドリック、島アル、アロ群島、北西諸島、ライグ、サラル、アチ、諸島等あり。

東經百三十四度より東西に走れるシャルルルーイ(Charles Louis)山脈は四五〇米突、五一〇〇米突(と稱せらるる)の高峯を有して白雪を頂けりと云ふ、オーエンスタンレー(Owen Stanley)山脈は蜿蜒して南東端に達するがピクトリア山(四〇一五)アルベルトエドワード山(三八一〇)の如き秀峰を有せり。

河流は少なからざるが太平洋斜面にワサムソン(Va Samson)、アムベルノ(Amberno)、カイゼリンアウグスタ(Kaiserin Augusta)、ラム(Ramu)等あり、珊瑚海斜面にシライ(Shirai)あり。

世界地理提要 おせあにあ洲 バプア

氣候は一樣ならざるも氣温高く沿海地は殊に健康に適せずして本島の殖民に大なる妨害を興ふ、モレスビー港に於て氣温は平均二十八度三、最高三十五度六、最低二十二度にして雨量は一千八百二十九耗なり。

植物は盛に繁茂し其の狀況は勿論マライ的なる所あるも亦オーストラリア的なるもありて「アカシア」「ユーカリ」「ブダス」等の出現はオーストラリアの接近せるを知らしむるに足り、蕪鬱たる森林はスング諸島殊にセレベス、モルッカ等に關係あるを證す、動物に就きて哺乳類は甚稀にして野豚、甘日鼠の外は皆有袋類に屬し最著しきをキノポリカンガル」とするが「デング」アリタヒ「カモノヘシ」等も亦オーストラリアに見る所なり、鳥類は哺乳類に比すれば著しく豊富にして陸鳥は四百種以上に達し一般に艶麗なるが「パラヂセア」(Paridae)は約四十種あり其の風鳥(Pipitidae)は最名あり、礦物の有用なるものには金、鐵、黒鉛、硫黃等ありて近年の探査に従へば石炭の存在確實なるに似たり。

住民の總數は五十萬乃至二百萬餘ありと稱せられ一方平均約一人未

滿乃至二人半なり、西部、中部にはバブア人、羊毛的の毛を有する意の沿岸にポリネシア人、其の内部にコラリあり、北西部にカロンあり、コラリとカロンとはネグリト派に屬せり。

バブア人即ちバブアは黒色人種に屬し多くの島嶼に分住す、丈高く皮膚黒くして多少褐色を帯び、黒髪は縮れ鬘と共に叢生し且又一見嫌惡の感を興ふるは廣顔坦額、眉秀で眼凹み鼻大唇厚、頸骨亦凸出せるに由るならん、性大膽にして伶俐ならざるに非ざるも、島中に孤立する爲、文化進まざりき、服は腰部に樹皮、介殼を纏ふに過ぎずして北岸の或地方にては男女共に赤裸なりと云ふ、然れども諸種の色を身體に塗り切解的身文を施し又は牙介羽毛を以て耳環、頸環、鼻、腕、腰等の裝飾と爲すあり、殊に若き男子は毛髮に特殊の注意を拂ひて、奇異なる毛冠を戴けるが如き觀を呈す、食物は「セゴ」魚類を主とするも豚、犬、小禽、昆蟲等も用ひられ、人肉を嗜ふの風は一般に行はるるに非ざるも敵を捕へ又は殺したる際は此の限に非ずと知るべし、住居に就きては北岸には杭上に設けたる茅屋の存するあるも南西岸には枝條にて作りたる小屋を觀るに過ぎず又樹上に巢の如きものを作りて棲めるものあり。

西洋人にして始めて本島に至りしものはホルトガル人、メネセスなりとす(一五二六年)其の後エスバニア人、イニゴ、オリントン、テレス來り、本島の住民がギニアに於けるが如く黒色を帯ぶるを以て新ギニアの名を興へたり(一五四六)而して年を経る

に從て探檢の程度も次第に進みしが主としてオランダ人の従事する所と成りしを以て彼等は島の西部を要求し(一八四八)イギリスドインは東部を分領するに至りしなり(一八八四一八六)。

オランダ領

オランダ領

オランダ領^〇三九、四七、八九方料はバプア島の西部にありて

フレ

行政上は東印度のテルナタ區に屬するが本島の三部中將來最有望なりと

パチビ

云ふドロー(Draai)はジールフンク灣頭アルフク山麓に於ける錨處にして

アル群島

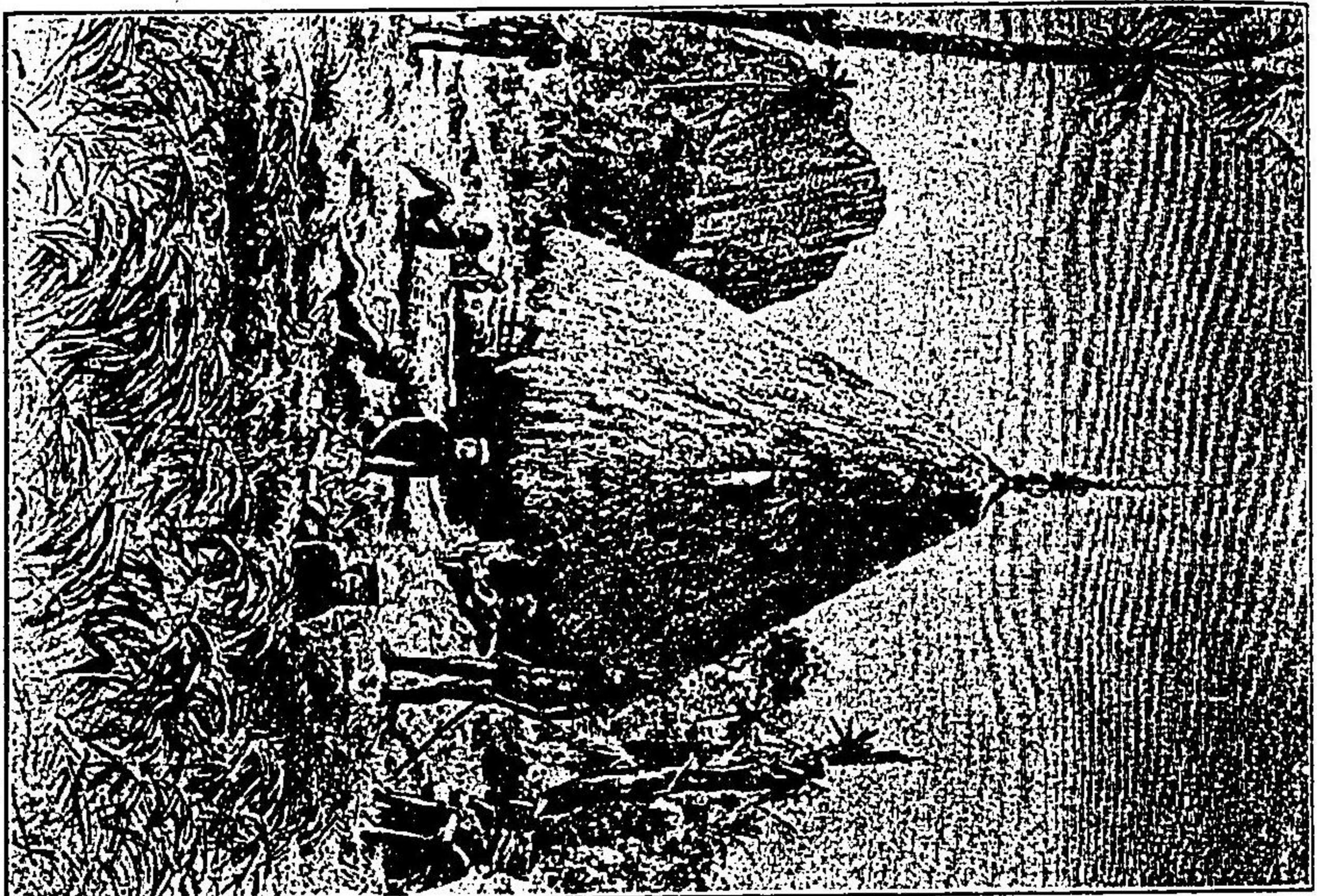
ワレース、其の他の探檢家の出發點なり、パチビ(Paiti)はマックルアー灣の

イギリス領

南岸にありて多少商業行はる。
アル(Arae)群島、地積七、七五〇方料は十島、八十五嶼より成りて前後の二列に分か
る、ドボ(Dobho)は、バンメ(Vanmer)島にあり、群島の首邑にして貯炭所を有す。

モンスビー

イギリス領^〇三、五〇〇〇方料は本島の南東部にありて諸
般の經費はクキンランドの負擔する所なりしが近年オーストラリア聯
邦政府實際之を支配することと成り、毎年二萬ポンド以内の支出を爲すに
至れり、ニコヤシ、セモノキ、白檀金等を産す、ポートモンスビー(Port Moresby)は
本領土の首邑なり。



「カナタラ」の住屋 (新カレドニア)



山民「コヤリ」の住屋 (ポートモンスビー附近)

ドイツ領

ドイツ領 一八〇〇五〇〇方料 即ちキルヘルム帝領土は本島南

東部の北部を占めてビスマルク、サロモン、カロリナ、マリアナの諸島をも含めるドイツ領、新ギニア、四〇四〇〇八二六方料の主要部を爲せり。ココニヤシ、煙草、綿等の栽培行はる。フリードリヒキルヘルムスヘーフェン(Friedrich-Wilhelmshafen)はアストロラブ灣の北西岸にあり、本領土の首邑にして最良の健康地なり。

●メラネシア

メラネシア(Melanesia)は住民の黒色種なるに基づける名稱にしてビスマルク、サロモン、サンタクルス、新ヘブライツ、新カレドニア、ビチー等の各群島より成れるが、ビチー群島は住民に混濁の跡あるを以てポリネシアに屬せしめらるることあり、又前にも陳べし如くパプア并に屬島の住民は若干の種族より成れりとするも概し黒色を呈するが故にメラネシア中に抱括せしむるを以て適當なりとす。

ネグリト派はメラネシア最舊の住民なるが如し、往古の住域は相應に廣闊なりしが其の遺跡はヒマラヤ山脈、マリアナ群島、チモール島にも存せり、現今はアンダマン列島にミンゴピーと稱せられ、フィリピンにアエタ、マツカカの山地にサンガと唱

へらる、彼等は平均一米突三八の身長を有するが故にアフリカのネグリロに比して矮小、低し、廣頭にして皮膚黒く毛髪も眼彩も同様なり、額は幅廣く鼻は直にして鼻孔大ならず、外観甚しく醜惡ならず。

ビスマルク群島 ビスマルク(Bismark)群島 地積四、七一〇〇方料 人口一八、八〇〇〇人は新ボム

メルン、新メクレンブルグの二大島并に若干の小島より成り東方に向ひて凸曲せる馬蹄形の群島を爲せり、氣候は新ギニアのそれに酷似せるが夕刻に起る陸吹風は内部の沼氣を運び來りて健康を害すること尠少ならず、此の群島の住民は約十八萬八千人ありて白人は三百三十三人に過ぎず、一八八四年以來ドイツの保護地にして一九〇四年には約百七十六萬マルクを輸入し凡百二十一萬マルクを輸出せり。

ヘルバートツヘーエ(Herbertöhe)は新ボムメルン島に於けるガゼル半島の北東岸に位す、ドイツ領新ギニア知事の駐在地なり、マツビ(Mauvi)はフランシツ灣の北部に於ける小島にしてヘルバートツヘーエの北西に當れり、良好の錨地にして新ギニア會社の管理署あり。

サロモン諸島 サロモン(Salomon)諸島はビスマルク群島の南東にあり

て約一千一百料の間に散在し約四萬四千(四、三八九九)方料の地積を有するが北東、南西の二列を爲せり、此等の島嶼は概、火山質なるが小島には珊瑚質のものあり、雨量は甚多く、氣温は三十二度と二十四度との間を昇降し、氣候概して不良なり、人口は凡十八萬ありと稱せらる、本諸島は一千五百六十七年發見せられ、ドイツは一千八百八十六年以來領有を主張したりしが、一千八百九十九年の英獨協商は南部をイギリスに北部をドイツに屬せしむることとせり。

ドイツ領 ドイツ領 一、〇八七八方料はブーゲンビエー(Bougainville)一、〇〇〇〇方料、ブーカ(Buka)シホルトランド(Schorland)等より成りて、メルヘルム帝領土の支配を受け、白檀、龜甲を以て主要商品とす。

イギリス領 イギリス領 一、三三九〇〇〇方料はシオアズル(五八五〇)、イサベル(五八四〇)、マライタ、新ジョージア、グアダルカナル(六五〇〇)、サンクリストバル(三〇九〇)、其の他の諸島より成り、ココヤシ、馬鈴薯、アナナス、バナナ等の産あり、行政上は一駐在官の管理の下にあり。

サンタクルス諸島

サンタクルス(Santa Cruz)諸島、九三八方米、即ちシエラロット女島

諸島はサモロン諸島の南凡そ三百二十軒に位する火山島にしてイギリスの所領なり。

新ヘブライズ諸島

新ヘブライズ諸島はイギリス人のニューヘブライ

ズ(New Hebrides)にしてフランス人のヌーベルヘブリード(Nouvelle-Hebrides)な

り、其の所領は久しく決せざりしも、一千八百八十七年の條約はフランス及

イギリスの聯合海軍委員の下に人命財産を保護することを決定せり。

本諸島はサンタクルスの南にありて凡そ八百二十軒の間に亘り、一萬三千

餘方軒の面積を有するが、分かれて北中南の三群を爲せり、諸島は火山質に

して珊瑚礁を繞らすものは少なく、火山あり、温泉の湧出あり、海岸は好碇泊

地に乏しく、颶風屢起る、住民は六七萬人あるも各島異同ありて、明かに人種

の混化を示せり。

新カレドニア 新カレドニアはフランス人のヌーベルカレドニー(Nou-

velle-Calédonie)にしてメラネシアの最南にあり、長さは四百軒に達するも幅の

平均は五十六軒に過ぎずして面積はロワイヨートを合はすれば一萬九千

海岸

八百餘(一、九八二三方軒あり。

海岸は北東岸に殆ど直線的なるも反對の方面に於ては港灣の凹入ありて

接觸の便を與ふるもの少なからず、地勢山岳に富み、海拔一千六七百米突に

達する二條の並行山脈は中間に谷地を挟みて北西より南東に趣けり、氣候

はメラネシアの他の部に比すれば乾燥冷涼にして長春にあるが如し。

新カレドニアはフランスの殖民地にして農業は珈琲、玉蜀黍、煙草、砂糖、葡

萄、マニオク、アナナス、小麥等を與へ、牧業は牛、羊を飼養し、鑛業は、ニッケル、クロ

ム、コバルト、銅、石炭等を與ふ、貿易は一九〇四年に於て輸入に一千二百四

十七萬八千フラングありて輸出は一千百四萬一千フラングなるが、前年に

於ける貿易輸出は八九六、四に就きて主なる輸出品を示せば、ニッケル三二六、〇

コバルト二二〇、九、クロム二二二、四、珈琲一〇三、六等あり、鐵道はなきも郵

便、電信、電話等は備はれり。

主邑ヌーメア(Numé)は風色に富めるがヌー島とチノ島とに依りて形成

せられたる港は安全廣濶にしてシドニー、其の他と交通の便あり。

世界地理提要

おせあにあ洲

メラネシア

三百十七

生業

ヌーメア

ロワイヨータ(Loyauté)諸島はイギリス人のロイヤルチャール(Challenger)にして面積は約二千七十二方呎、住民は一萬四千八百人と算せられ、土人は新ヘヅライツ人に似たり、バナナの栽培行はれ白檀を以て主要輸出品とす、本諸島はシェンターフィールド(Shenfield)諸島、ワリス(Wallis)諸島、フツナ(Futuna)アロフ(Alofi)と共に行政上新カレドニアに属せり。

ビチー諸島

ビチー(Viti)諸島、フイージー(Fiji)諸島は南緯十五度乃至

二十度、西經百七十七度及び百七十八度の間にありて火山質のビチレブ大ビチレブの意、バヌアレブの二大島、若干の小島、約二百五十の小嶼より成れり、面積はロツマ島を合はせて二萬四千五百方呎あり。

氣候は一般に健康に適せり、スバに於ける氣温は平均二十六度、年雨量は二千七百九十四呎なり、旋風は一月或は二月に起り時として津浪を伴ひて大なる損害を與ふ。

人口は一九〇四年に於て約十二萬(一二、一七七三)人ありて大部分はビチ人なるが印度人、ヨーロッパ人、ポリネシア人等もあり、専ら行はるるはキリスト教なり。

氣候

住民

政治

主要

ビチレブ島

ビチーはイギリスの直轄殖民地なり、知事は行政立法の二會議を有するが西太平洋高等委員兼總領事としてフニンギ、ユニオン、フニックス、ジルベルト、エリス、サロモン、サンタクルスの七諸島をも支配す。

牧業は牛、山羊等を飼養し、農業は甘蔗、ココヤシ、バナナ、其の他を栽培し、一九〇三年に於ける貿易高は百十三萬、ボンドにして砂糖「コブラー」、果物等を輸出せり、新ゼーランド、オーストラリア、トンガ、サモア、ホノルル等との間に定期の航通あり、スバ、レブ間には約九十一呎の電話あり、郵便の制亦存す。

スバ(Suva)は地味肥沃なるビチレブ島(一〇六四五方呎)の南東岸にあり、ビチー殖民地の首邑にして在留ヨーロッパ人は一千餘人あり、ワイカマはバヌアレブ島の南岸にありてサブサブ灣に瀕し温泉を有す、ヌガラオ灣はカンタブ島の南岸に位し航行上の要處なり。

新ゼーランド

新ゼーランドはイギリス名をニージーランド(New Zealand)と云ふ、南太平洋の西部、南緯三十四度五十分北島のヤ、同四十七度五十分島の南の間に

世界地理提要 おせあにあ洲 新ゼーランド 三百十九

海岸

位し、オーストラリアの南東一千六百軒にあり、北と南との二島并にステワ
ート、其の他若干の小島より成りて二十六萬八千餘方軒の面積を有せり、北
東より南西に至る長は一千九百三十軒にして、幅の平均は百九十三軒なる
がニュージールランド殖民地の主要部を爲せり。
海岸の延長は四千八百軒に達し、從ひて灣も其の數少なからずして北島
にハウラキ、ハウキあり、南島にタスマン、ライテルトン等あり、而して海峡に
は南北二島の間にクックあり、南島とステワート島との間にフォードあり、地角
は北島にマリーバンデエメン岬、北岬、パリッサー岬、エグモン岬ありて南島に
フエアエル岬、プロビデンス岬あり、又半島には北にコロマンデル半島あり、南
にバンク半島あり。

山岳

南北の二島は共に山岳に乏しからずして二千米突以上に達する火山の
數も二三に止まらず、殊に南島には高山秀嶺多く、體々たる氷河を戴くもの
あり、山岳の中最著しきものは北島のルアベク(二八〇四)、トンガリロ(二二四
八)、エグモン(二五二二)と南島のフランクリン(三〇五〇)、クック(二七六八)、アス

河流

ピリング(三〇六〇)と成り、河流は北島にワイカチ(二七〇軒)ありて南島にク
ルシアあり、沼湖の主なるものは北島にタウボ(五一八方軒)ありて南島にテア
ナウあり。

氣候

氣候は一般に溫和にして健康に適せり、北島の極北部は亞熱帶的にして
高臺、山岳を除くの外、全島到る處霜雪を知らざるも、南島の冬季には常に厚
霜深雪あり、氣温は南島の東部に於けるカンターバリー平原に於ては年十
六度七を示すが、其の西岸のホキチカにては八度九、北島のエルリントンに
ては七度二なり、雨量は西岸に多くして、北島に就きて云へばタラナキの雨
量はカピールの二倍以上に達するが、南島のクリストチャーチは七十軒にし
てホキチカは三百十軒なり、雪線は南島に於て二千三百米突とす、又風は主
として北西より來る。

天産

植物は比較的種類少なきが其の約三分の二は全く此の群島に固有なる
ものとす、而して「ユウカリ」「アカシア」は一も此の地に於て見る能はざるが、動
物は固有の哺乳類なきも、ノルゲネツミは今や増加せり、鳥類には豊にして

沿革

住民

百四十五種を數ふるが「キキ」(Apoia)を以て著しきものとす、礦物には石炭、金、銀、銅、錫、クロム、鐵、鑽、砂鐵等もあり。

一六四二年オランダの航海者タスマンは北島の西岸を發見してスタールランド本國のセイラの發見と改めしが、二百餘年を経過したる後、有名なるクックは三回の旅行に依りて各島を探検し、イギリスの領土と宣言したり、之より幾もなくしてイギリスフランスアメリカの捕鯨者の好住處と成り、宣教師も來り、ニュージランド會社の創立(一八三九)ありしが遂に一八四〇年ワイタング條約成立して土民の酋長が有せし主權はイギリスの手に移れり、翌年新南エールズの屬地は一變して特立の殖民地と成り、金産地の發見(一八五七)は來住を促し、聯邦的自治殖民地は統一的殖民地に變化したり(一八五七)。

人口は一九〇四年に於て約九十萬人にして大部分はイギリス人なるが土人「マオリ」は減少して四萬三千餘人と算せられたり、移民は同年に於て來住に三萬三千人足らずありて、往住は二萬二千餘人なり、宗教はキリスト



ケア (Kea) (Nestor notabilis)



極樂鳥 (Paroia serpenia, Cichnurus regius)

致を以て盛なりとす。

ニージーランドはイギリスの自治殖民地九二七、二九〇、五九方料にして立法権は立法會議代議院より成れる議會と知事とに委ねられ一九〇四—〇五年の歳出入は各凡八百萬ポンドなり而して公債は五千七百萬餘ポンドあり。

新ゼーランドの三分の二は農業、牧業に利用し得べきが約三割は尙森林に蔽はれ、約一割三分は禿蕪なる山岳湖沼不毛の地たり、農業は小麦「オート」麥、大麥、牧草等と與へ、牧業は羊一八九五萬頭、牛一五九馬(三〇)豚(二三)を飼養し、鑛業は金(二〇四萬ポンド)石炭(七六)等を與ふ、工業は一千七百十四萬ポンドの製品を與ふ、其の最、主要なるものは肉類(三八三)なりとす、貿易に就きて一九〇四年には一千三百二十九萬ポンドを輸入し一千四百七十四萬九千「ポンド」を輸出せしが前年の輸入は約一千二百七十九萬「ポンド」、輸出は凡一千五百萬「ポンド」にして主としてイギリス輸入一七五、輸出一三三と取引し、オーストラリア二二、三、三六、合衆國一四、四、七等之に次びり、而して重要輸出品は生毛(四六七)、肉類(二八七)、金(一九八)、バター(一三八)の外に新ゼーランド麻、ゴム、皮革等あり、船舶

世界地理提要

おせあにの洲

新ゼーランド

三百二十三

ケル (Ken) (Nestor notabilis) [鵜類] は新ゼーランドの南島に産す、原來果食禽なる一級群の移殖ありし後如何なる事情に依りてやは詳ならずとも肉食禽と成りて半島に捕獲を與ふるに餘分ならず。

ハカハカ [極樂鳥] [鳥類] に數種ありてバブア島に棲む、性質、習性等は鳥に似たる所多きを羽及は婉麗にして婦人用帽子の裝飾に適す。

の出入は各百十萬噸(一九〇四年)を超え、鐵道は三千八百二十一軒(一九〇五)郵、便、局は一千八百九十八、電、信、線には三萬八千四百七十七軒あるが、電、話、も亦使用せらる。

北島

北島は新ゼーランド三島中の北部にあるものなり、面積は十一萬五千七百七十二方軒と概測せらるるが、長さは八百八十軒ありて最大の幅は四百餘軒なりとす、海岸は屈曲に乏しからずしてポートニコルソンを以て最とす。

住。民は一九〇一年に於て三十九萬餘人あり、主としてオークランド、ダラナキ、エルリントン、ホークス灣の四地方に分住せり。

エルリントン

エルリントン(Wellington)(五三九〇〇)南緯一七四度四七分は新ゼーランドの

オークランド

首都なり、クック海峡の北岸に於けるニコルソン港の西岸にありてシドニーの南東約一千九百三十軒に當り交通の便を有せり、家屋の多くが木造なるは地震を恐るるに因るならん、オークランド(Auckland)三八三七七は一八四〇年の創建に係り本殖民地最舊市街の一にして幅凡九千六百米突の地峽にあり、ハウラキ灣の南西隅に於ける良港は船舶の出入多く近郊の地は風

色に富めり。

ラッセル(Russell)はアメリカンズ灣に瀕しオークランドの北二百十軒にあり、南太平洋に於ける捕鯨業上主要根據地の一なるが住民には土人多く、本島殖民事業創始の地として名あり、ナビーア(Napier)はホークス灣の南西隅に於ける小半島にありて良港を有す。

南島

南島は北島の南西、ステワート島の北東に位するが、面積は十五萬千五百八十方軒あり、長さは八百八十五軒にして幅は二百四十乃至二百廿軒なり、海岸は北島に比すれば簡にして彎曲多からず、西岸に少なからざる峽灣を有する本島は西部に偏在する南アルプの東に多くの湖沼を有せり。

住民は北島より少なく一九〇一年には三十八萬餘人ありてマルボロー、ネルソン、エストラランド、カンターバリー、オタゴの五地方に住せり。

クリストチャーチ

クリストチャーチ(Christchurch)(四八七六七)はアボン河畔の平地に建ち著しくイギリス的なり、ツネーデン(Dunedin)(二五九〇〇)は附庸港たるポートチャ

ルマース(Port Chalmers)を距ること十三四軒、良灣に瀕して商業上主要の地なるが市街麗雅なり。

世界地理提要

おせあにあ洲

新ゼーランド

三百二十五

ステewart

ネルソン(Nelson)はタスマン海に顔して小港を有し暑熱甚しからず、インバーカー
ギル(Invercargill)はソネーゲンの南西約二百四十料に位し製材、其の他の工場ありて
生毛、凍肉、穀類等を多く輸出するが外港カメルタウンは南方二十七料に位す、キン
グストン及びクレンスタウンはワカチア湖の岸にありて旅客の往來少なからず。
ステewart(Stewart)島は新ゼーランドの三島中最南最小(一七二二方料)の
島なり、島内山岳多きが沃谷も亦少なからずして植物は繁茂し砂鐵等の産
あるが、近海には魚族多し、本島は舊住民なかりしが一九〇一年には二百七
十餘人ありたり。

ケルマテック(Kermadec)諸島、料、八三方、人は、チタム(Chatham)諸島、料、九七一六方、
諸島、方料、アンチポッド(Antipodes)諸島、方料、オー克蘭ド(Auckland)諸島、方料、
八五二カメル(Campbell)諸島、方料、クック諸島、ニウエ其の他と共に新ゼーランドに屬せり。

第二 大洋島嶼

大洋島嶼は赤道の南北に亘り廣大なる海面即ち太平洋上に基布せる無數
の島嶼より成りて所謂眞のオセアニアなり、地脈の趨勢、住民の差異等に基
づきてマイクロネシアとポリネシアとの二部に分たる。

● ミクロネシア

マイクロネシア(Micronesia) 嶼の群は人種的區分にしてマガリアエンス及アン
ソン、マリアナ、カロリナ及パラウ、マーシャル、ジルベルトの六部、三千五百三十
方料に過ぎざるも其の散布する區域は甚だ大なり、人口は十一萬餘ありて種
族はポリネシア的なるも別に一派を爲せり、マイクロネシア人は温良にして
極めて漕舟術に長じ體軀は稍小なるも容貌は概して醜からず、頭髮黒く鬚
髯疎にして長く、皮膚は褐色を呈せり。

マガリアエンス諸島 マガリアエンス(Magillae)諸島は北緯二十度乃至三十二度、
東經百二十八度乃至百六十八度に於ける海面上に散布せる若干の嶋嶼より成れ
るが、地積は僅に百十方料に過ぎずして我が小笠原島も此の中に含まるべし。

マリアナ諸島

マリアナ(Mariana)諸島はドイツ人のマリアネン(Marian-

諸島にしてラドロン諸島とも云ふ、マイクロネシアの北西部を占め南北約
八百料に亘れるが、面積は千二百四十方料に過ぎずしてグアムを最大とし
合計十五の島より成れり、南部に於けるものは平低なるも北部に於けるも

世界地理提要

おせあにあ洲

三三二一七

のは山岳多く活火山も數座あり土地は南方に越くに從て肥沃なりとす氣温は二十一度乃至二十六度七にして雨季は夏の半に於て南西風を以て始まるも降雨は全年に亘り乾魃稀に起る要するに氣候は概して佳良なるが往々激震大風の害あるを免れず住民は一萬二千人に達せず主としてフィリッピンより來れるタガール人、ピサヤ人より成れり。

本諸島は一五二一年マリアエンスに依りて發見せられ一六六八年よりエスパニア領と成れり然るにエスパニアとアメリカとの間に戦争ありて一八九八年グアム島は合衆國領と成り殘餘はカロリナ、ペレウと共にドイツに賣與せられたり。

ドイツ領^〇六二六方料はマリアナ諸島の大部を占むるが政廳は長^〇二十四^〇六二六方料に置かる。

アメリカ領^〇九六七六方料はグアム^〇長^〇五^〇一^〇方料の一島にして同島は太平洋横斷電線の中繼所なるが首邑アガニヤ^〇(Agaña)は六千の住民を有せり。

カロリナ諸島

カロリナ(Carolina)諸島はドイツ人のカロリネン(Carolinen)

ドイツ領

アメリカ領

諸島にしてマリアナ諸島の南に位す東西の方向に長く配置せられて三千二百二十方料に亘れるが地積は一千四百五十方料に過ぎず凡五百二十五の島嶼より成りてボナベ及クサイエの二島は高隆なるも其の他は低く珊瑚質なり氣温は昇降すること少なく涼風吹き來るを以て健康を害せず。

本諸島は一六八六年エスパニア領と成り一八九九年以來ドイツに屬せり人口は四萬一千四百人ありて行政上東西の二部に分かるボナン(Bohane)島^〇長^〇二^〇六^〇方料は東カロリネン政廳のある處にしてヤン(Yap)島には西カロリネンの政廳あり。

マーシャル諸島

マーシャル(Marshall)諸島^〇長^〇一^〇五^〇〇方料はカロリナ諸島の東に位し北西より南東に走りて八百方料の間に亘り二列を爲せるが珊瑚礁を繞らす或は環礁なり一八八五年以來ドイツに屬し駐在官はイアルイト(Jaluit)に居る。

シルヘルト諸島

シルヘルト(Gilbert)諸島はエリス(Elice)諸島を合はせば四百六十五方料の地積と三萬餘の人口とを有す十六個の低き珊瑚礁より成り土壤極めて淺く辛うじて「ココヤシ」「バナダニッス」等を産するのみイギリスに屬す。

● ポリネシア

世界地理提要

おせあにあ洲 ポリネシア

ポリネシア(Polynesia)の多島の區域は明確を缺き、廣義に於てはフィリピン群島、バプア島、オーストラリア大陸以東にある大小の島嶼を含み、狹義に於てはサモア(或はビチー)以東の島嶼を指示す而してポリネシアを以てポリネシア人種の住域とすれば南は新ゼーランドより北はハワイに到るべきも、地質又は氣候に基づけば約三百萬方呎の海面上に於ける十餘群の島を包括するに過ぎずして、珊瑚質の低島多きも火山を有するもの少なからず、海洋并に貿易風の影響を受けて炎熱に苦むことなし、住民は二萬六千餘方呎の地に對して約二十六萬人あり。

ポリネシア人はマライ亞種の一派にして體軀大く筋骨逞しく皮色は淡褐色若しくは帶黒黄色を呈するが、長頭又は亞長頭にして面貌醜からず、分かれて二群を爲し、亞長頭を有する西群はトンガ諸島、サモア諸島等に居り、長頭的の東群はソシエテ、ハワイ等の各群島并に新ゼーランドに住めり。

○ **ハワイ群島** ハワイ(Hawaii)群島は一にサンドウィッチ(Sandwich)群島と稱せられ、ポリネシアの最要部たり、北回歸帶にありてアジアよりはアメリカ

に近く位し、北緯十九度乃至二十二度、西經百五十六度乃至百六十六度にあり、北西より南東の方向に六百四十軒間に配置せられ、十一の島嶼は面積一萬六千七百方呎を有し、南部のハワイ島を始とし、主要なるもの八個あり。

處に依りては珊瑚礁を繞らせる、ハワイ諸島は火山質にして起伏多きが、火山方はポリネシア中最、強烈にして火口、温泉少なからず、殊にマウナケア山は海拔四二一〇米突に近く、實にオセアニアの最高山なり、此の外にも四千米突に達するものあり、河湖は記載するに足るものなく、土地は頗る肥沃なりとす。

氣候は一般に健康に適して晴天多し、氣温は沿海の地に於て二十七八度なるが、ホノルルの雨量は百二哩以下なりとす、而して北東貿易風に面する地は背面の地に比して降雨多し。

ハワイ群島は一千五百五十五年、エスパニア人ガエタナ之を發見して、ヒアルヂニと命名せしが、一千七百七十八年に至り、クック再探檢してサンドウィッチと命名せり、而してカメハメハ一世の建設せる王國の獨立は一千八百

氣候

沿革

四十三年フランス、イギリス等の政府に承認せられ、カラカウア王の死するや(一八九二)女王リリウオカラニ繼ぎて一千八百九十三年に至りしが、此の年王位廢せられてハワイ共和國現はれ、一千八百九十八年アメリカ合衆國に合はせられ一千九百年ハワイ領土の成立を見たり。

住民

人口は、一九〇一年に於て約十五萬四千人(男一〇、六三六九ありて一方九人の割合なり、種族に就きては土人二、九八三四、日本人六、一一一一、支那人二、五七六七、白人二、八五三三、雜種等あり、殊に來住人は日本人を主とす、宗教はキリスト教最盛にして學校は諸處に設立せられ一般にイギリス語を用ふ。ハワイ土人即チカナカの減少は顯著にしてクックが四十萬(一七七八年)と概算せしは過大に失すとすも、一千八百三十二年の十三萬餘人より六萬七千餘人(一八六〇)、五萬七千九百八十五人(一八七八)、三萬一千餘人(一八九六)を経て一千九百年に二萬三千人足らずと成りしは事實なり。

ハワイ土人

政治

政治上はアメリカ合衆國の一領土(Territory)なるが任期四年の知事ありて之を支配し大統領の任命に係れり、兵備上はカリフォルニアに屬し海軍の一

生業

根據地なり。

産物の主要なるものは砂糖及米なり、一千九百〇三年に於ける甘蔗栽培地は五十六處にありて被役者四、二三〇〇の大部は我が日本人三、〇六四〇なるが、殘餘は支那人(三八八)、ポルトガル人(二六七〇)、其の他なり而して砂糖の年産額は三十八萬七千噸とす、此の他に珈琲、バナナの栽培行はれ、皮革、生毛の産もあり、貿易の狀況は明瞭ならざるも一九〇五年六月に終れる年度に於て輸入は凡三、百一萬、ドルにして輸出は五萬四千餘、ドルなるが、合衆國に對する物貨の輸出は三、千六百六萬九千餘、ドルにして砂糖、其の大部(三五一)を占め、輸入は凡、一千六百六十四萬、ドルなりき、交通に就きては船舶は三萬四千噸弱あり、航線は六ありてアメリカ、カナダ、オーストラリア、新ゼーランド、支那、日本と本島とを連ぬ、鐵道は二百六紵、電信線は約四百紵に過ぎざるが無線電信の使用あり。

オアフ島

オアフ(Oahu)島、一五五四方料、五、八五〇四人は群島中の最要なるものにしてカイエイエワホ、カイキ、兩海峡の間に位し不規則なる四邊形を呈せるが、島内山岳多く

西岸に接して一二三〇米突に達するものあり肥沃なる土地に乏しからざれば住民稠密なり、**ホノルル**(Honolulu)三九三〇五北緯二一度一八分二〇秒は西經一五七度五一分五二秒はハワイ領土の首府にして島の南岸ヌアヌの平地に位し、市街は緑樹の間に隠見して數里に亘り、港は吃水六米突以下の船舶に接觸するを許すも港口に沙洲の横はるを缺點とす、交通上の要地にして我が横濱を距ること三千四百四十裡に當れり、市内には電氣鐵道通じ電燈の使用あり。

ワキキ(Waikiki)はホノルルの南東にありてホノウリウリ(Honouliuli)は首都の北西に當れり。

モロカイ(Molokai)島(六六九方料)はオアフ島の南東、**ラナイ**(Lanai)島(三八九方料)の北に位して東西に狭長なり、本島は痲病患者の隔離所たり。

マウイ(Maui)島(一九六八方料)は**バイロロ**海峡と**アレヌイハハ**海峡との間に位置し不規則なる瓢形を呈す、首邑**ラヘイナ**は北西岸にありて**アウアウ**海峡に枕み砂糖、葡萄酒を集散す。

ハワイ島は**サンドキチ**諸島中の最南最大の島にして面積一萬一千方料を以て群島の三分の二を占む、**マウナケア**(Mauna Kea)白(山)は四二〇八米突

の海拔を有しオセアニア洲の最高峯と稱せらるるが島の北東部に位せり、**マウナロア**(Mauna Loa)火山は四一六八米突の直立と五千方料の基底とを有する大火山にして活動極めて盛なり、其の噴火口キラウエアは東面の臺地海拔一二三一米突の處にありて楕圓形を呈し十五方料の周圍三百米突の深き有せるが熔岩の活動は實に奇觀なり、首邑**ヒロ**(Hilo)は北東岸に位せる**ワイケア**灣に瀕し甘蔗の栽培地にあり、西岸に於ける**ケアラケア**(Kealahou)三灣はクックが殺されし處なり。

カウアイ(Kauai)島はオアフの北西百五十方料にあり、臺地的たる本島は**ハワイ**島に似たる所多きも火山に活動なく熔岩は既に肥沃の土に變じ了れり、本島の北西に當れる島嶼にして合衆國の勢力圏内に屬するものあり。

附記す**ジョンストン**島は**ハワイ**島の西方に位し、**エーク**(Wake)島と共に合衆國に屬せり、地積は合はせて四方料あるのみ。

中央諸島 中央諸島中の**ファンニング**(Fanning)諸島、六六八方料は**イギリス**に屬し、**ケアン**を産す**オーストラリア**、**カナダ**間の海底電線の中樞處を含む。

サモア諸島 **サモア**(Samoa)諸島、即航海者諸島、南緯十三度半乃至十

世界地理提要 おせあにあ洲 ポリネシア 三百三十五

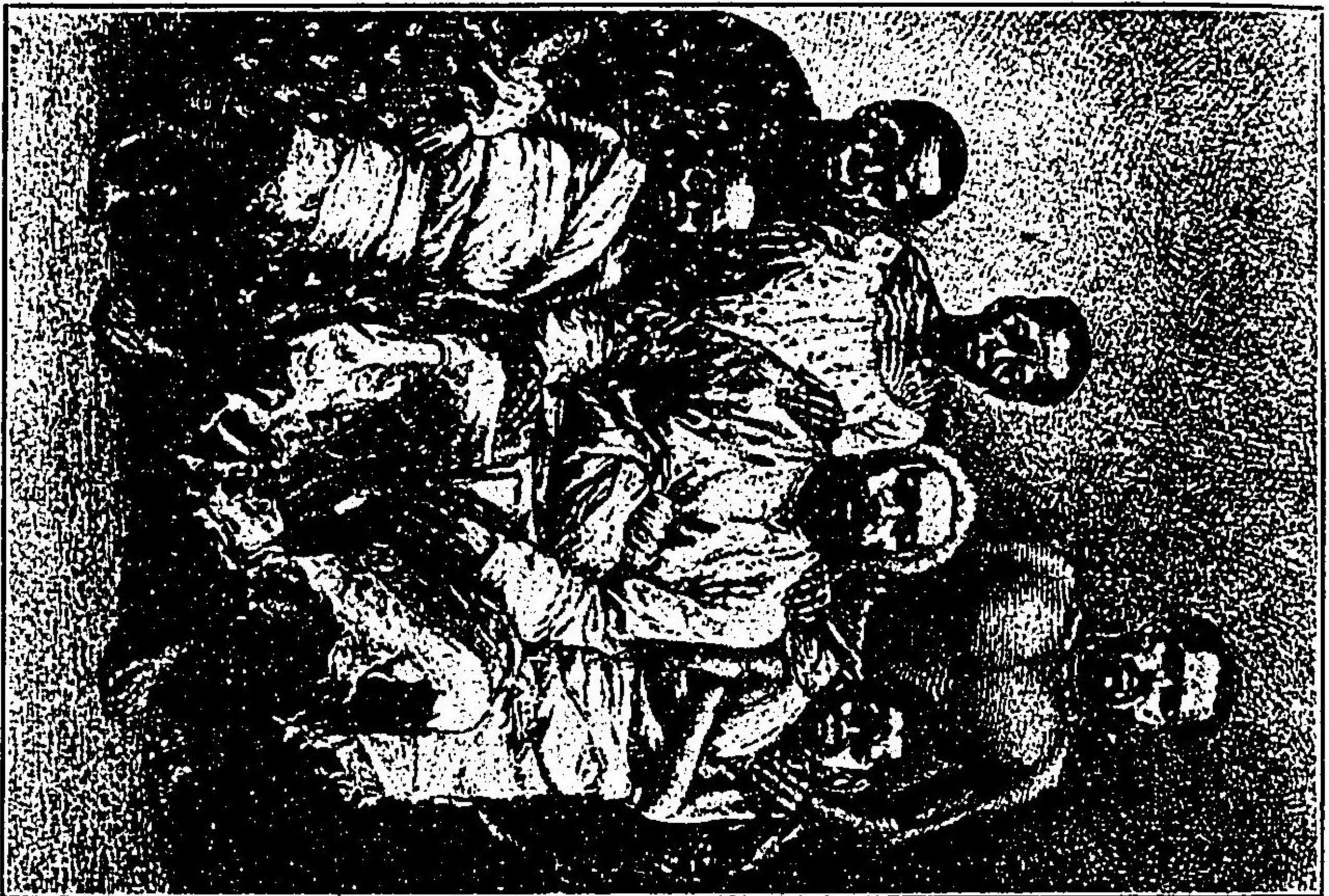
四度半、西經百六十八度乃至百七十三度に位し十四の島嶼より成れるが地積は合せて二千七百八十七方呎に達し南ポリネシアの諸島中首位を占む。本諸島はローズ島を除き其の他は火山質にして大抵珊瑚礁を繞らし小島は殊に肥沃なり三月乃至十一月は氣候の佳良なる季節なるが此の他にありては強風豪雨の屢來ることあり濕氣は概して多し。

人口は三萬六千餘あり漸次減少する土人はポリネシア派に屬し身長甚高し勇氣ありて威嚴を備へざるに非ざるも遊惰の風あるを免れず宗教はキリスト教を奉ずるも迷信少なからず。

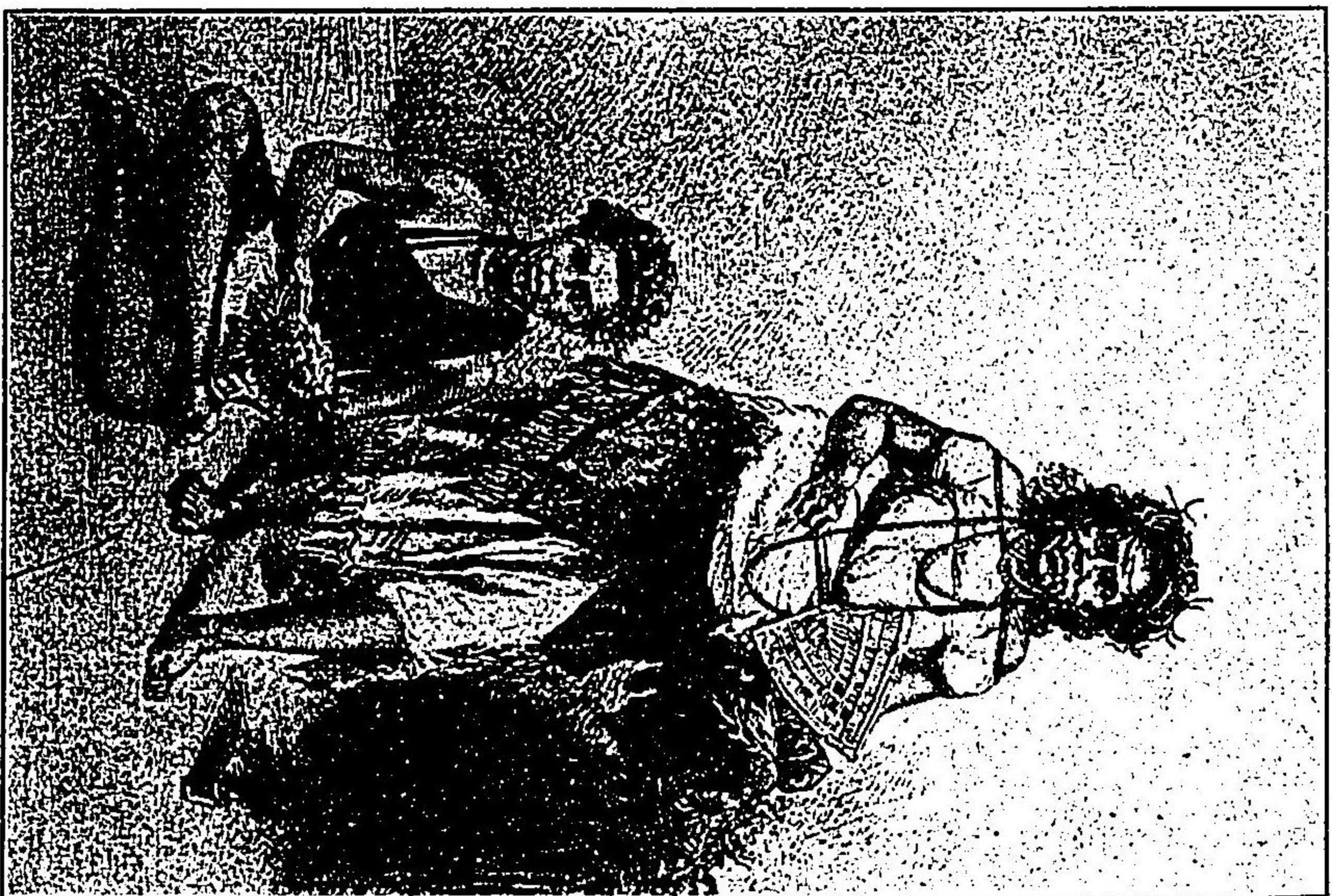
本群島は一千八百九十九年の條約に依り東經百七十一度の線を以て群島を二分しサバイ、ウボル并に屬島はドイツの有と成りツツイラ并にマヌア諸島はアメリカ領に歸したり。

ドイツ領

ドイツ領の二五八八方呎はサバイ(Savaii)島一七〇二方呎、ウボル、アポリマ島、マノノ島并に此の他の小嶼より成りサモア諸島の大部を占むるが行政上は知事の駐在するあり一九〇四年の輸出は「コブラ」其の他の四百萬「マル



フイサー島の貴族



サモア島の婦女

クにして輸入は五百八十萬マルクに近し。

ウポル(Ubol)島は東西に長くして其の面積サバイに劣るも地味の肥沃
なると住民の多きとは之に優りて蕪鬱たる森林を有せり、山岳は六百米突
に達す、アピア(Apia)南緯一七一三度五〇分は北岸にありて半圓形の一灣に瀕せ
るがドイツ領サモア政廳の所在地にして交通上の要區たり。

アメリカ領

アメリカ領四一九九方料はツツイラ、マヌア諸島等より成れり。

ツツイラ(Tutuila)島、一四〇〇方料は山岳を以て蔽はるるを以て直立の著しか
らざるに拘らず外觀は頗る壯大なり、海岸は屈曲に乏しからざるも珊瑚礁は
多からず、本島は群島中風色に富めりと稱せらるるが殊にバンゴバンゴ(Banango)は有名なり、此の地は南岸の峽灣に瀕して南洋最良の一港を有し海
軍の要地として知事駐在す。

トンガ諸島

トンガ(Tonga)諸島は一にフレンジー諸島と云ふ、ビチ

の東六百四十軒に位して百五十の島嶼より成り一千三十七方軒の面積
を有せり、各島は珊瑚礁を繞らし多くは平低なるも火山質のものも若干あ

世界地理提要

おせあにあ洲

ポリネシア

三百三十七